

科目名	キャリア教育 1	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	西片 悠人
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴8年(代表作品:GLAY「LOVE IS BEAUTIFUL」,かりゆし58「でーじ、かりゆし」)						
授業の学習 内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会(クラス)」のなかの役割のなかで主体的に行動できる人材育成を目指す。キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。「社会(クラス)」のなかで役割を見つける主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	クラスのノームの意識付けを行い「学生生活の基盤」を作る、クラス目標の作成を行う	配布プリントを記入し次回提出
2		講義	「主体性」：状況を読みとり自分のすべきことを見つけて行動することが出来るようになる	配布プリントを記入し次回提出
3		演習	起こり得る学校行事においての学生の状況やモチベーションを説明し、計画的に主体的行動がとれるよう考えさせる	配布プリントを記入し次回提出
4		講義	「傾聴力」：人の話を聞くことの重要性を知り、相手との信頼関係を作ることから仕事とは何かを知る	配布プリントを記入し次回提出
5		講義	「発信力」：伝える内容をわかりやすく伝える力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
6		演習	「傾聴力」「発信力」をワークショップ形式で実践させ講義で覚えるだけでなく行動出来るようにする	配布プリントを記入し次回提出
7		講義	イベントスタッフとしてで活動する上での言葉遣いやマナーを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
8		講義	学園祭やイベントを通じて自分自身の課題を発見し、解決していく力を養う	配布プリントを記入し次回提出
9		講義	日常スコアシートを用い、仕事の上での自分の特性を知り自己理解を深める	配布プリントを記入し次回提出
10		講義	「計画力」：計画的に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
11		演習	「実行力」：目標を設定して着実に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
12		講義	「課題発見力」：今の状況から課題を見つける力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
13		講義	夏休みに入るにあたり現場での態度・マナーや「明日への扉」について説明しやる気や成長に繋げる	配布プリントを記入し次回提出
14		実習	「明日への扉」の参加を通じてクラス・先輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
15		実習	「明日への扉」の参加を通じてクラス・先輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。		
【使用教科書・教材・参考書】				
個人作成プリント・日常スコアシート・学生サポートハンドブック				

科目名	キャリア教育 2	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	西片 悠人
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴8年(代表作:GLAY「LOVE IS BEAUTIFUL」,かりゆし58「でーじ、かりゆし」)						
授業の学習 内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 1年次後期では滋慶学園グループが必修で行っている「コミュニケーションスキルアップ検定」の問題内容を基に人間教育を行う。 また、キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。 コミュニケーションスキルアップ検定の合格。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	合同企業説明会を前にして仕事という理解を深めると共に社会の中での自分の役割とは何かを考える	配布プリントを記入し次回提出
2		演習	「チームワーク力」：現状と役割を理解して協力し合う大切さを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
3		演習	「働きかけ力」：自分から進んで取り組む力、チームワーク力と共に必要であることを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
4		演習	「創造力」：新しい価値を生み出す力をグループワークショップ方式で学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
5		講義	ジョブカードを用い、職業理解を深める	就職活動に挑戦したい企業一覧を記入し提出
6		演習	【履歴書の書き方】これまで取り組んできた学内イベントを整理し、自らの経験を伝えられるようになる	学校指定履歴書の学歴欄を記入し提出
7		演習	【履歴書の書き方】自分について伝えられるようになるため自己理解を深め客観視出来るようになる	学校指定履歴書の右欄を記入し提出
8		演習	【履歴書の書き方】ジョブカード作成内、自分の長所・短所が伝えられるようになる	授業に引き続きジョブカードの作成を行う
9		講義	コミュニケーションスキルアップ検定受験に伴う特別講義の実施(基本的対話スキルについて)	配布プリントを記入し次回提出
10		講義	コミュニケーションスキルアップ検定受験に伴う特別講義の実施(自己表現スキルについて)	配布プリントを記入し次回提出
11		講義	コミュニケーションスキルアップ検定受験に伴う特別講義の実施(社会的スキルについて)	配布プリントを記入し次回提出
12		講義	コミュニケーションスキルアップ検定受験に伴う特別講義の実施(サービスマインドについて)	配布プリントを記入し次回提出
13		試験	コミュニケーションスキルアップ検定試験の受験	本日の試験で出来なかった部分を各自復習
14		実習	進級制作展の参加を通じてクラス・他セクションとのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
15		実習	進級制作展の参加を通じてクラス・他セクションとのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				
個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック				

科目名	キャリア教育 3	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	西片 悠 人
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴8年(代表作:GLAY「LOVE IS BEAUTIFUL」,かりゆし58「でーじ、かりゆし」)						
授業の学習 内容	送達学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会(クラス)」のなかの役割のなかで主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		演習	クラスのノームの意識付けを行い「学生生活の基盤」を作る、クラス目標の作成を行う	配布プリントを記入し次回提出	
2		講義	「主体性」：状況を読みとり自分のすべきことを見つけて行動することが出来るようになる	配布プリントを記入し次回提出	
3		演習	起こり得る学校行事における学生の状況やモチベーションを説明し、計画的に主体的行動がとれるよう考えさせる	配布プリントを記入し次回提出	
4		講義	「傾聴力」：人の話を聞くことの重要性を知り、相手との信頼関係を作ることから仕事とは何かを知る	配布プリントを記入し次回提出	
5		講義	「発信力」：伝える内容をわかりやすく伝える力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出	
6		演習	「傾聴力」「発信力」をワークショップ形式で実践させ講義で覚えるだけでなく行動出来るようにする	配布プリントを記入し次回提出	
7		講義	イベントスタッフとして活動する上での言葉遣いやマナーを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出	
8		講義	学園祭やイベントを通じて自分自身の課題を発見し、解決していく力を養う	配布プリントを記入し次回提出	
9		講義	エンターテインメント業界で活躍している企業の方をお招きし、職種や働き方を学ぶ	本日の感想をレポートにて提出	
10		講義	「計画力」：計画的に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出	
11		演習	「実行力」：目標を設定して着実に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出	
12		講義	「課題発見力」：今の状況から課題を見つける力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出	
13		講義	夏休みに入るにあたり現場での態度・マナーや「明日への扉」について説明しやる気や成長に繋げる	配布プリントを記入し次回提出	
14		実習	「明日への扉」の参加を通じてクラス・後輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出	
15		実習	「明日への扉」の参加を通じてクラス・後輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出	
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。			
【使用教科書・教材・参考書】					
個人作成プリント・日常スコアシート・学生サポートハンドブック					

科目名	キャリア教育 4	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	西片 悠人
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴8年(代表作品:GLAY「LOVE IS BEAUTIFUL」,かりゆし58「でーじ、かりゆし」)						
授業の学習 内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会(クラス)」のなかの役割のなかで主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク」を理解する。 「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	合同企業説明会を前にして仕事という理解を深めると共に社会の中での自分の役割とは何かを考える	配布プリントを記入し次回提出
2		演習	「チームワーク力」：現状と役割を理解して協力し合う大切さを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
3		演習	「働きかけ力」：自分から進んで取り組む力、チームワーク力と共に必要であることを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
4		演習	「創造力」：新しい価値を生み出す力をグループワークショップ方式で学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
5		講義	ジョブカードを用い、職業理解を深める	就職活動に挑戦したい企業一覧を記入し提出
6		演習	【履歴書の書き方】これまで取り組んできた学内イベントを整理し、自らの経験を伝えられるようになる	学校指定履歴書の学歴欄を記入し提出
7		演習	【履歴書の書き方】自分について伝えられるようになるため自己理解を深め客観視出来るようになる	学校指定履歴書の右欄を記入し提出
8		演習	【履歴書の書き方】ジョブカード作成内、自分の長所・短所が伝えられるようになる	授業に引き続きジョブカードの作成を行う
9		講義	エンターテインメント業界で活躍している企業の方をお招きし、職種や働き方を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
10		講義	日常スコアシートを用い、仕事の上での自分の特性を知り自己理解を深める	配布プリントを記入し次回提出
11		講義	SMBCファイナンスの方をお招きし、マネー講座を開催、社会人になった時に掛かるお金について学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
12		講義	社会に出る際のビジネスマナー・身なり・挨拶の大切さを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
13		講義	社会に出る際のビジネスマナー・メールのやり取り・座席位置	本日の試験で出来なかった部分を各自復習
14		実習	進級制作展の参加を通じてクラス・他セクションとのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
15		実習	進級制作展の参加を通じてクラス・他セクションとのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	スタッフとして参加した経験をレポートにて提出
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。		
【使用教科書・教材・参考書】				
個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック				

科目名	キャリア教育 5	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	西片 悠人
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴8年(代表作品:GLAY「LOVE IS BEAUTIFUL」,かりゆし58「でーじ、かりゆし」)						
授業の学習 内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会(クラス)」のなかの役割のなかで主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	新社会人の心得ワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
2		演習	ハートビーイングワーク	七つの習慣の実践作業
3		演習	10年後の目標の立て方	キューブについて研究しレポートをまとめる。
4		演習	5年後の目標の立て方	新社会人の心得を使用し復習を行う。
5		演習	3年後の目標の立て方	セルフプレゼンテーション自主確認。
6		演習	自分の世界観をまとめていく方法	七つの習慣の実践作業
7		演習	キューブを使つてのコミュニケーションワーク	キューブについて研究しレポートをまとめる。
8		演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。
9		演習	パズルワーク	七つの習慣の実践作業
10		演習	自分の世界観をまとめていく方法	新社会人の心得を使用し復習を行う。
11		演習	キューブを使つてのコミュニケーションワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
12		演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。
13		演習	ハートビーイングワーク	セルフプレゼンテーション自主確認。
14		演習	新社会人の心得ワーク	新社会人の心得を使用し復習を行う。
15		演習	試験	振り返りとレポート作成
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				
個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック				

科目名	キャリア教育 6	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	西片 悠人
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 屋間部一	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴8年(代表作品:GLAY「LOVE IS BEAUTIFUL」,かりゆし58「でーじ、かりゆし」)						
授業の学習 内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会(クラス)」のなかの役割のなかで主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)	
1		演習	新社会人の心得ワーク		新社会人の心得を使用し復習を行う。	
2		演習	ハートビーイングワーク		七つの習慣の実践作業	
3		演習	10年後の目標の立て方		キューブについて研究しレポートをまとめる。	
4		演習	5年後の目標の立て方		新社会人の心得を使用し復習を行う。	
5		演習	3年後の目標の立て方		セルフプレゼンテーション自主確認。	
6		演習	自分の世界観をまとめていく方法		七つの習慣の実践作業	
7		演習	キューブを使ってのコミュニケーションワーク		キューブについて研究しレポートをまとめる。	
8		演習	アンケート形式、プレゼンテーション		セルフプレゼンテーション自主確認。	
9		演習	パズルワーク		七つの習慣の実践作業	
10		演習	自分の世界観をまとめていく方法		新社会人の心得を使用し復習を行う。	
11		演習	キューブを使ってのコミュニケーションワーク		新社会人の心得を使用し復習を行う。	
12		演習	アンケート形式、プレゼンテーション		セルフプレゼンテーション自主確認。	
13		演習	ハートビーイングワーク		セルフプレゼンテーション自主確認。	
14		演習	新社会人の心得ワーク		新社会人の心得を使用し復習を行う。	
15		演習	試験		振り返りとレポート作成	
2たん			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。			
【使用教科書・教材・参考書】						
個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック						

科目名	ミュージックセオリー 1	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 正村 恵由 小林 佳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 屋間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	
教員の略歴						
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。					
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲作曲や楽曲アレンジができるようになる。					
評価方法と基準	筆記による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	楽譜の歴史、五線譜、クレフを理解し説明できる。音名を理解し言える。	五線譜の各部名称とクレフ、音名を復習しレポート作成 五線に書かれた音符の音名と鍵盤の位置が一致出来るように復習復習しレポート作成
2		講義	音名、音符、休符を理解し言える。音符、休符を理解し説明できる。	音名、音符、休符の表し方と連符を復習しレポート作成、 音符、休符の表し方と連符を復習しレポート作成
3		講義	拍子、複合拍子を理解し説明できる。記譜法、臨時記号を理解し説明できる。	小節線、単純拍子、複合・混合拍子、タイについて復習し レポート作成
4		講義	反復記号を理解し説明できる。音程を理解し説明できる。	調号と臨時記号の区別、臨時記号の効力を学び正しい 楽譜が書けるよう復習しレポート作成、反復記号を学び、 音源を聴き楽譜を追えるよう復習しレポート作成
5		講義	音程を理解し説明できる。音程を理解し説明できる。	音程(度数の数え方、全音と半音)を復習しレポート作 成、音程(2.3.6.7度、# ♭あり)を復習しレポート作成
6		講義	メジャースケールを理解し説明できる。	メジャースケールの仕組みを復習し、復習しレポート作 成、5度圏を用い、調号を用いてスケールを書けるように し、実際に歌ったり楽器で復習しレポート作成
7		講義	マイナースケールを理解し説明できる。	調号を用いてナチュラルマイナースケールを復習しレ ポート作成、ハーモニックマイナー、メロディックマイナ ースケールを復習しレポート作成
8		講義	スコアリーディングを理解し説明できる。中間テスト	総復習をし、理解度を高めレポート作成
9		講義	奏法を理解しその説明ができる。近親調を理解しその説明ができる	省略記号、奏法記号、装飾記号を復習しレポート作成、 それぞれの調の関係性を理解し復習しレポート作成
10		講義	移調を理解しその説明ができる、トライアドを理解しその説明ができる	五線を用いて移調を理解し復習しレポート作成、コードの 概念とトライアドの構造をを理解し復習しレポート作成
11		講義	7thコードを理解しその説明ができる、7thコードの復習とdim7を理解しその説明ができる	トライアドの知識を踏まえ、7thコードに発展させることが 出来るようにしを復習し復習しレポート作成、トライアド、 7thコード、dimコードの構造をを復習し復習しレポート作 成
12		講義	転回形を理解しその説明ができる、その他のコードを理解しその説明ができる	転回形の表記方法を復習し、G-clefでの簡単なヴォイ シングが出来るようを理解し復習、add9、sus4、6thコードを 復習し実際に弾いてを理解し復習しレポート作成
13		講義	テンションを理解しその説明ができる	9th、11th、13thのテンションコードをを復習し復習しレ ポート9th、11th、13thのテンションコードをを復習し復習 しレポート作成
14		講義	スコアリーディングを理解しその説明ができる。まとめ、期末予備テスト	総復習をし、を理解し復習しレポート作成、復習、テスト 対策を行い期末テストに備える
15		講義	期末テスト、総復習	復習、テスト対策を行い期末テストに備える
準備学習 時間外学習			前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える	
【使用教科書・教材・参考書】ゼロから始める音楽理論」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部				

科目名	ミュージックセオリー 2	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 正村 恵由 小林 佳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	
教員の略歴						
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。					
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲作曲や楽曲アレンジができるようになる。					
評価方法と基準	筆記による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	前期の復習を理解し説明できる。メジャーダイアトニックコードを理解し説明できる。	MT I & II の内容を復習し、理解度を高めダイアトニックコードのコードネーム、ディグリーネームを復習し、理解度を高めレポート作成
2		講義	メジャーダイアトニックコードの機能を理解し説明できる。ドミナントモーションを理解し説明できる。	各機能の意味を理解し、主要和音(スリーコード)と代理和音を復習理解度を高めドミナントモーションを復習し、響きを聴いて理解度を高めレポート作成
3		講義	マイナーダイアトニックコードを理解し説明できる。	ダイアトニックコードの仕組みを五線譜に書けるよう理解度を高めマイナーダイアトニックコードの仕組みを五線譜に書けるよう理解度を高める
4		講義	マイナーダイアトニックコードの機能を理解し説明できる。	マイナーコードが持つ機能を理解し復習レポート作成、前回までのを理解し復習レポート作成
5		講義	ケーデンスを理解し説明できる。	終止形、ドミナントモーション、トゥーフアイブ、偽終止についてを理解し復習セカンダリドミナントについてを理解し復習レポート作成
6		講義	代理コード(裏コード)を理解し説明できる。定番コードパターンを理解し説明できる。	V7の代理コードを理解し、V7と代理コードを弾き比べてを理解し復習コードパターンを使って曲を作ってを理解し復習レポート作成
7		講義	クリシェを理解し説明できる。パッシングコードを理解し説明できる。	クリシェの手法を使ってアレンジしてを理解し復習レポート作成、パッシングの手法を使ってアレンジしてを理解し復習レポート作成
8		講義	代理コード(裏コードを含むダイアトニック外の代理コード)を理解し説明できる。借用和音を理解し説明できる。	メジャー、マイナーのダイアトニックコードの代理コードとダイアトニック外の代理コードを使ってを理解し復習レポート作成
9		講義	転調を理解し説明できる。アナライズを理解し説明できる。	転調のパターンを知り、実践を理解し復習楽譜と音源から楽曲分析を理解し復習レポート作成
10		講義	ヴォイスングを理解し説明できる。アベイラブルノートスケール(メジャー)を理解し説明できる。	ケーデンスを実際に5線に書けるようにするを理解し復習コードスケールを使ってフレーズを作ってを理解し復習レポート作成
11		講義	アベイラブルノートスケール(マイナー)を理解し説明できる。ドミナントスケールを理解し説明できる。	コードスケールを使ってフレーズを作ってを理解し復習V7に適したスケールを使ってフレーズを作ってを理解し復習レポート作成
12		講義	コードに適したスケールを理解し説明できる。その他のスケールを理解し説明できる。	それぞれのコードに適したスケールを使ってフレーズを作って理解し復習前回までに学んだスケール以外のスケールを使ってアレンジし理解し復習レポート作成
13		講義	スコアリーディングを理解し説明できる。	復習をしを理解し復習今までの内容を復習理解度を高める 期末テストを理解し復習レポート作成
14		講義	期末テスト	復習、テスト対策をし期末テストを振り返る。
15		講義	テスト返却と総復習	実際に楽譜を読み、自分なりに分析し、表現に繋げる応用力を身に付けレポート作成する。
準備学習 時間外学習			前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える	

【使用教科書・教材・参考書】ゼロから始める音楽理論」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部

科目名	イヤートレーニング 1	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	正村 恵 小林 佳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	音の歴史、モールズ信号、周波数、効果音について知る リズム打ち・書き取り方について知る 音の高低の判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるように理解しレポートにまとめる。
2		講義	4分音符、4分休符のリズム打ち 3拍子と4拍子のビート感覚を養う 2線紙を使って音の高低判定 2度音程を歌い音程感を身に付けを理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
3		講義	8分音符のリズム打ちと5線紙を使ってリズムの書き取り 3線紙を使って音の高低判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
4		講義	4分音符、4分休符、8分音符のリズム打ち、リズムの書き取り、5線紙を使ってメロディーの書き取り を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書き取り、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
5		講義	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
6		講義	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
7		講義	前回までの内容を復習すを理解し説明できる	今までの内容を復習し次回の授業に備える
8		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
9		講義	8分休符(裏打ち)のリズム打ち、書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
10		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
11		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
12		講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱、Major/minorのコード判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
13		講義	期末予備テスト	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
14		講義	期末テスト	テスト準備対策をする
15		講義	テスト返却、総復習	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
準備学習 時間外学習			前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える	
【使用教科書・教材・参考書】 「イヤートレーニング」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部(発売)				

科目名	イヤートレーニング 2	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	正村 恵 小林 佳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 屋間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	既習リズムを使ったリズム打ち・書き取り、6/8拍子のリズム打ち、メロディー書き取り(CMajor)、2声メロディー、音程ドリルを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるように確認理解しレポート作成
2		講義	リズム打ち・書き取り(C,G,Gを使って)、メロディー書き取り(Cminor、2声ハーモニー)、3度音程のハーモニー練習、音程ドリルを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習する確認理解しレポート作成
3		講義	リズム打ち・書き取り(C,G,Gを使って)、メロディー書き取り(Cminor)、3度音程の2声ハーモニー書き取り、音程ドリル コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習確認理解しレポート作成
4		講義	リズム打ち・書き取り(C,G,Gを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー) P4P5トライアートのハーモニー練習 コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書き取り、音程を復習確認理解しレポート作成
5		講義	リズム打ち・書き取り(C,G,Gを使って) メロディー書き取り(16分音符導入、Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
6		講義	リズム打ち・書き取り(C,G,Gを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
7		講義	リズム打ち・書き取り(C,G,Gを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	今までの内容を復習し次回の授業に備え確認理解しレポート作成
8		講義	リズム打ち・書き取り(C,G,G,Fを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取り、Ⅳ(Ⅱm)→Ⅴ-Ⅰの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
9		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー) オクターブとユニゾンのハーモニー練習 コードⅣ(Ⅱm)→Ⅴ-Ⅰの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
10		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅣ(Ⅱm)→Ⅴ-Ⅰの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
11		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー) オクターブとユニゾンのハーモニー練習 コードⅣ(Ⅱm)→Ⅴ-Ⅰの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
12		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅣ(Ⅱm)→Ⅴ-Ⅰの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
13		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅣ(Ⅱm)→Ⅴ-Ⅰの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
14		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅣ(Ⅱm)→Ⅴ-Ⅰの聴き分けを理解し説明ができる。	総復習を行い中間テストに備え確認理解しレポート作成
15		講義	中間テスト	総復習を確認理解しレポート作成
準備学習 時間外学習			前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える	
【使用教科書・教材・参考書】 「イヤートレーニング」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部(発売)				

科目名	音楽史 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	有馬知章
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	シンセサイザー教室講師、シンセサイザー・プログラマー、音楽プロデューサー、マルチメディアプロデューサーなど業界にて41年業務に従事します。						
授業の学習 内容	クラシック音楽と現代のポピュラー音楽はつながっている事を理解し、その時代背景を理解する。 クラシック音楽から音楽の形式、旋律を学び自分の音楽活動に活かす。DTMのツールで再生してみる。 音楽をジャンルで区別しないで、幅広く聴けるようになる事を望みます。 できるだけ沢山の楽曲を聴かせてクラシック音楽へのきっかけができるよう授業を進めます。						
到達目標	このコースの学習を終えた学生は 1. 西洋音楽の進化について深い理解を示すことができる 2. 聴く楽曲を分析することができ、その曲の歴史的な位置づけ・意味合いを理解することができる 3. 自分の作品と西洋音楽を何かしら深いレベルで結びつけることができる						
評価方法と基準	定期テスト:筆記試験100% ※筆記試験の得点に平常点を掛けて最終評価の点数とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	中世の音楽	中世の音楽 振り返りと自習。
2		講義	ルネサンス期の音楽	ルネサンス期の音楽 振り返りと自習。
3		講義	バロック期の音楽	バロック期の音楽 振り返りと自習。
4		講義	J.S.バッハの音楽	J.S.バッハの音楽 振り返りと自習。
5		講義	"クラシック音楽"の時代(ハイドン、モーツァルト)	"クラシック音楽"の時代(ハイドン、モーツァルト) 振り返りと自習。
6		講義	"クラシック音楽"の時代(ベートーベン)	"クラシック音楽"の時代(ベートーベン) 振り返りと自習。
7		講義	"クラシック音楽"の時代(ハプスブルグ家と音楽文化)	"クラシック音楽"の時代(ハプスブルグ家と音楽文化) 振り返りと自習。
8		講義	初期ロマン派の音楽(シューベルト、ベルリオールズ)	初期ロマン派の音楽(シューベルト、ベルリオールズ) 振り返りと自習。
9		講義	後期ロマン派の音楽(ワーグナー、マーラー)	後期ロマン派の音楽(ワーグナー、マーラー) 振り返りと自習。
10		講義	音楽の民主化 貴族や教会から市民へ	音楽の民主化 貴族や教会から市民へ 振り返りと自習。
11		講義	20世紀の音楽(ストラヴィンスキー、シェーンベルグ)	20世紀の音楽(ストラヴィンスキー、シェーンベルグ) 振り返りと自習。
12		講義	現代の芸術音楽	現代の芸術音楽 振り返りと自習。
13		講義	試験	
14		講義	前期を総括してのレポートテーマ作成	
15		講義	前期を総括してのレポートまとめ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	音楽史 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	有馬知章
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	シンセサイザー教室講師、シンセサイザー・プログラマー、音楽プロデューサー、マルチメディアプロデューサーなど業界にて41年業務に従事します。						
授業の学習 内容	この授業では、ポップ・ロックミュージックの起りから現代まで、その発達の歴史を深く学びます。						
到達目標	このコースの学習を終えた学生は 1. 時代の流れに沿った、ロック・ポップスの発達を『深く知っている 2. 自分たちの作り出す音楽と、ロック・ポップスの歴史・進化を結び付け評価することができる 3. アメリカにおけるポピュラーミュージックの位置づけを、概観することができる。						
評価方法と基準	定期テスト:筆記試験100% ※筆記試験の得点に平常点を掛けて最終評価の点数とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	ロックミュージックのルーツ	ロックミュージックのルーツ 振り返りと自習。
2		講義	20世紀初期のポピュラーミュージック	20世紀初期のポピュラーミュージック 振り返りと自習。
3		講義	ロックンロールの誕生	ロックンロールの誕生 振り返りと自習。
4		講義	フォークミュージックの再燃と公民権運動	フォークミュージックの再燃と公民権運動 振り返りと自習。
5		講義	イギリス・ポップミュージックの台頭	イギリス・ポップミュージックの台頭 振り返りと自習。
6		講義	フラワームーヴメント	フラワームーヴメント 振り返りと自習。
7		講義	パンクロック。ニューウェイブ	パンクロック。ニューウェイブ 振り返りと自習。
8		講義	MTVの時代	MTVの時代 振り返りと自習。
9		講義	ソウルミュージックとロック	ソウルミュージックとロック 振り返りと自習。
10		講義	テクノポップからハウスミュージック	テクノポップからハウスミュージック 振り返りと自習。
11		講義	ダンス音楽	ダンス音楽 振り返りと自習。
12		講義	ヒップホップの誕生	ヒップホップの誕生 振り返りと自習。
13		講義	試験	
14		講義	後期を総括してのレポートテーマ作成	
15		講義	後期を総括してのレポートまとめ	
準備学習 時間外学習				

科目名	セルフプロデュース Basic 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	石井伸昂 高橋 涼
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部ー	授業 形態	講義・実習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、乃木坂46のようなアイドルからアニメ主題歌(デートアライブ)などメジャー作品を制作。講師歴は5年以上						
授業の学習 内容	セルフプロデュースの観点から、プリプロダクションレベルのクオリティーの楽曲制作能力を身につけます。 音楽理論に基づいた作曲法や、DAWソフトを使用する際の打ち込み、各種ソフトウェアの効果的な使用方法などを学ぶ						
到達目標	各種DAWソフトの基礎を理解し、打ち込み、レコーディングを用いて、自らが決めたテーマとユーザーのニーズを想定して自由に楽曲制作できるようにする						
評価方法と基準	試験に行うワンコーラス以上のデモ制作=60%、授業評価(出席率込み)=40%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義	オリエンテーション及び個人面談 授業テーマや各々の到達目標の共有			
2		講義と実習	DTMテクニック① ドラムベースの打ち込みテクニック習得	自宅学習にて振り返り90分以上		
3		講義と実習	「楽曲制作実習①」 オリジナルまたはコピーにてテーマコンセプト及びスケジュールリング作成	自宅学習にて振り返り90分以上		
4		実習	制作作業日	自宅学習にて振り返り90分以上		
5		実習	制作作業日	自宅学習にて振り返り90分以上		
6		実習	プレゼンテーション① ～フィードバック～	自宅学習にて振り返り90分以上		
7		講義	デジタルマーケティング及びYouTubeやSNSを活用したセルフプロデュースについて	自宅学習にて振り返り90分以上		
8		講義と実習	「楽曲制作実習②」 オリジナルまたはコピーにてテーマコンセプト及びスケジュールリング作成	自宅学習にて振り返り90分以上		
9		実習	制作作業日	自宅学習にて振り返り90分以上		
10		実習	制作作業日	自宅学習にて振り返り90分以上		
11		実習	プレゼンテーション② ～フィードバック～	自宅学習にて振り返り90分以上		
12		講義と実習	楽曲制作前期課題 コンセプトワーク	自宅学習にて振り返り90分以上		
13		試験	楽曲制作前期課題 プレゼンテーション	自宅学習にて振り返り90分以上		
14		講義と実習	ミュージカルを想定したSEの制作	ミュージカルを想定したSEの制作に伴う創作活動		
15		講義と実習	ミュージカルを想定した30～60秒サイズのBGMの制作	ミュージカルを想定した30～60秒サイズのBGMの制作に伴う創作活動		
準備学習 時間外学習						

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	セルフプロデュース Basic 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	石井伸昂 高橋 涼
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部ー	授業 形態	講義・実習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、乃木坂46のようなアイドルからアニメ主題歌(デートアライブ)などメジャー作品を制作。講師歴は5年以上						
授業の学習 内容	セルフプロデュースの観点から、プリプロダクションレベルのクオリティーの楽曲制作能力を身につけます。 音楽理論に基づいた作編曲法や、DAWソフトを使用する際の打ち込み、各種ソフトウェアの効果的な使用方法などを学ぶ						
到達目標	各種DAWソフトの基礎を理解し、打ち込み、レコーディングを用いて、自らが決めたテーマとユーザーのニーズを想定して自由に楽曲制作できるようにする						
評価方法と基準	試験に行うワンコーラス以上のデモ制作=60%、授業評価(出席率込み)=40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義と実習	アレンジメントに於けるテクニック ミックス・マスタリングについて	自宅学習にて振り返り90分以上
2		講義と実習	DTMテクニック② 弦楽器の打ち込みテクニック習得	自宅学習にて振り返り90分以上
3		講義と実習	「楽曲制作実習③」 オリジナルまたはコピーにてテーマコンセプト及びスケジューリング作成	自宅学習にて振り返り90分以上
4		実習	制作作業日	自宅学習にて振り返り90分以上
5		実習	制作作業日	自宅学習にて振り返り90分以上
6		実習	プレゼンテーション③ ～フィードバック～	自宅学習にて振り返り90分以上
7		講義	デジタルマーケティング及びYouTubeやSNSを活用したセルフプロデュースについて	自宅学習にて振り返り90分以上
8		講義と実習	「楽曲制作実習④」 オリジナルまたはコピーにてテーマコンセプト及びスケジューリング作成	自宅学習にて振り返り90分以上
9		実習	制作作業日	自宅学習にて振り返り90分以上
10		実習	制作作業日	自宅学習にて振り返り90分以上
11		実習	プレゼンテーション④ ～フィードバック～	自宅学習にて振り返り90分以上
12		講義と実習	楽曲制作前期課題 コンセプトワーク	自宅学習にて振り返り90分以上
13		試験	楽曲制作前期課題 プレゼンテーション	自宅学習にて振り返り90分以上
14		講義と実習	卒業進級制作展を想定したSEの制作	卒業進級制作展を想定したSEの制作に伴う創作活動
15		講義と実習	卒業進級制作展を想定した30～60秒サイズのBGMの制作	卒業進級制作展を想定した30～60秒サイズのBGMの制作に伴う創作活動
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	音響基礎知識 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	家守久雄
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴38年						
授業の学習 内容	レコーディングエンジニアとしての技術的な知識だけでなく、音響理論、スタジオアコースティック、楽器や楽譜などの音楽的な知識を総合的に身につけさせる。						
到達目標	日本音楽スタジオ協会が行うサウンドレコーディング技術認定試験に向けての音響技術と知識の習得を目指す						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記60% 実技40%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	音についての基礎的な知識習得	音についての基礎的な知識習得 振り返りとJAPRSテキストを使用する自習及びテスト対策
2		講義	音の伝達 基礎知識学習	音の伝達 基礎知識学習 振り返りとJAPRSテキストを使用する自習及びテスト対策
3		講義	音響物理 基礎知識学習	音響物理 基礎知識学習 振り返りとJAPRSテキストを使用する自習及びテスト対策
4		講義	音響物理 基礎知識学習	音響物理 基礎知識学習 振り返りとJAPRSテキストを使用する自習及びテスト対策
5		講義	電気の基礎知識学習	電気の基礎知識学習 振り返りとJAPRSテキストを使用する自習及びテスト対策
6		講義	スタジオ設計の理解	スタジオ設計の理解 振り返りとJAPRSテキストを使用する自習及びテスト対策
7		講義	スタジオシステム 機器の学習	スタジオシステム 機器の学習 振り返りとJAPRSテキストを使用する自習及びテスト対策
8		講義	マイクロフォンの構造機能学習	マイクロフォンの構造機能学習 振り返りとJAPRSテキストを使用する自習及びテスト対策
9		講義	調整卓 回路の基礎知識学習	調整卓 回路の基礎知識学習 振り返りとJAPRSテキストを使用する自習及びテスト対策
10		講義	アウトボードの使用法学習	アウトボードの使用法学習 振り返りとJAPRSテキストを使用する自習及びテスト対策
11		講義	アナログ機器の調整法学習	アナログ機器の調整法学習 振り返りとJAPRSテキストを使用する自習及びテスト対策
12		試験	オーケストラの録音法学習	オーケストラの録音法学習 振り返りとJAPRSテキストを使用する自習及びテスト対策
13		講義	ボーカルレコーディング実習	ボーカルレコーディング実習 振り返りとJAPRSテキストを使用する自習及びテスト対策
14		講義と演習	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	ミュージカルのライブレコーディングのセッション作成について 振り返りと自習
15		講義と演習	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習 時間外学習			JAPRSテキストでの予習	
【使用教科書・教材・参考書】 JAPRSテキスト 問題集				

科目名	音響基礎知識 2	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	家守久雄
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴38年						
授業の学習 内容	レコーディングエンジニアとしての技術的な知識だけでなく、音響理論、スタジオアコースティック、楽器や楽譜などの音楽的な知識を総合的に身につけさせる。						
到達目標	日本音楽スタジオ協会が行うサウンドレコーディング技術認定試験に向けての音響技術と知識の習得を目指す						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記60% 実技40%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	ドラムレコーディング法を習得		ドラムレコーディング法を習得 振り返りと自習
2		講義	PloToolsの操作法を習得		PloToolsの操作法を習得 振り返りと自習
3		講義	MixDownについての知識と理解、セッティングの重要性と方法について		MixDownについての知識と理解、セッティングの重要性と方法について、振り返りと自習
4		講義	MixDownについての知識と理解、MixDownのフローに		MixDownについての知識と理解、MixDownのフローについて、振り返りと自習
5		講義	音楽素材の編集技術の習得		音楽素材の編集技術の習得 振り返りと自習
6		講義	マスタリングの技術習得		マスタリングの技術習得 振り返りと自習
7		講義	様々な楽器の録音技術習得		様々な楽器の録音技術習得 振り返りと自習
8		講義	音楽理論と楽器の録音法習得		音楽理論と楽器の録音法習得 振り返りと自習
9		講義	テキストのまとめによる復習		テキストのまとめによる復習 振り返りと自習
10		講義	MixDown実習によるコンプレッサー処理の技術習得		MixDown実習によるコンプレッサー処理の技術習得 振り返りと自習
11		講義	MixDown実習によるイコライザー処理の技術習得		MixDown実習によるイコライザー処理の技術習得 振り返りと自習
12		試験	試験による学習内容のまとめ		試験による学習内容のまとめ 振り返りと自習
13		講義	MixDown実習による空間表現の技術習得		MixDown実習による空間表現の技術習得 振り返りと自習
14		講義と演習	卒業進級制作のライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について		卒業進級制作のライブレコーディングに向けたシステム構築及びProToolsセッション作成について 振り返りと自習
15		講義と演習	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について		卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習 時間外学習			JAPRSテキストでの予習		
【使用教科書・教材・参考書】 JAPRSテキスト 問題集					

科目名	Xcodeアプリ制作Basic 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	有馬知章
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	シンセサイザー教室講師、シンセサイザー・プログラマー、音楽プロデューサー、マルチメディアプロデューサーなど業界にて41年業務に従事します。						
授業の学習 内容	MacOS,iOS,iPadOS向けのアプリ開発に必要な基本概念の理解 Xcodeという開発ソフトの基本操作の理解と実践 プログラミング言語の理解						
到達目標	iOSアプリ創作が出来る						
評価方法と基準	定期テスト・試験100% ※筆記試験の得点に平常点を掛けて最終評価の点数とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	Xcodeの基礎理解とプログラミングとは	Xcodeの基礎理解とプログラミングとは 時間外学習としてメモノートのまとめ
2		講義・演習	Xcodeの導入 AppStoreからのインストール	Xcodeの導入 AppStoreからのインストール 時間外学習としてメモノートのまとめ
3		講義・演習	Xcodeの導入 プロジェクトの作り方	Xcodeの導入 プロジェクトの作り方 時間外学習としてメモノートのまとめ
4		講義・演習	Xcodeのメニューの見方 ツールバーについて	Xcodeのメニューの見方 ツールバーについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
5		講義・演習	Xcodeのメニューの見方 ナビゲーターエリアについて	Xcodeのメニューの見方 ナビゲーターエリアについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
6		講義・演習	Xcodeのメニューの見方 エディターエリアについて	Xcodeのメニューの見方 エディターエリアについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
7		講義・演習	Xcodeのメニューの見方 デバッグエリアについて	Xcodeのメニューの見方 デバッグエリアについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
8		講義・演習	Xcodeのメニューの見方 ユーティリティエリアについて	Xcodeのメニューの見方 ユーティリティエリアについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
9		講義・演習	Xcodeの基本的使い方 ストーリーボードについて	Xcodeの基本的使い方 ストーリーボードについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
10		講義・演習	Xcodeの基本的使い方 エディターについて	Xcodeの基本的使い方 エディターについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
11		講義・演習	Xcodeの基本的使い方 シミュレーターについて	Xcodeの基本的使い方 シミュレーターについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
12		講義・演習	これまでの総括と振り返り	
13		テスト	理解度テスト	
14		実習	振り返りレポート作成	
15		実習	振り返りフィードバックとプログラミング言語のイントロダクション	
準備学習 時間外学習				

科目名	Xcodeアプリ制作Basic 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	有馬知章
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	シンセサイザー教室講師、シンセサイザー・プログラマー、音楽プロデューサー、マルチメディアプロデューサーなど業界にて41年業務に従事します。						
授業の学習 内容	MacOS,iOS,iPadOS向けのアプリ開発に必要な基本概念の理解 Xcodeという開発ソフトの基本操作の理解と実践 プログラミング言語の理解						
到達目標	iOSアプリ創作が出来る						
評価方法と基準	定期テスト・試験100% ※筆記試験の得点に平常点を掛けて最終評価の点数とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	プログラミング言語の基本概念と理解①	プログラミング言語の基本概念と理解① 時間外学習としてメモノートのまとめ
2		講義	プログラミング言語の基本概念と理解②	プログラミング言語の基本概念と理解② 時間外学習としてメモノートのまとめ
3		講義・演習	プログラミング言語 Objective-Cについて①	プログラミング言語 Objective-Cについて① 時間外学習としてメモノートのまとめ
4		講義・演習	プログラミング言語 Objective-Cについて②	プログラミング言語 Objective-Cについて② 時間外学習としてメモノートのまとめ
5		講義・演習	プログラミング言語 C言語について①	プログラミング言語 C言語について① 時間外学習としてメモノートのまとめ
6		講義・演習	プログラミング言語 C言語について②	プログラミング言語 C言語について② 時間外学習としてメモノートのまとめ
7		講義・演習	プログラミング言語 C++について①	プログラミング言語 C++について① 時間外学習としてメモノートのまとめ
8		講義・演習	プログラミング言語 C++について②	プログラミング言語 C++について② 時間外学習としてメモノートのまとめ
9		講義・演習	プログラミング言語 Javaについて①	プログラミング言語 Javaについて① 時間外学習としてメモノートのまとめ
10		講義・演習	プログラミング言語 Javaについて②	プログラミング言語 Javaについて② 時間外学習としてメモノートのまとめ
11		講義・演習	プログラミング言語 AppleScriptについて①	プログラミング言語 AppleScriptについて① 時間外学習としてメモノートのまとめ
12		講義・演習	プログラミング言語 AppleScriptについて②	プログラミング言語 AppleScriptについて② 時間外学習としてメモノートのまとめ
13		講義・演習	プログラミング言語 Swiftについて①	プログラミング言語 Swiftについて① 時間外学習としてメモノートのまとめ
14		講義・演習	プログラミング言語 Swiftについて②	プログラミング言語 Swiftについて② 時間外学習としてメモノートのまとめ
15		テスト	iOSアプリの自由創作	振り返りレポートのまとめ
準備学習 時間外学習				

科目名	DJパフォーマンスBasic 1-1	必修 選択	年次	1	担当教員 DJ Mai-My
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	総時間 (単位)	30 2単位	
教員の略歴	過去に1000店舗を超える国内外のCLUBで4000回以上のDJを行って来た実力派フェイェードDJ。あらゆるダンスミュージックを機軸曲集にキックスし、約3000曲を曲集に書き出すスキルとセンスは他の女性DJと一線を画す。歴任も多数のDJフェスティバルをやら、自身の有能なDJパフォーマンスで知られ業界内外で賞賛と理解を得る。イベント系主催のフェスティバル「フュー-DJ、OCTAGON九条、TK渋谷、CAMELOT渋谷、ESPRET TOKYO/六本木、JEMAN渋谷、LAPIS銀座など出演多数。				
授業の学習内容	DJのパフォーマンス技術を習得する為に、最新のソフトウェアや機材の操作の理解、楽曲の理解およびセレクト、スクラッチ技術などを学習する。				
到達目標	DJとしてイベントに出演、ステージパフォーマンスの経験を積む。				
評価方法及び基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)				

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	個人面談 目標や方向性に合わせた指導プラン構築のため、カウンセリングを重ねた面談を実施。		
2		演習	機材に慣れる ・VINYLモードとCDJモードについて ・CUEポイントの作り方(送出しの仕方)、BPMの読み取り、フェードイン、フェードアウト、カットイン、カットアウトなど初歩的な技術を使って機材に慣れる。		時間外学習として復習90分取り組む
3		演習	曲と曲を正確に合わせる② サンプルODを使って、キック、BPM、ピッチを正確に合わせる		時間外学習として復習90分取り組む
4		演習	曲と曲を正確に合わせる④ サンプルODを使って、キック、BPM、ピッチを正確に合わせる		時間外学習として復習90分取り組む
5		演習	MIX講習① 1ミキサーのチャンネル、レベルメーター、トリム、EQの説明 2Master Tempo(BPM)の計算方法 3フェーダーのみでMIX 4Lowカットを使ってMIX 5Highカットを使ってMIX		時間外学習として復習90分取り組む
6		演習	MIX講習③ 1ミキサーのチャンネル、レベルメーター、トリム、EQの説明 2Master Tempo(BPM)の計算方法 3フェーダーのみでMIX 4Lowカットを使ってMIX 5Highカットを使ってMIX		時間外学習として復習90分取り組む
7		演習	【前期中間テスト】 30分セットを作る実践		時間外学習として復習90分取り組む
8		演習	30分セットを作る Season2 ② A MXポイントを読みながらセットを作る。 B 選曲の仕方を読みながらセットを作る。 C ロングミックスを読みながらセットを作る。		時間外学習として復習90分取り組む
9		演習	30分セットを作る Season3 ② A MXポイントを読みながらセットを作る。 B 選曲の仕方を読みながらセットを作る。 C ロングミックスを読みながらセットを作る。		時間外学習として復習90分取り組む
10		演習	RecordBox講習 ② ・ODJBS PGDJとの違いについて、RecordBoxを使うメリットについて 4メディアマネジメント 5インポート機能が壊れた楽曲 6iTunesと連携したSync Manager		時間外学習として復習90分取り組む
11		講義	DJの歴史について		時間外学習として復習90分取り組む
12		演習	60分セットを作る② A MXポイントを読みながらセットを作る。 B 選曲の仕方を読みながらセットを作る。 C ロングミックスを読みながらセットを作る。		時間外学習として復習90分取り組む
13		演習	60分セットを作る④ A MXポイントを読みながらセットを作る。 B 選曲の仕方を読みながらセットを作る。 C ロングミックスを読みながらセットを作る。		時間外学習として復習90分取り組む
14		演習	選曲制作イベントへの出演に向けた60分セットの作成①		時間外学習として復習90分取り組む
15		演習	選曲制作イベントへの出演に向けた60分セットの作成③		時間外学習として復習90分取り組む
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	DJパフォーマンスBasic 2-1	必修 選択	年次	1	担当教員 DJ Mai-My
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	総時間 (単位)	30 2単位	
教員の略歴	過去に100店舗を超える国内外のCLUBで4000回以上のDJを行って来た実力派DJ。DJとして、最新のソフトウェアや機材の操作の理解、楽曲の理解およびセレクト、スクラッチ技術などを学習する。				
授業の学習内容	DJのパフォーマンス技術を習得する為に、最新のソフトウェアや機材の操作の理解、楽曲の理解およびセレクト、スクラッチ技術などを学習する。				
到達目標	DJとしてイベントに出演、ステージパフォーマンスの経験を積む。				
評価方法及び基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)				

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	個人面談 目標や方向性にあわせた指導プラン構築のため、カウンセリングを重ねた面談を実施。		
2		演習	機材に慣れる ・VINYLモードとCDJモードについて ・CUEポイントの作り方(送出しの仕方)、BPMの説明、フェードイン、フェードアウト、カットイン、カットアウトなど初歩的な技術を使って機材に慣れる。		時間外学習として復習90分取り組む
3		演習	曲と曲を正確に合わせる② サンプルODを使って、キック、BPM、ピッチを正確に合わせる		時間外学習として復習90分取り組む
4		演習	曲と曲を正確に合わせる④ サンプルODを使って、キック、BPM、ピッチを正確に合わせる		時間外学習として復習90分取り組む
5		演習	MIX講習① 1ミキサーのチャンネル、レベルメーター、トリム、EQの説明 2Master Tempo(BPM)の計算方法 3フェーダーのみでMIX 4Lowカットを使ってMIX 5Highカットを使ってMIX		時間外学習として復習90分取り組む
6		演習	MIX講習③ 1ミキサーのチャンネル、レベルメーター、トリム、EQの説明 2Master Tempo(BPM)の計算方法 3フェーダーのみでMIX 4Lowカットを使ってMIX 5Highカットを使ってMIX		時間外学習として復習90分取り組む
7		演習	【前期中間テスト】 30分セットを作る実践		時間外学習として復習90分取り組む
8		演習	30分セットを作る Season2 ② A MIXポイントを読みながらセットを作る。 B 選曲の仕方を読みながらセットを作る。 C ロングミックスを読みながらセットを作る。		時間外学習として復習90分取り組む
9		演習	30分セットを作る Season3 ② A MIXポイントを読みながらセットを作る。 B 選曲の仕方を読みながらセットを作る。 C ロングミックスを読みながらセットを作る。		時間外学習として復習90分取り組む
10		演習	RecordBox講習 ② ・OD/USB/PCDJとの違いについて、RecordBoxを使うメリットについて 4メディアマネジメント 5インポート/編曲が終わった楽曲 6iTunesと連携したSync Manager		時間外学習として復習90分取り組む
11		講義	DJの歴史について		時間外学習として復習90分取り組む
12		演習	60分セットを作る② A MIXポイントを読みながらセットを作る。 B 選曲の仕方を読みながらセットを作る。 C ロングミックスを読みながらセットを作る。		時間外学習として復習90分取り組む
13		演習	60分セットを作る④ A MIXポイントを読みながらセットを作る。 B 選曲の仕方を読みながらセットを作る。 C ロングミックスを読みながらセットを作る。		時間外学習として復習90分取り組む
14		演習	選曲制作イベントへの出演に向けた60分セットの作成①		時間外学習として復習90分取り組む
15		演習	選曲制作イベントへの出演に向けた60分セットの作成③		時間外学習として復習90分取り組む
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	DJパフォーマンスBasic 2-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 DJ Mai-My
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	30 2単位	
教員の略歴	過去に100店舗を超える国内のCLUBで4000時間以上のDJを行って来た実力派フェイェルDJ。あらゆるダンスミュージックを得意ジャンルにキックス。約20種を得意ジャンルに得意出すスキルとセンスは他の女性DJとは一線を画す。歴任多数のDJフェスティバルを主催。自身の有線DJパフォーマンス配信は本場最速と好評である。イベント主催er-nation 全国ツアーノブア-DJ、OCTAGON九州、TK渋谷、CAMELOT渋谷、ESPIRET TOKYO/熊本、JEMAN渋谷等、LAPS銀座など出演多数。					
授業の学習内容	DJのパフォーマンス技術を習得する為に、最新のソフトウェアや機材の操作の理解、楽曲の理解およびセレクト、スクラッチ技術などを学習する。					
到達目標	DJとしてイベントに出演、ステージパフォーマンスの経験を積む。					
評価方法及び基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)					

授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)	
1		講義	楽曲の入手法 代表的なダウンロードサイト(DJ City)より入手する。 楽曲の管理について ・音楽ファイルの種類の説明 ・BPM ・ビットレート		時間外学習として復習90分取り組む	
2		演習	曲と曲を正確に合わせる① サンプルODを使って、キック、BPM、ピッチを正確に合わせる		時間外学習として復習90分取り組む	
3		演習	曲と曲を正確に合わせる② サンプルODを使って、キック、BPM、ピッチを正確に合わせる		時間外学習として復習90分取り組む	
4		演習	曲の構成についての説明 ・講師がアナライズした楽曲から生徒がセレクト ・つなぐポイントを理論的に説明(小節、良など) サンプルODからジャンルごとに10曲セレクト		時間外学習として復習90分取り組む	
5		演習	MIX講習② 1ミキサーのチャンネル、レベルメーター、トリム、EQの説明 2Master Tempo(BPM)の計算方法 3フェーダーのみでMIX 4Lowカットを使ってMIX 5Highカットを使ってMIX		時間外学習として復習90分取り組む	
6		演習	30分セットを作る Season1 A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 連曲の仕方学びながらセットを作る。 C ロングミックスを学びながらセットを作る。		時間外学習として復習90分取り組む	
7		演習	30分セットを作る Season2 ① A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 連曲の仕方学びながらセットを作る。 C ロングミックスを学びながらセットを作る。		時間外学習として復習90分取り組む	
8		演習	30分セットを作る Season3 ① A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 連曲の仕方学びながらセットを作る。 C ロングミックスを学びながらセットを作る。		時間外学習として復習90分取り組む	
9		演習	RecordBox講習 ① ・DD USB PODJとの違いについて。RecordBoxを使うメリットについて 1ファイルマネジメント 2最初のセットアップ(各種モードの説明) 3プレイリストの作成		時間外学習として復習90分取り組む	
10		演習	トライアルレッスン		時間外学習として復習90分取り組む	
11		演習	60分セットを作る① A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 連曲の仕方学びながらセットを作る。 C ロングミックスを学びながらセットを作る。		時間外学習として復習90分取り組む	
12		演習	60分セットを作る② A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 連曲の仕方学びながらセットを作る。 C ロングミックスを学びながらセットを作る。		時間外学習として復習90分取り組む	
13		演習	Back to Backについて ・共同プレイおよびパフォーマンスにおけるシステムの理解と実践。		時間外学習として復習90分取り組む	
14		演習	選級制作イベントへの出演に向けた60分セットの作成②		時間外学習として復習90分取り組む	
15		実習	選級制作イベント本番		時間外学習として復習90分取り組む	
準備学習 時間外学習						
【使用教科書・教材・参考書】						

科目名	PCスキルアップ1	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	唐澤 淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 屋間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務						
授業の学習 内容	Excelを中心に基本的な使い方から、現場で役立つ応用まで1年かけて身につけていく。 Microsoftの検定を取れるようにするのではなく、あくまでも業界でよく使われたり役立つ部分に特化して即戦力を目指してスキルを身に付けます。 現在の就職におけるパソコンスキルは必須となっており、またその求められるレベルは年々上がってきています。テクノロジーの進化と最新のソフトウェアにも対応が求められるため、習得すべきスキルは多いのですが、エンタメ業界で働く上で最低限のスキルを効率よく習得できるように授業は進めていきます。						
到達目標	以下の3点が達成出来るようになることを目標としている。 (1)Excelの基本的な使い方(表のデザイン、計算式)を身につける。 (2)PowerPointの基本的な使い方を身につけプレゼンテーションスキルを上げる。 (3)Wordの基本的な使い方を身につける。						
評価方法と基準	1. レポート提出(%) : 50% 2. 筆記課題(%) : 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	WindowsとMacの違いを理解する。ショートカットキーが使えるようになる。	キーボード配列を覚える。ショートカットを覚える。
2	講義	【Excel】罫線について、表の作り方を理解する。	セルの仕組みを覚え、エクセルの基本操作を覚えることを目標に提示した課題の表を作成する。
3	講義	【Excel】表の作り方/タイムテーブルの横軸が作成出来るようになる。	授業内課題を30分以内で作れることを目標に提示した課題の表を作成する。
4	講義	【Excel】表の作り方/タイムテーブルの縦軸が作成出来るようになる。	授業内課題を30分以内で作れることを目標に提示した課題の表を作成する。
5	講義	【Excel】表と計算式/動員集計表を理解する。	計算式の仕組みを覚えることを目標に提示した課題の表を作成する。
6	講義	【Excel】表と計算式/動員集計表が作成出来るようになる。	授業内課題を45分以内で作れるようにすることを目標に提示した課題の表を作成する。
7	講義	【Excel】表と計算式/売り上げ管理表から数字を理解出来るようになる。	授業内で扱った数式の仕組みを覚えることを目標に提示した課題の表を作成する。
8	講義	【Excel】表と計算式/売り上げ管理表を理解する。作成出来るようになる。	授業内で扱った数式の仕組みを覚えることを目標に提示した課題の表を作成する。
9	講義	【Excel】表と計算式/テストの平均点を理解し、作成出来るようになる。	授業内で扱った数式の仕組みを覚えることを目標に提示した課題の表を作成する。
10	講義	【Excel】表と計算式/予算表を作成出来るようになる。	授業内課題を60分以内で作れるようにすることを目標に提示した課題の表を作成する。
11	講義	【Excel】表と計算式/請求書を作成出来るようになる。	授業内課題を45分以内で作れるようにすることを目標に提示した課題の表を作成する。
12	講義	【Excel】図形描画/イベントシートとステージ簡易図面が作成出来るようになる。	図形描画の種類と使いかたを覚えることを目標に提示した課題の図形を作成する。
13	講義	【Excel】図形描画/イベントシートとステージ簡易図面が作成出来るようになる。	授業内課題を60分以内で作れるようにすることを目標に提示した課題の表を作成する。
14	講義	【Excel】チケット管理表を作成することが出来るようになる。	授業内課題を60分以内で作れるようにすることを目標に提示した課題の表を作成する。
15	講義	【Excel】動員集計表を作成することが出来るようになる。	授業内課題を60分以内で作れるようにすることを目標に提示した課題の表を作成する。
準備学習 時間外学習	各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。		
インターネット&ホームページ			

科目名	PCスキルアップ2	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	唐澤 淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務						
授業の学習 内容	Excelを中心に基本的な使い方から、現場で役立つ応用まで1年かけて身につけていく。 Microsoftの検定を取れるようにするのではなく、あくまでも業界でよく使われたり役立つ部分に特化して即戦力を目指してスキルを身に付けます。 現在の就職におけるパソコンスキルは必須となっており、またその求められるレベルは年々上がってきています。テクノロジーの進化と最新のソフトウェアにも対応が求められるため、習得すべきスキルは多いのですが、エンタメ業界で働く上で最低限のスキルを効率よく習得できるように授業は進めていきます。						
到達目標	以下の3点が達成出来るようになることを目標としている。 (1)Excelの基本的な使い方(表のデザイン、計算式)を身につける。 (2)PowerPointの基本的な使い方を身につけプレゼンテーションスキルを上げる。 (3)Wordの基本的な使い方を身につける。						
評価方法と基準	1. レポート提出(%) : 50% 2. 筆記課題(%) : 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	【PowerPoint】PPの基本仕様、Word、Excelとの互換性を理解する	スライド3枚で自分のお気に入り紹介資料を作成する。
2	演習	【PowerPoint】スライドマスタを理解し、用途に合ったスタイルを使用することが出来る	スライドマスタを理解して、マスタを5種類作る。
3	演習	【PowerPoint】挿入出来る種類の図と挿入方法を理解して、プロフィールシートを作成する	授業内で作ったプロフィールシート以外で1種類作る。
4	演習	【PowerPoint】プレゼンテーション資料の作成:スライドを理解し、設定出来るようになる	これまで作成した資料をスライド設定させる。
5	演習	【PowerPoint】プレゼンテーション資料の作成:アニメーションを理解し、効果的に設定できるようになる	これまで作成した資料にアニメーションを加える。
6	演習	【Excel】作業工程表の作成が出来るようになる	授業内課題に取りかかるにあたり作業行程表を作成する。
7	演習	【Word】段組、文字の回り込みを理解し、プレゼンテーション原稿を作成する	Wordの基本的な仕組みを復習することを目的に新聞を作成する。
8	実習	これまで学んだ総まとめとしてプレゼンテーション資料(原稿・アニメーション付)を作成する	次回プレゼンテーション発表が出来るように練習しておく。
9	実習	PC設定も自身で行い、プレゼンテーションを発表する	他人の発表を見てどのパワーポイントが効果的に伝わったかを観察し800字以内で提出。
10	演習	PowerPointとExcel・Word全てのソフトを使用し自己紹介を行うための資料を作成する。	次回の発表に向けて準備を行う。
11	実習	PowerPointとExcel・Word全てのソフトを使用し自己紹介の発表を行う。	他人の発表を見てどの資料が効果的に伝わったかを観察し800字以内で提出。
12	演習	【PowerPoint】進級制作展を校内宣伝するための資料を作成する	資料を基に各校舎教職員に確認してもらい校内放送してもらう。
13	演習	【PowerPoint】卒業制作展を校内宣伝するための資料を作成する	資料を基に各校舎教職員に確認してもらい校内放送してもらう。
14	実習	【PowerPoint】進級制作展で使用使用するサイン・チケットのデザインを作成する。	作成したデザインを本番日に使用する
15	実習	【PowerPoint】卒業制作展で使用使用するサイン・チケットのデザインを作成する。	作成したデザインを本番日に使用する
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】			
インターネット&ホームページ			

科目名	舞台知識1(A)	必修 選択	年次	1	担当教員	江見 千尋
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	イベーターとして仕事をスタートし、その後 舞台監督、舞台照明などの業務に携わる。実務歴33年。					
授業の学習 内容	劇場や舞台の機構、使用する物の名称や使い方、仕事の段取りなど舞台の仕事を行っていく上で必要と思われる基本的な知識を身につける。					
到達目標	学生は、舞台を制作していく上で必要な基本的事柄を学習し身につけることで実際の現場に入っても他のスタッフとコミュニケーションを円滑に行いスムーズな業務を遂行できるようになる。					
評価方法と基準	レポート課題提出30% 筆記による舞台知識を測る期末試験の得点で評価 70%					

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	舞台用語を習得する。	習った舞台用語を復習し、覚える。
2	講義	劇場/舞台という空間についての知識を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
3	講義	劇場やホールの種類と形状を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
4	講義	搬入・搬出方法を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
5	講義	吊りものの種類を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
6	講義	吊り方の理論を習得する。	舞台平面図にボタン位置を記入する
7	講義	照明卓の操作方法を習得する。	舞台断面図に照明ボタンを記入する
8	講義	幕の吊りものの種類を取得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
9	講義	幕の吊り方・照明のシュートの作業方法を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
10	講義	緞帳の操作方法を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
11	講義	舞台道具（箱馬・平台）の説明や使い方を習得する。	平台、箱馬などを図面化する
12	講義	舞台道具（トラス・バトン）の説明や使い方を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
13	講義	「明日への扉」を題材に舞台機構を学ぶ①	本日の授業を基に出された課題を提出する。
14	講義	「明日への扉」を題材に舞台機構を学ぶ①	本日の授業を基に出された課題を提出する。
15	講義	筆記復習テスト	試験にて出来なかった部分を復習する。
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】 「ステージ・PA・照明用語辞典」 リットーミュージック			

科目名	舞台知識1(B)	必修 選択	年次	1	担当教員	江見 千尋
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)		
教員の略歴	イベントーとして仕事をスタートし、その後 舞台監督、舞台照明などの業務に携わる。実務歴33年。					
授業の学習 内容	劇場や舞台の機構、使用する物の名称や使い方、仕事の段取りなど舞台の仕事を行っていく上で必要と思われる基本的な知識を身につける。					
到達目標	学生は、舞台を制作していく上で必要な基本的な事柄を学習し身につけることで実際の現場に入っても他のスタッフとコミュニケーションを円滑に行いスムーズな業務を遂行できるようになる。					
評価方法及び基準	レポート課題提出30% 筆記による舞台知識を測る期末試験の得点で評価 70%					

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	舞台用語を習得する	習った舞台用語を復習し、覚える。
2	講義	劇場/舞台という空間についての知識を習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
3	講義	劇場やホールの種類と形状を習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
4	講義	搬入・搬出方法を習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
5	講義	吊りものの種類を習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
6	講義	吊り方を習得する	舞台平面図にバトン位置を記入する
7	講義	照明卓の操作方法を習得する	舞台断面図に照明バトンを記入する
8	講義	幕の吊りものの種類を取得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
9	講義	幕の吊り方・照明のシュートの作業方法を習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
10	講義	緞帳の操作方法を習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
11	講義	舞台道具(箱馬・平台)の説明や使い方を習得する	平台、箱馬などを図面化する
12	講義	舞台道具(トラス・バトン)の説明や使い方を習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
13	講義	「明日への扉」運営・制作スタッフとして参加し、舞台を倉	本日の授業を基に出された課題を提出する。
14	講義	「明日への扉」運営・制作スタッフとして参加し、舞台を倉	本日の授業を基に出された課題を提出する。
15	講義	筆記復習テスト	試験にて出来なかった部分を復習する。
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】 「ステージ・PA・照明用語辞典」 リットーミュージック			

科目名	舞台知識2(A)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	江見 千尋
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	イベーターとして仕事をスタートし、その後 舞台監督、舞台照明などの業務に携わる。実務歴33年。						
授業の学習 内容	運営・制作以外の裏方の仕事の段取りなど舞台の仕事を行っていく上で必要と思われる基本的な知識を身につける。						
到達目標	舞台を制作していく上で必要な基本的事柄を学習し身につけることで実際の現場に入っても他のスタッフとコミュニケーションを円滑に行いスムーズな業務を遂行できるようになる。						
評価方法及び基準	舞台知識を問う課題提出 30% 知識を活かし、進級制作展への積極的な参加により、コミュニケーションを図り仕事が円滑に出来たかを演習を通して評価 70%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	舞台装置の種類と効果を習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
2	講義	舞台美術で使用する道具について習得する	教室の平面図を作成する
3	講義	舞台の空間認識について習得する	舞台美術を自分自身でプランする
4	講義	舞台の寸法・縮尺の知識について習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
5	講義	舞台で使用する図の解釈と使用方法を習得する	教室の平面図を作成する
6	講義	舞台の流れ(段取り・音響の流れに関して)を習得する	PAエンジニアコースから「明日への扉」時の流れを聞き レポートにて提出
7	講義	音響が実際に使う機材を時間の流れに沿って習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
8	講義	舞台の流れ(段取り・照明の流れに関して)	照明スタッフコースから「明日への扉」時の流れを聞き レポートにて提出
9	講義	照明が実際に使う機材を時間の流れに沿って習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
10	講義	舞台の流れ(段取り・舞台監督の流れに関して)	舞台制作スタッフコースから「明日への扉」時の流れを聞き レポートにて提出
11	講義	舞台監督が実際に使う機材を時間の流れに沿って習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
12	講義	筆記復習テスト	試験にて出来なかった部分を復習する。
13	講義	進級制作展で使用する実際の図面や資料を見て流れを舞台の流れを習得する	進級制作展の図面資料を元にレポートの作成。
14	講義	進級制作展の舞台機構を学ぶ①	本日の授業を基に出された課題を提出する。
15	講義	進級制作展の舞台機構を学ぶ②	本日の授業を基に出された課題を提出する。
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】 「ステージ・PA・照明用語辞典」 リットーミュージック			

科目名	舞台知識2(B)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	江見 千尋
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	イベンターとして仕事をスタートし、その後 舞台監督、舞台照明などの業務に携わる。実務歴33年。						
授業の学習 内容	運営・制作以外の裏方の仕事の段取りなど舞台の仕事を行っていく上で必要と思われる基本的な知識を身につける。						
到達目標	舞台を制作していく上で必要な基本的な事柄を学習し身につけることで実際の現場に入っても他のスタッフとコミュニケーションを円滑に行いスムーズな業務を遂行できるようになる。						
評価方法と基準	舞台知識を問う課題提出 30% 知識を活かし、進級制作展への積極的な参加により、コミュニケーションを図り仕事が円滑に出来たかを演習を通して評価 70%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	舞台装置の種類と効果を習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
2	講義	舞台美術で使用する道具について習得する	教室の平面図を作成する
3	講義	舞台の空間認識について習得する	舞台美術を自分自身でプランする
4	講義	舞台の寸法・縮尺の知識について習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
5	講義	舞台で使用する図の解釈と使用方法を習得する	教室の平面図を作成する
6	講義	舞台の流れ(段取り・音響の流れに関して)を習得する	PAエンジニアコースから「明日への扉」時の流れを聞き レポートにて提出
7	講義	音響が実際に使う機材を時間の流れに沿って習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
8	講義	舞台の流れ(段取り・照明の流れに関して)	照明スタッフコースから「明日への扉」時の流れを聞き レポートにて提出
9	講義	照明が実際に使う機材を時間の流れに沿って習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
10	講義	舞台の流れ(段取り・舞台監督の流れに関して)	舞台制作スタッフコースから「明日への扉」時の流れを聞き レポートにて提出
11	講義	舞台監督が実際に使う機材を時間の流れに沿って習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
12	講義	筆記復習テスト	試験にて出来なかった部分を復習する。
13	講義	進級制作展で使用する実際の図面や資料を見て流れを舞台の流れ	進級制作展の図面資料を元にレポートの作成。
14	講義	進級制作展の舞台機構を学ぶ①	本日の授業を基に出された課題を提出する。
15	講義	進級制作展の舞台機構を学ぶ②	本日の授業を基に出された課題を提出する。
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】 「ステージ・PA・照明用語辞典」 リットーミュージック			

科目名	ミュージックセオリー(A)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 高橋 亜佑美
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	音楽理論の基礎を学ぶ					
到達目標	音楽業界でステップアップしていく為には、業界で共通の認識とされている楽譜の基礎知識が必要となる。本講義では、音楽理論といわれるそれらの内容について分かり易く解説するとともに、実際に楽譜が読めるように訓練する。そして現場で即戦力とされる人材を育成する。					
評価方法と基準	出席点100点満点と期末試験100点満点の合計を2分割し、60点以上を合格とする。					

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	楽譜の歴史、五線譜、クレフ	楽譜を時代ごとに追っていき、古代から現代への楽譜の移り変わりを知る 楽器ごとの音域を知る
2	講義	音名	五線に書かれた音符の音名を答え、鍵盤の位置と一致させる
3	講義	音符、休符	音符、休符の表し方が分かる 連符について知る
4	講義	拍子、複合拍子	小節線 単純拍子、複合・混合拍子 タイ、シンコペーションを理解する
5	講義	反復記号	反復記号を学び、音源を聴き楽譜を追えるようにする
6	講義	スコアリーディング	1w～5wまでの復習をし理解度を高める
7	講義	中間テスト	
8	講義	メジャースケール	メジャースケールの仕組みを理解する（#系メジャースケール）
9	講義	メジャースケール	5度圏を用い、調号を用いてスケールを書けるようにする（b系メジャースケール）
10	講義	記譜法、臨時記号	調号と臨時記号の違いが分かる 臨時記号の効力 正しい楽譜の書き方を知る
11	講義	テンポ、強弱記号	速度記号、速度標語、強弱記号を学ぶ
12	講義	スコアリーディング	総復習をし、理解度を高める
13	講義	まとめ、期末予備テスト	復習、テスト対策を行い期末テストに備える
14	講義	期末テスト	総復習をし、理解度を高める
15	講義	テスト返却、復習	楽譜を見てKeyや雰囲気をつかむことができるようにする
準備学習 時間外学習		前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える	
【使用教科書・教材・参考書】ゼロから始める音楽理論、「ゼロから始める音楽理論 ワークブック」 喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部			

科目名	イヤートレーニング(A)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 高橋 亜佑美
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、リズム感と音感が必要となる。本講義では聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き取り、実際に歌うなどしてソルフェージュの基礎を養う。卒業後には業界人として何事にも自信を持って取り組めるようにする。					
到達目標	聴こえる音やリズムを正しく判別できるようになる。					
評価方法と基準	出席点100点満点と期末試験100点満点の合計を2分割し、60点以上を合格とする。					

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	音の歴史、モールズ信号、周波数、効果音について知る リズム打ち・書き取り方について知る 音の高低の判定	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるようにする
2	講義	4分音符、4分休符のリズム打ち 3拍子と4拍子のビート感覚を養う 2線紙を使って音の高低判定 2度音程を歌い音程感を身に付ける	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習する
3	講義	8分音符のリズム打ちと5線紙を使ってリズムの書き取り 3線紙を使って音の高低判定	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習する
4	講義	4分音符、4分休符、8分音符のリズム打ち、リズムの書き取り、5線紙を使ってメロディーの書き取り 音程(全音と半音の区別)	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書き取り、音程を復習する
5	講義	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱 音程(1.2.3.8度、#♭なし)	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
6	講義	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱ができる 音程(1.2.3.8度、#♭あり)	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
7	講義	中間テスト	今までの内容を復習し次回の授業に備える
8	講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱 音程(4.5度#♭なし)	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
9	講義	8分休符(裏打ち)のリズム打ち、書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱 音程(1~5度8度、#♭あり) トライトーン	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
10	講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 音程(1~5度、8、6度)	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
11	講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 音程(1~8度)	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
12	講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱、Major.minorのコード判定、音程(1~8度)	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
13	講義	期末予備テスト	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
14	講義	期末テスト	総復習をし、理解度を高める
15	講義	テスト返却、総復習	総復習をし、理解度を高める
準備学習 時間外学習		前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える	

【使用教科書・教材・参考書】

「イヤートレーニング」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部(発売)

科目名	ミュージックセオリー(B)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高橋 亜佑美
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽理論の基礎を学ぶ						
到達目標	音楽業界でステップアップしていく為には、業界で共通の認識とされている楽譜の基礎知識が必要となる。本講義では、音楽理論といわれるそれらの内容について分かり易く解説するとともに、実際に楽譜が読めるように訓練する。そして現場で即戦力とされる人材を育成する。						
評価方法と基準	出席点100点満点と期末試験100点満点の合計を2分割し、60点以上を合格とする。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	楽譜の歴史、五線譜、クレフ	楽譜を時代ごとに追っていき、古代から現代への楽譜の移り変わりを知る 楽器ごとの音域を知る
2	講義	音名	五線に書かれた音符の音名を答え、鍵盤の位置と一致させる
3	講義	音符、休符	音符、休符の表し方が分かる 連符について知る
4	講義	拍子、複合拍子	小節線 単純拍子、複合・混合拍子 タイ、シンコペーションを理解する
5	講義	反復記号	反復記号を学び、音源を聴き楽譜を追えるようにする
6	講義	スコアリーディング	1w～5wまでの復習をし理解度を高める
7	講義	中間テスト	
8	講義	メジャースケール	メジャースケールの仕組みを理解する（#系メジャースケール）
9	講義	メジャースケール	5度圏を用い、調号を用いてスケールを書けるようにする（b系メジャースケール）
10	講義	記譜法、臨時記号	調号と臨時記号の違いが分かる 臨時記号の効力 正しい楽譜の書き方を知る
11	講義	テンポ、強弱記号	速度記号、速度標語、強弱記号を学ぶ
12	講義	スコアリーディング	総復習をし、理解度を高める
13	講義	まとめ、期末予備テスト	復習、テスト対策を行い期末テストに備える
14	講義	期末テスト	総復習をし、理解度を高める
15	講義	テスト返却、復習	楽譜を見てKeyや雰囲気をつかむことができるようにする
準備学習 時間外学習		前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える	
【使用教科書・教材・参考書】ゼロから始める音楽理論、「ゼロから始める音楽理論 ワークブック」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部			

科目名	イヤートレーニング(B)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 高橋 亜佑美
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、リズム感と音感が必要となる。本講義では聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き取り、実際に歌うなどしてソルフェージュの基礎を養う。卒業後には業界人として何事にも自信を持って取り組めるようにする。					
到達目標	聴こえる音やリズムを正しく判別できるようになる。					
評価方法と基準	出席点100点満点と期末試験100点満点の合計を2分割し、60点以上を合格とする。					

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	音の歴史、モールズ信号、周波数、効果音について知る リズム打ち・書き取り方について知る 音の高低の判定	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるようにする
2	講義	4分音符、4分休符のリズム打ち 3拍子と4拍子のビート感覚を養う 2線紙を使って音の高低判定 2度音程を歌い音程感を身に付ける	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習する
3	講義	8分音符のリズム打ちと5線紙を使ってリズムの書き取り 3線紙を使って音の高低判定	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習する
4	講義	4分音符、4分休符、8分音符のリズム打ち、リズムの書き取り、5線紙を使ってメロディーの書き取り 音程(全音と半音の区別)	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書き取り、音程を復習する
5	講義	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱 音程(1.2.3.8度、#♭なし)	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
6	講義	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱ができる 音程(1.2.3.8度、#♭あり)	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
7	講義	中間テスト	今までの内容を復習し次回の授業に備える
8	講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱 音程(4.5度#♭なし)	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
9	講義	8分休符(裏打ち)のリズム打ち、書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱 音程(1~5度8度、#♭あり) トライトーン	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
10	講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 音程(1~5度、8、6度)	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
11	講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 音程(1~8度)	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
12	講義	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱、Major.minorのコード判定、音程(1~8度)	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
13	講義	期末予備テスト	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
14	講義	期末テスト	総復習をし、理解度を高める
15	講義	テスト返却、総復習	総復習をし、理解度を高める
準備学習 時間外学習		前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える	

【使用教科書・教材・参考書】

「イヤートレーニング」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部(発売)

科目名	PCスキルアップ3	必修 選択	年次	1	担当教員	唐澤 淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務。実務歴26年。					
授業の学習 内容	現在の就職におけるパソコンスキルは必須となっており、またその求められるレベルは年々上がってきています。テクノロジーの進化と最新のソフトウェアにも対応が求められるため、習得すべきスキルは多いのですが、特にテクニカルのセクションにおけるエンターテインメント業界で働く上で最低限のスキルを効率よく習得できるように進めています。Excel・Illustrator・Photoshopの基本的な使い方を身につけ、即戦力を目指します。					
到達目標	一年次に習得した「PCスキルアップⅠ・Ⅲ」「DTP」の復習とともに新たに以下の3点を身につける。 (1) Adobe Premiere proの基本的な使い方を習得する。 (2) Adobe Photoshopの応用方法を習得する。 (3) Adobe Illustratorの応用方法を習得する。					
評価方法と基準	1. 実技試験(%) : 50% 2. 課題(%) : 50%					

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	WindowsとMacの違いを理解し、ショートカットキーを習得する。	キーボード配列を覚える。ショートカットを覚える。
2	講義	ITリテラシーを理解し、ビジネスにおけるWebメールの送り方を習得する。	ITリテラシー理解度テストを行う。
3	講義	【Excel】表の作り方/タイムテーブルの横軸の作成を課題に用紙の設定を習得する。	授業内課題を30分以内で作れることを目標に提示した課題の表を作成する。
4	講義	【Excel】表の作り方/タイムテーブルの横軸の作成を課題にフォントとサイズの設定を習得する。	身近な印刷物で文字の大きさなどを理解することが出来るよう提示された課題をやる
5	講義	【Excel】表の作り方/タイムテーブルの横軸の作成を課題に印刷の設定を習得する。	授業内課題を30分以内で作れることを目標に提示した課題の表を作成する。
6	講義	【Excel】表の作り方/タイムテーブルの縦軸が作成出来るようになる。	授業内課題を30分以内で作れることを目標に提示した課題の表を作成する。
7	講義	【Excel】図形描画/イベントシートが作成出来るようになる。	図形描画の種類と使いかたを覚えることを目標に提示した課題の表を作成する。
8	講義	【Excel】図形描画/ステージの簡易的な図面が作成出来るようになる。	図形描画の種類と使いかたを覚えることを目標に提示した課題の図形を作成する。
9	講義	【Excel】図形描画/ステージの簡易的な図面が作成出来るようになる。	授業内課題を60分以内で作れるようにすることを目標に提示した図面を作成する。
10	講義	【Excel】表と計算式/動員集計表を理解する。	計算式の仕組みを覚えることを目標に提示した課題の表を作成する。
11	講義	【Illustrator】基本知識と機能を理解し、等級表を作成する	基礎の仕組みを覚え、慣れておくことを目標に提示した課題の表を作成する。
12	講義	【Illustrator】名刺作成を課題に、表示・オブジェクト・テキスト入力を理解する	名刺に関するビジネスマナー(渡し方やおじぎ、挨拶等)を調べて資料として提出。
13	講義	【Illustrator】名刺作成を課題に、レイヤー・レイアウトを理解する	次回の授業に備え名刺作成時に使用するレイヤー・レイアウトを考査し決めておく。
14	講義	【Excel】「明日への扉」タイムテーブル・進行表を作成出来るようになる。	講義内容を元に資料の作成
15	講義	【Excel】復習テスト「明日への扉」ステージ図・セット図を作成する。	講義内容を元に資料の作成
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】			
必要に応じてプリント配布。ITリテラシー、COMポータル			

科目名	音楽史(洋楽)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	西田 剛
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 屋間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2002年TSM渋谷創立時より17年、音楽史授業担当。ギタリスト、作曲家、ナレーターとしての実務歴37年。						
授業の学習 内容	この授業の目的は「音楽を考える力」を育むことであり、ポップ・ロックミュージックの起りから現代まで、その発達の歴史を深く学びます。その歴史や文化に触れ、グローバルな視点でアメリカ・イギリス中心とした英語圏におけるポピュラー音楽の位置づけを概観することができる。						
到達目標	時代の流れに沿った、ロック・ポップスの発達を深く知ること、自分たちの作り出す音楽と、ロック・ポップスの歴史・進化を結び付け評価することができる。						
評価方法と基準	期末テスト 70% レポート課題提出 30%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	ロックミュージックのルーツを学ぶ。	ポピュラー音楽を学ぶ事アメリカの黒人音楽を知る～授業目的の確認 どのように学ぶのか? 授業の進め方 (IT資料、音源、DVD、実演) の確認 オールディーズ資料としてアメリカグラフィティを考察
2	講義	20世紀初期のポピュラーミュージックの歴史を学ぶ	最も売れたアーティストランキン、ビートルズ、プレスリー、マイケル、マドンナ、ツェッペリンの共通点 アメリカの黒人音楽を世界に広めたパフォーマー。ブルースの特徴(コード進行、12小節)をクロスロード(ロバートジョンソン、エリッククラプトン)考察しパターンと音階を理解する。
3	講義	ロックンロールの誕生とは、	プレスリー チャックベリー リトルリチャードの考察中心に時代背景を交えて、アメリカ黒人音楽であるR&Rを学ぶ。また、自分のアタマで考えることを教える 例えばメンフィスは黒人が多く住んでたと思うか?など。
4	講義	フォークミュージックの再燃と公民権運動を学ぶ	ボブディランを中心にフォークソングを考察 代表曲: 風に吹かれて の歌詞の内容を時代背景とともに理解する。また、時代は異なるが、イマジン: ジョンレノン の歌詞の本質を学ぶ。
5	講義	イギリス・ポップミュージックの台頭	ビートルズ～ イギリスアーティストのアメリカ市場への侵攻 ベビーブーム世代 当時の若者の考え方を知る。
6	講義	フラワームーヴメントとは、	フラワームーヴメント、 ヒッピー、LOVE&PEACE、公民権運動、ベトナム戦争を、音楽に込められた若者のメッセージとともに説明できるようにする。
7	小テスト 講義	前半講義のポイント整理	R&Rの誕生からウッドストックまでの流れを、しっかりと理解する。
8	講義	パンクロック。ニューウェイブとは、	ロフトパンク(セックスピストルズ、マルコム・マクラーレン、ワイワイアグ・ウエストウッド)～ ニューウェイブの流れ と70年代のポピュラー音楽の大きな流れ(ハードロック、ファンク、レゲエ、AOR などのジャンルの確立)を対比させることができる。
9	講義	MTVの時代を学ぶ	80年代(MTV、80年代ビルボードTOP10、マイケルジャクソン「スリラー」)考察 MTVのスタートによりプロモーションのあり方自体に大きな変革をもたらしたこと シンセサイザーの発達 女性アーティストの躍進にも注目する。
10	講義	ヒップホップの誕生を学ぶ	ブレイクスターズ(ブレイクスターズ)の傾向を踏まえて、ヒップホップとの関連 ヒップホップの始まり(ラップ、ブレイクダンス、グラフィティ)を検証 その他、オールジャンルから超一流のアーティストが集結した「We Are The World」を考察
11	講義	21世紀の始まりを学ぶ	今世紀に入ってからポピュラー音楽の傾向を理解する 新たなメディア(Youtube)との向き合い方を各自で考える。
12	テスト 講義	復習テスト	答えられなかった箇所を明確にする。
13	講義	進級制作展の課題曲について考察する。	課題曲についてWEB閲覧により調べ、レポートを作成。
14	講義	We are TSM渋谷の課題曲について考察する。	課題曲についてWEB閲覧により調べ、レポートを作成。
15	講義	講義内容の振り返り	時代の流れに沿った、ロック・ポップスの発達を深く知ること、自分たちが未来に向けて発信してゆく音楽を深いレベルで考えることができる。
準備学習 時間外学習		授業内容について復習し、レポートを作成。	
【使用教科書・教材・参考書】			

科目名	DTP1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	唐澤 淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務						
授業の学習 内容	現在の就職におけるパソコンスキルは必須となっており、またその求められるレベルは年々上がってきています。テクノロジーの進化と最新のソフトウェアにも対応が求められるため、習得すべきスキルは多いのですが、エンターテインメント業界で働く上で最低限のスキルを効率よく習得できるように授業は進めていきます。パソコンの理解度の向上とソフトウェアのスキルの向上を目的に、現場で役立つことに特化して学んでいきます。						
到達目標	以下の3点が達成出来るようになることを目標としている。 (1) Adobe Illustratorの基本的な使い方 (2) DTPの基本的な解釈と留意点 (3) デザイン的な創作の解釈と留意点						
評価方法と基準	1. データーレポート提出 (%) : 50% 2. 授業内課題 (%) : 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	【Illustrator】基本知識と機能を理解し、等級表を作成する	基礎の仕組みを覚え、慣れておくことを目標に提示した課題の表を作成する。
2	講義	【Illustrator】名刺作成を課題に、表示・オブジェクト・テキスト入力を理解する	名刺に関するビジネスマナー（渡し方やおじぎ・挨拶等）を調べて資料として提出。
3	講義	【Illustrator】名刺作成を課題に、レイヤー・レイアウトを理解する	今回の授業に備え名刺作成時に使用するレイヤー・レイアウトを考査し決めておく。
4	講義	【Illustrator】名刺作成を課題に、数値を入力しての正確な移動を理解する	使い方の復習を目標に提示した課題を作成する。
5	講義	【Illustrator】名刺作成を課題に、印刷設定を理解する	授業内で作ったもの以外に数種類作成し提出する。
6	講義	【Illustrator】オブジェクトを使ったイラスト作成を課題に、ベジェ曲線を理解する	授業で取り組んだ同様の課題を提示し、30分以内で作成出来るようになる。
7	講義	【Illustrator】図面作成を課題にパスツールを理解する	パスの仕組みを復習し、理解することを目標に提示した課題の表を作成する。
8	講義	【Illustrator】図面を作成する	授業内課題を60分以内で作れるようにすることを目標に提示した図面を作成する。
9	講義	【Illustrator】ロゴマークの作成を課題に、文字のアウトライン化・クリッピングマスクを理解する	フォント毎にアウトライン化された場合のオブジェクトを確認して修正する。
10	講義	【Illustrator】ロゴマークの作成を課題に、画像の配置・ライブトレースを理解する	スキャンしたデータを読み込み、手書きの文字をライブトレースして提出。
11	講義	【Illustrator】これまで学習したスキルを使って地図を作成する	授業内課題を45分以内で作れるようにすることを目標に提示した課題の表を作成する。
12	講義	【Illustrator】フライヤーの作成を課題にパス内文字ツールを理解する	授業内容を基に様々な文字の入力方法で入力し、データを提出する。
13	講義	【Illustrator】フライヤーの作成を課題にエフェクト効果を理解する	エフェクト効果を使った作品を作成し提出する。
14	講義	【Illustrator】「明日への扉」校内宣伝に使用するフライヤーを作成する	作成したもので実際に校内宣伝を行う。
15	講義	【Illustrator】「明日への扉」ロビー内に展示するポスターを作成する	作成したものを掲示し来場者の反応からどんな作品が効果的か考察する。
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】			
Photoshop ver.CS6・Illustrator ver.CS6			

科目名	DTP2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	唐澤 淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務						
授業の学習 内容	現在の就職におけるパソコンスキルは必須となっており、またその求められるレベルは年々上がってきています。テクノロジーの進化と最新のソフトウェアにも対応が求められるため、習得すべきスキルは多いのですが、エンターテインメント業界で働く上で最低限のスキルを効率よく習得できるように授業は進めていきます。パソコンの理解度の向上とソフトウェアのスキルの向上を目的に、現場で役立つことに特化して学んでいきます。						
到達目標	以下の3点が達成出来るようになることを目標としている。 (1) Adobe Illustratorの基本的な使い方 (2) DTPの基本的な解釈と留意点 (3) デザイン的な創作の解釈と留意点						
評価方法と基準	1. データーレポート提出 (%) : 50% 2. 授業内課題 (%) : 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	【Photoshop】基本知識・レイヤー・デバイスからの取り込みを覚える	作品制作に向けての構想を練り、デザイン案を作成する。
2	講義	作品制作に合う写真素材を定めた画素数や形式を基に撮影する	作品制作課題に向けてフォトロケーションを調べて提出する。
3	講義	【Photoshop】画像解像度を理解する	画像解像度を理解し、1つの写真から72dpiのデータと350dpiのデータを作成し提出。
4	講義	【Photoshop】保存形式を理解する	保存形式によっての特徴を理解するためjpg/gif/pngで保存した画像をそれぞれ提出する。
5	講義	【Photoshop】色調補正・カラーモード・レタッチを理解する	自分で撮影した写真を使って授業内で覚えたトリミングを駆使し作品を提出する。
6	講義	【Photoshop】レタッチを理解する	本日の授業を理解した上で「音が降っている画像」と「湯気が出ている画像」を作成し提出する。
7	講義	【Photoshop】切り抜きと合成を理解する	切り抜きのクオリティーを高めるために提示された課題を提出する。
8	講義	【Photoshop】作品(フライヤー)制作に取り組む	作品制作に向けての構想を練り、デザイン案を提出する。
9	講義	【Photoshop】作品(フライヤー)制作に取り組む	制作を進めて提出する。
10	講義	<課題試験>これまで習得した知識・技術を駆使し、ポストカードを制作する	作品制作に向けての構想を練り、デザイン案を作成する。
11	講義	<課題試験>これまで習得した知識・技術を駆使し、ポストカードを制作する	制作を進めて提出する。
12	講義	進級制作展を校内宣伝するためのフライヤーを作成する	資料を基に各校舎教職員に確認してもらい校内に設置してもらう。
13	講義	卒業制作展を校内宣伝するためのフライヤーを作成する	資料を基に各校舎教職員に確認してもらい校内に設置してもらう。
14	講義	進級制作展で使用するサイン・チケットのデザインを作成する。	作成したデザインを本番日に使用する。
15	講義	卒業制作展で使用するサイン・チケットのデザインを作成する。	作成したデザインを本番日に使用する。
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】			
Photoshop ver.CS6・Illustrator ver.CS6			

科目名	音楽業界知識1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	高田 雄貴
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習 内容	[1] 音楽業界へ進む上で必要とされる基礎知識を学習する [2] 音楽ビジネスの企業で勤務する際に必要なビジネススキルの基礎知識や実務の基本を学習するを学習する [3] 最新の音楽業界の動向や、一般的なメディアの取り扱いなどを検証分析することで、音楽ビジネスにおけるマーケティングの基本を学習する						
到達目標	[1] 音楽業界への就職した際に、先輩業界人達とスムーズにコミュニケーションを取る為に必要な基礎知識を構築する [2] 音楽業界への就職した際に、音楽業界人としてだけでなく一般社会人との業務において必要な基礎知識や実務の流れを構築する [3] 音楽業界への就職後に必要となる、業界人としての目線で流行やトレンドを読むセンスを身につける						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験 (評価割合 40%) [2] 受講態度 ※レポート課題提出 (評価割合 60%)						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	音楽ビジネスの仕組みを知る	音楽事業者協会を調査する
2	講義	売れてるってどう言う事	ヒットチャート (オリコン) を調査する
3	講義	制作会議の進め方	会議の種類について調査する
4	講義	CDはどのような流れでマーケットに出るのか	音楽制作者連盟を調査する
5	講義	ビジネス文書の送り方	仮メールアドレスにビジネス文書を送る
6	講義	5月の音楽業界と全国展開	ガントチャートについて知る
7	講義	平成のエンタテインメント業界史を振り返る	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提
8	講義	AIDMAの法則とプロモーション	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提
9	講義	年間計画とタイムマネジメント	ガントチャートについて知る
10	講義	音楽フェスティバルについて知る	今年開催の音楽フェスの調査リスト化
11	講義	海外のエンタテインメント (シルクドソレイユ) の研究	テーマパークを調査する
12	講義	音楽ビジネスの収益モデル	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提
13	講義	ターゲットを分析する (女性向け雑誌のマッピングから見る)	雑誌協会について調査する
14	講義	(明日への扉) を通して音楽ビジネススキルを学ぶ	明日への扉を通して音楽ビジネススキルを考察する
15	講義	(明日への扉) を通してビジネススキルを学ぶ	明日への扉を通してビジネススキルを考察する
準備学習 時間外学習		授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。	
【使用教科書・教材・参考書】			
昨年度実績の概要書・終了報告書参照・自作PPT			

科目名	音楽業界知識2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	高田 雄貴
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習 内容	[1] 音楽業界へ進む上で必要とされる基礎知識を学習する [2] 音楽ビジネスの企業で勤務する際に必要なビジネススキルの基礎知識や実務の基本を学習するを学習する [3] 最新の音楽業界の動向や、一般的なメディアの取り扱いなどを検証分析することで、音楽ビジネスにおけるマーケティングの基本を学習する						
到達目標	[1] 音楽業界への就職した際に、先輩業界人達とスムーズにコミュニケーションを取る為に必要な基礎知識を構築する [2] 音楽業界への就職した際に、音楽業界人としてだけでなく一般社会人との業務において必要な基礎知識や実務の流れを構築する [3] 音楽業界への就職後に必要となる、業界人としての目線で流行やトレンドを読むセンスを身につける						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験 (評価割合 40%) [2] 受講態度 ※レポート課題提出 (評価割合 60%)						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	演劇の世界 (ロングランミュージカル)	劇団四季について調査しレポートとして提出
2	講義	レコード業界のビジネスモデル	レーベルについて調査しレポートとして提出
3	講義	マーケットの変遷 (東京中心から地元主義)	地域密着アーティストを調査しレポートとして提出
4	講義	クチコミプロモーションからSNSへ	SNSの媒体を調査しレポートとして提出
5	講義	ファンクラブビジネスについて知る	ファンクラブについて調査しレポートとして提出
6	講義	イベントと保険を学ぶ	各保険について調査しレポートとして提出
7	講義	プロモーションについて考える	本日の授業をもとにプロモーション案を提案
8	講義	アーティストという職業について知る (声優編)	声優を調査しレポートとして提出
9	講義	アーティストという職業について知る (YOUTUBER編)	YOUTUBERを調査しレポートとして提出
10	講義	著作権について考える	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
11	講義	仕事のできない人は「5W1H」がわかっていない	授業で出された課題に取り組む
12	講義	今さら聞けないメールの作法、宛名の書き方	仮メールアドレスにビジネスメールとしての文章を送信
13	講義	音楽業界の仕事基礎知識を再確認	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
14	講義	音楽ビジネスの仕組みを知る	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
15	講義	音楽ビジネスの仕組みを知る	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
準備学習 時間外学習		授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。	
【使用教科書・教材・参考書】			
自作PPT・プリント配布			

科目名	著作権1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	峰松 毅
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ピクチャーではカラオケのレコーディングディレクターを、バンダイではアニメ特撮系の音楽プロデューサーを務める。現在はライセンスゲートを設定しゲーム系の音楽配信を中心にライセンス事業を展開。						
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、著作権の知識が必要となる。本講義では音楽における権利の基礎とその現状を学び、実際の活動に役立てるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要な著作権の基礎知識を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	著作権の概要について学び理解し説明ができる	著作権の概要について学び理解しレポート作成
2	講義	アーティスト契約についての理解し説明ができる。	アーティスト契約についての理解しレポート作成
3	講義	契約書の基本的な読み方を理解し説明ができる	契約書の基本的な読み方を理解しレポート作成
4	講義	著作権法について理解し説明ができる。	著作権法について理解しレポート作成
5	講義	SNSにおける著作権を知り説明ができる。	SNSにおける著作権を知り理解しレポート作成
6	講義	著作物の条件を理解し説明ができる	著作物の条件を理解しレポート作成
7	講義	音源が売れた場合の作詞、作曲印税について理解し説明ができる	音源が売れた場合の作詞、作曲印税について理解しレポート作成
8	講義	アーティストに支払われる印税について理解し説明ができる	アーティストに支払われる印税について理解しレポート作成
9	講義	JASRACを知り説明ができる	JASRACを知り理解しレポート作成
10	講義	音楽出版社の役割を理解し説明ができる	音楽出版社の役割理解しレポート作成
11	講義	動画サイトにおける音楽使用の現状を知り説明ができる	動画サイトにおける音楽使用の現状を理解しレポート作成
12	講義	動画サイトにおける音楽使用の現状を知り説明ができる	動画サイトにおける音楽使用の現状を理解しレポート作成
13	講義	再販制度の功罪を理解し説明ができる	再販制度の功罪を理解しレポート作成
14	講義	替え歌と著作者人格権の理解をし説明ができる。	替え歌と著作者人格権の理解しレポート作成
15	講義	復習試験	振り返りをおこない、レポートにまとめる
準備学習 時間外学習		業界で活躍するための権利を知る。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】			

科目名	文章基礎1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	天井 潤之介
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一						
教員の略歴	株式会社ロッキング・オン勤務、退社後、編集者／音楽評論家／音楽レベル監修						
授業の学習 内容	「書く」という技術の習得。そのためのルールと基本構造を学んでもらいます。自分が考えている・思っていることを言葉／文字に変換する。そしてその言葉／文字を使いこなして、自分の考えや意図する思いを相手に正確に「伝える」ためにはどうすればよいのか。文章力の養成を通じて、思考力やコミュニケーション能力も養成することができればベストだと考えています。授業の進め方ですが、一コマめにその日の課題となる授業内容をレクチャーし、二コマめにその授業内容に沿ったライティングを実践してもらいます。						
到達目標	「書く」という技術は、企画立案や会議でのプレゼンテーションなど、自分の考えや意図を相手に正しく伝えるという様々なビジネスの場面で基礎となるものです。授業では主に音楽に関するテーマの文章作成を課すことが多いと思いますが、そうした作業を通じて、説得力と具体性を持った論理の筋道を立てることが出来るようになり、個人的な感想や感動を「情報整理／分析」へと昇華できるような技術と能力を養うことが出来るようになる。						
評価方法及び基準	文章能力課題レポート提出 50% 課題の提出が前提、原稿の出来栄を評価。 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	年間の授業方針と文章力の必要性について学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
2	講義	句読点を正しく使い、文意の伝わる文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
3	講義	改行を使いこなし、内容や趣旨を意識した文章作成が出来るようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
4	講義	例文の校正・添削を通じて、「主語・述語」の使い方を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
5	講義	例文の校正・添削を通じて、「修飾語」の使い方を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
6	講義	助詞を正しく使いこなし、誤読や誤解を生まない文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
7	講義	書き言葉と話し言葉の違いを学び効果的な使い方方で文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
8	講義	起承転結を意識した文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
9	講義	両論併記を意識した文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
10	講義	文章にリズムをつけて読み手が飽きない文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
11	講義	漢字とひらがなのバランスを考え読みやすい文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
12	講義	同義語を意識し語彙力を上げ表現力豊かな文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
13	講義	段落を活用し各コンテンツに適した文字数でまとめることを学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
14	講義	「明日への扉」告知の際に配布する新聞記事の文章を作成(文章構成～た きまで)	授業に続き文章を作成し提出
15	講義	「明日への扉」告知の際に配布する新聞記事の文章を作成(文章作成～校 正・添削し完成まで)	授業に続き文章を作成し提出
準備学習 時間外学習		授業内で出される課題の作成。文章に慣れた習慣作り。	
【使用教科書・教材・参考書】 自作プリント配布			

科目名	文章基礎2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	天井 潤之介
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	株式会社ロッキング・オン勤務、退社後、編集者／音楽評論家／音楽レーベル監修						
授業の学習 内容	前期の授業を踏まえ、より実践的な「書く」という技術の習得。具体的には「WEBコンテンツ制作」の授業と連動する形で、ビジネスメール作成や作品のレビュー、またインタビュー記事の作成などを通じて文章力の向上を目指します。						
到達目標	前期「文章基礎」で学んだ「書く」という技術のルールと基本構造をもとに、ビジネスの場面でも役立つ文章力を身に付けることが目標になります。「WEBコンテンツ制作」の授業とも連動した実践的な文章作成を行いつつ、構成や起承転結を意識した長めの文章も視野に入れた文章力の向上を目指します。						
評価方法と基準	文章能力課題レポート提出 50% 課題の提出が前提、原稿の出来栄を評価。 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	例文や自分で書いた文章の要約・添削を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
2	講義	新聞記事の資料を要約し添削が出来るようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
3	講義	新聞記事の読解を行い、筆者の意図を読み取れるようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
4	講義	レコード会社の資料を要約し添削が出来るようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
5	講義	レコード会社の資料読解を行い、筆者の意図を読み取れるようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
6	講義	映画のあらすじを要約し添削が出来るようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
7	講義	映画のあらすじ読解を行い、筆者の意図を読み取れるようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
8	講義	これまで学んだ技術をもとに音楽作品のレビュー原稿(紙面媒体)を作成する	授業に続きレビュー原稿を完成させて提出
9	講義	これまで学んだ技術をもとに音楽作品のレビュー原稿(WEB媒体)を作成する	授業に続きレビュー原稿を完成させて提出
10	講義	これまで学んだ技術をもとにインタビュー音源を文字おこしし、原稿(紙面媒体)を作成する	授業に続きインタビュー原稿を完成させて提出
11	講義	これまで学んだ技術をもとにインタビュー音源を文字おこしし、原稿(WEB媒体)原稿を作成する	授業に続きインタビュー原稿を完成させて提出
12	講義	進級制作展出演アーティストのインタビュー音源を文字おこしし、原稿(紙面媒体)を作成する	授業に続きインタビュー原稿を完成させて提出
13	講義	進級制作展出演アーティストのインタビュー音源を文字おこしし、原稿(WEB媒体)を作成する	授業に続きインタビュー原稿を完成させて提出
14	講義	進級制作展観覧、レビューを書くための素材を集める	実際に会場に足を運びボイスレコーダーとメモで資料をつくる
15	講義	進級制作展レビュー制作	授業に続きレビュー原稿を完成させて提出
準備学習 時間外学習		授業内で出される課題の作成。文章に慣れた習慣作り	
【使用教科書・教材・参考書】 自作プリント配布			

科目名	Creator's Recording概論 A-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	前田基彦
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	フリーランスエンジニア。自身のスタジオを中心に活動。バンド/劇伴/映画サラウンド等幅広いジャンルに関わる。実務歴25年。						
授業の学習 内容	レコーディングに関する基礎項目を習得する授業です。基礎知識を得る事で自身の専攻項目の関係/理解を深められます。難しい項目もありますが判りやすく授業をしますので頑張っ て参加し学習してください。実技と座学で機材&音との接しかたや楽曲の捉え方まで多義に渡り解説します。服装はエンジニアリングを行うにふさわしい格好(行動しやすい靴や服で参 加する事。スカートは避ける事。) 持ち物は、①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体 ②自分のリファレンス(基準)となる ヘッドフォンまたはイヤホン(接続はTRSまたはミニTRS)						
到達目標	レコーディングのワークフロー理解、機材の基礎的使用方法習得、レコーディング業界標準のProtools(プロツールズ)の基本的な使用方法習得。						
評価方法と基準	1)筆記テスト50% 2)実技テスト50%						

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	1年間の計画 機材廻り信号の流れ①を理解する。	ノート復習する。
2	講義	音の聴き方を学ぶ。	楽曲準備 解析復習をレポートにまとめる。
3	講義	プロツールズについて理解する。	WEBサイト閲覧しレポートを作成する。
4	講義	マイクについての知識を学ぶ。	マイク情報を収集しレポートを作成。
5	講義	エフェクターについての知識を学ぶ。	エフェクター情報を収集しレポートを作成。
6	講義	機材廻り信号の流れについての知識を学ぶ。	ノート復習する。
7	講義	レコーディングの基礎知識を学ぶ。	シグナルフローについて復習レポートを作成。
8	講義	学園祭総括。世の中にある機材の情報収 集をする。	WEBサイト閲覧により機材情報を収集しまとめる。
9	講義	音の聴き方を学ぶ。	楽曲準備し、解析復習レポートを作成。
10	講義	レコーディング技術を学ぶ。	シグナルフローについて復習レポートを作成。
11	講義	明日への扉 Recチームのワークフローを行	配布資料確認
12	講義	サラウンドについて学ぶ。	配布資料確認の上、サラウンドについて復習レポートを作成。
13	講義	試験を実施する。	試験内容の不明点を明確にする。
14	講義	ライブRECシステムについて学ぶ。	配布資料確認の上、ライブRECシステムについて復習レポートを作成。
15	講義	後期授業の総括をする。	ノート復習
準備学習 時間外学習		授業内容の復習やWEBサイト閲覧によりレポートを作成。	

【使用教科書・教材・参考書】

JAPRS サウンドレコーディング技術概論 Sound & Recording マガジン

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	舞台美術概論	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	北英樹
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	コンサートや演劇、イベント等の舞台監督として活動。実務歴35年。						
授業の学習 内容	舞台美術(セット)はなくてはならない物です。それを理解することはコンサート系コースのどのコースにおいても必ず意味があります。この授業では、紀元前からの舞台史を学び、舞台美術の知識を通してイメージングを広げて、スキルを上げていきます。						
到達目標	舞台の歴史を知ること、これからの新しいイベント、舞台を創造しゆく知識を習得することができ、創造力豊かな舞台スタッフとしての人材を育成する。						
評価方法と基準	筆記試験 50% 実技試験 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	舞台美術全般についての概要を説明する。	授業内容について復習レポートを作成。
2	講義	様々なジャンルのパフォーマンスについて学ぶ (日本のコンサート)	日本のコンサートについて復習レポートを作成。
3	講義	様々なジャンルのパフォーマンスについて学ぶ (ミュージカル)	ミュージカルについて復習レポートを作成。
4	講義	様々なジャンルのパフォーマンスについて学ぶ (ストレートプレイ)	ストレートプレイについて復習レポートを作成。
5	講義	様々なジャンルのパフォーマンスについて学ぶ (ダンスパフォーマンス)	ダンスパフォーマンスについて復習レポートを作成。
6	講義	様々なジャンルのパフォーマンスについて学ぶ (世界のコンサート)	世界のコンサートについて復習レポートを作成。
7	講義	様々なジャンルのパフォーマンスについて学ぶ (ショップデザイン)	ショップデザインについて復習レポートを作成。
8	講義	様々なジャンルのパフォーマンスについて学ぶ (ウィンドウディスプレイ)	ウィンドウディスプレイについて復習レポートを作成。
9	講義	舞台美術スタッフの仕事学ぶ	舞台美術スタッフの仕事について復習レポートを作成。
10	講義	工具、道具の知識と扱い方を学ぶ	工具、道具の知識と扱い方について復習レポートを作成。
11	講義	美術デザイナーの仕事について学ぶ	美術デザイナーの仕事について復習レポートを作成。
12	講義	舞台演出について学ぶ	舞台演出について復習レポートを作成。
13	講義	演劇公演の美術製作に関わる①	演劇公演の美術製作について復習レポートを作成。
14	講義	演劇公演の美術製作に関わる②	演劇公演の美術製作について復習レポートを作成。
15	試験	復習試験を実施する。	総まとめとしてレポートを作成。
準備学習 時間外学習		授業内容の復習レポートを作成する。	
【使用教科書・教材・参考書】			
「舞台美術の基礎知識」(レクラム社刊: 滝善光著)			

科目名	舞台制作概論1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 川原宏幸
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴	国内外アーティスト・アイドル・声優等のコンサートやイベントの舞台監督歴25年。					
授業の学習 内容	イベントやコンサートにおける舞台監督の業務を把握し、演目内容を進行していく能力を身につける。 実際のイベントを題材に打合せや資料作成を行う。					
到達目標	舞台制作スタッフに必要な知識、スキルを身につけることができる。イベント現場で必要となる判断能力を向上させる。					
評価方法と基準	筆記試験50% 実技試験50%					

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	前期講義と舞台制作についての概要説明を行う。	自己紹介内容を事前に準備する。
2	講義	舞台知識①：舞台監督の作業について理解する。	スタッフ赤本を読んで舞台監督業務に関する復習レポートを作成。
3	講義	舞台知識②：公演内容資料を理解する。	スタッフ赤本を読んで公演内容資料に関する復習レポートを作成。
4	講義	舞台知識③：図面が理解できるようになる。	スタッフ赤本を読んで舞台図面に関する復習レポートを作成。
5	講義	学園祭準備を通して制作を学ぶ。	学園祭の打合せに参加し、資料を作成する。
6	講義	学園祭反省会と引き継ぎ作業を行う。	学園祭時に使用した資料をまとめる。
7	講義	舞台知識④：各スタッフとの共有作業ができるようになる。	舞台スタッフとの共有作業について復習レポートを作成。
8	講義	高所・仮設作業について理解する。	高所・仮設作業について復習レポートを作成。
9	講義	知識応用①：墨出しを学ぶ。	墨出しについて復習レポートを作成。
10	講義	知識応用②：タッパ決めについて学ぶ。	タッパ決めについて復習レポートを作成。
11	講義	知識応用③：リハーサル進行について学ぶ。	リハーサル進行について復習レポートを作成。
12	講義	明日への扉の舞台演出部として参加。ミュージカル舞台の仕込み、進行、転換等を実践的に学ぶ。	打合せ、稽古立会い、資料の作成。
13	講義	明日への扉の舞台演出部として参加。ミュージカル舞台の仕込み、進行、転換等を実践的に学ぶ。	撤収作業から現状復帰までを行なう。
14	講義	知識応用④：公演進行の方法について学ぶ。	公演進行について復習レポートを作成。
15	試験	復習試験	前期まとめの復習レポートを作成。
準備学習 時間外学習		授業内容の復習レポートを作成し、学園祭や明日への扉の打合せ、資料作成を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】			
スタッフ赤本			

科目名	舞台制作概論2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	川原宏幸
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	国内外アーティスト・アイドル・声優等のコンサートやイベントの舞台監督歴25年。						
授業の学習 内容	公演内容を把握し、必要な資料作成を行う。Excel・PowerPointを使って資料作成を行う。						
到達目標	公演開催において、計画的に進行するための資料を作成するスキルを身につけることができる。						
評価方法と基準	筆記試験50% 実技試験50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	後期講義と舞台制作についての概要説明を行う。	前期授業内容を復習しておく。
2	講義	台本を作成する①：マスター作成ができるようになる。	マスター作成について復習レポートを作成。
3	講義	台本を作成する②：進行内容が書けるようになる。	進行内容を書くことについて復習レポートを作成。
4	講義	台本を作成する③：下書きについて理解する。	下書きの理解について復習レポートを作成。
5	講義	オリジナル台本を創ってみる。	オリジナル台本作成の復習レポートを作成。
6	講義	台本を基本に資料を作成する。	台本について復習レポートを作成。
7	講義	台本を印刷製本する。	印刷した台本を読む。
8	講義	We Are TSMの演出内容について考察し、資料を作成する。	We are TSM渋谷の打合せを行う。
9	講義	We Are TSMの舞台監督業務内容を理解する。	We are TSM渋谷の資料を作成する。
10	講義	We Are TSMの舞台監督業務におけるタイムテーブルや図面の作成を行う。	We are TSM渋谷のリハーサルを行う。
11	講義	We Are TSMの演出内容についてあらためて考察し、現状の資料をまとめる。	We are TSM渋谷のリハーサルを行う。
12	講義	We Are TSMの演出内容について照明、PA、映像セクションとの調整を行う。	進級制作展についての資料をまとめる。
13	講義	進級制作展にスタッフとして参加する。	打合せ、リハーサル立会、資料の作成。
14	講義	卒業進級制作展にスタッフとして参加する。	打合せ、リハーサル立会、資料の作成。
15	試験	復習試験を実施する。	後期まとめの復習レポートを作成。
準備学習 時間外学習		授業内容の復習レポートを作成し、学園祭や明日への扉の打合せ、資料作成を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】			
スタッフ赤本			

科目名	Vecer Works Basic 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	川原宏幸
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	国内外アーティスト・アイドル・声優等のコンサートやイベントの舞台監督歴25年。						
授業の学習 内容	図面製作ソフトベクターワークスの基本的な使い方を学び、実践で扱える技術を身につける。						
到達目標	ベクターワークスを使い、図形作成の知識、スキルをを習得する。						
評価方法と基準	知識を測るレポート提出 50% 実技試験 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	前期授業についての概要説明、MACの基本操作を学ぶ。	基本的なPC操作の復習レポートを作成。
2	講義	ベクターワークスに慣れる①	授業内容の復習レポートを作成。
3	講義	ベクターワークスに慣れる②	授業内容の復習レポートを作成。
4	講義	直線・曲線を自由に描く	直線、曲線を描く復習レポートを作成。
5	講義	多角線を描く	多角線を描く復習レポートを作成。
6	講義	図形を描く	図形を描く復習レポートを作成。
7	講義	線と図形を組み合わせて描く	図形を描く復習レポートを作成。
8	講義	縮尺を理解し、慣れて使う①	授業内容の復習レポートを作成。
9	講義	縮尺を理解し、慣れて使う②	授業内容の復習レポートを作成。
10	講義	劇場図面を理解する①	様々な劇場の図面を調べてみる。
11	講義	劇場図面を理解する②	様々な劇場の図面を調べてみる。
12	講義	明日への扉の舞台演出部として参加。ミュージカル舞台の図面を作成する。	明日への扉の図面作成と資料の整理
13	講義	明日への扉の舞台演出部として参加。ミュージカル舞台の図面を作成する。	明日への扉の図面作成と資料の整理
14	講義	簡易図面を作成する	授業内容の復習レポートを作成。
15	講義	前期まとめ 復習テスト	前期まとめの復習レポートを作成。
準備学習 時間外学習		授業内容の復習レポートを作成し、資料のまとめ、整理をする。	
【使用教科書・教材・参考書】			
ベクターワークス トレーニングブックより抜粋			

科目名	Vecer Works Basic2	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	川原宏幸
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	国内外アーティスト・アイドル・声優等のコンサートやイベントの舞台監督歴25年。						
授業の学習 内容	図面製作ソフトベクターワークスの基本的な使い方を学び、実践で扱える技術を身につける。						
到達目標	ベクターワークスを使い、図形作成・照明仕込み図作成の知識、スキルを習得する。						
評価方法と基準	知識を測るレポート提出 50% 実技試験 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	前期授業内容のふりかえり	前期授業内容の復習をしておく。
2	講義	袖幕配置、照明仕込み図のシンボル登録方法を学ぶ。	袖幕、シンボル登録の復習レポートを作成。
3	講義	舞台セット図と照明サス仕込み図が作成できるようになる。	セット図、サス仕込み図の復習レポートを作成。
4	講義	舞台セット図と照明サス仕込み図が作成できるようになる。	セット図、サス仕込み図の復習レポートを作成。
5	講義	舞台総合図と照明サス仕込み図が作成できるようになる。	セット図、サス仕込み図の復習レポートを作成。
6	講義	舞台図面の色つけと照明仕込み図の作成方法を学ぶ。	色付け、仕込み図の復習レポートを作成。
7	講義	舞台図面のオリジナル図作成と照明仕込み図の作成方法を学ぶ。	オリジナル図の課題提出、仕込み図復習レポートを作成。
8	講義	舞台のデザイン図と照明仕込み図の作成方法を学ぶ。	デザイン図の課題提出、仕込み図復習レポートを作成。
9	講義	卒業進級制作展演目別図面を作成する。	卒業進級制作展の内容を調べておく。
10	講義	卒業進級制作展演目別図面を作成する。	卒業進級制作展の内容を調べておく。
11	講義	卒業進級制作展演目別図面を作成する。	卒業進級制作展内容変更修正の把握。
12	講義	卒業進級制作展演目別図面を作成する。	卒業進級制作展内容変更修正の把握。
13	講義	作成した図面を活かし、進級制作展の舞台、照明を仕込む。	進級制作展の図面作成と資料の整理
14	講義	作成した図面を活かし、卒業進級制作展の舞台、照明を仕込む。	卒業進級制作展の図面作成と資料の整理
15	講義	年度末課題復習試験	後期授業の復習レポートを作成。
準備学習 時間外学習		授業内容の復習レポートを作成し、卒業進級制作展の準備を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】			
ベクターワークス トレーニングブックより抜粋・実公演図面			

科目名	Global communication1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	池末 信
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	外国人を前に怖がり恥ずかしくがたりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	英語で挨拶したり、自分の言いたいことを伝え、相手の言っていることを理解するなど、日常の場面で簡単な英語コミュニケーションが出来るようになる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)による採点						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	挨拶が出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 1
2	講義	個人の情報を聞きだすことが出来るようになる もう一度言ってもらえるようお願い出来る	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 3
3	講義	好き嫌いを表現出来るようになる 相手に質問で返すことが出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 6
4	講義	相手に意見を聞くことが出来るようになる 相手に意見を伝えることが出来るようになる 誘いに返答することが出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 8
5	講義	相手について褒めることが出来るようになる 褒め言葉に対して返答出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 11
6	講義	時間について尋ねる、伝達することが出来るようになる 日常生活について尋ねることが出来るようになる 日常生活について説明することが出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 7 & 13
7	講義	継続して質問することが出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 14
8	講義	場所について質問出来るようになる ある場所を説明することが出来るようになる 道案内ができるようになる 明確な説明をお願い出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 19 & 20
9	講義	頻度を説明することが出来るようになる 値段について質問出来るようになる 値段を説明することが出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 21 & 23
10	講義	食べ物について質問出来るようになる 食べ物を説明出来るようになる レストランで注文出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 28
11	講義	過去のことについて質問ができるようになる 過去のことを説明出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 29 & 30
12	講義	将来のことについて質問ができるようになる 将来のことを説明出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 32
13	講義	復習	復習オン ライン プラク ティス
14	定期試験	定期試験	試験を振り替えり、間違ったところを復習しレポートにまとめる。
15	振り返り	1~14の振り返り学習をし、総合的に確認し会話習得できる。	1~14の苦手な部分と得意な部分を書き出してレポートにまとめる。
準備学習 時間外学習		自宅で教科書に付随するオンラインプラクティスの内容を活用し、予習・復習を行うこと。	
【使用教科書・教材・参考書】			
Speak Now 1			

科目名	Global communication2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	池末 信
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	外国人を前に怖がり恥ずかしくがたりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	英語で挨拶したり、自分の言いたいことを伝え、相手の言っていることを理解するなど、日常の場面で簡単な英語コミュニケーションが出来るようになる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)による採点						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	挨拶が出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 1
2	講義	個人の情報を聞きだすことが出来るようになる もう一度言ってもらえるようお願い出来る	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 3
3	講義	好き嫌いを表現出来るようになる 相手に質問で返すことが出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 6
4	講義	相手に意見を聞くことが出来るようになる 相手に意見を伝えることが出来るようになる 誘いに返答することが出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 8
5	講義	相手について褒めることが出来るようになる 褒め言葉に対して返答出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 11
6	講義	時間について尋ねる、伝達することが出来るようになる 日常生活について尋ねることが出来るようになる 日常生活について説明することが出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 7 & 13
7	講義	継続して質問することが出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 14
8	講義	場所について質問出来るようになる ある場所を説明することが出来るようになる 道案内ができるようになる 明確な説明をお願い出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 19 & 20
9	講義	頻度を説明することが出来るようになる 値段について質問出来るようになる 値段を説明することが出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 21 & 23
10	講義	食べ物について質問出来るようになる 食べ物を説明出来るようになる レストランで注文出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 28
11	講義	過去のことについて質問ができるようになる 過去のことを説明出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 29 & 30
12	講義	将来のことについて質問ができるようになる 将来のことを説明出来るようになる	Speak Now 1オンラインプラクティス Unit 32
13	講義	復習	復習オン ライン プラク ティス
14	定期試験	定期試験	試験を振り替えり、間違ったところを復習しレポートに まとめる。
15	振り返り	1~14の振り返り学習をし、総合的に確認し会話習得できる。 15	1~14の苦手な部分と得意な部分を書き出してレポートに まとめる。
準備学習 時間外学習		自宅で教科書に付随するオンラインプラクティスの内容を活用し、予習・復習を行うこと。	
【使用教科書・教材・参考書】			
Speak Now 1			

科目名	韓国語講座 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	崔 可暎
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ハンゲルの理解、読み、聞き、作文まで対応 学んだ内容を基に、チームワークで会話の練習を行う 教科書で学んだものを応用して活用できるような発表も行う						
到達目標	韓国語での日常会話が可能になる 韓国語能力試験(TOPIK)の獲得を目標にします						
評価方法と基準	試験:100%(筆記、会話、聴解)						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	ハンゲルの理解	ハンゲルについて調べてレポートにまとめる
2	講義	ハンゲルの読み	ハンゲルの読みについての復習
3	講義	ハンゲルの読みのテスト	未達成箇所の復習
4	講義	パッチムの理解	パッチムについて調べてレポートにまとめる
5	講義	リスニング練習・テスト	未達成箇所の復習
6	講義	挨拶の会話文	挨拶の会話文を用いた例文の作成及び挨拶の種類について調べる
7	講義	「あります」「ありません」を使った表現	「あります」「ありません」の例文作成及び形容詞について調べる
8	講義	形容詞の応用	形容詞を用いた例文の作成及び敬語について調べる
9	講義	敬語の理解と使用	敬語で例文の作成及び敬語について調べる
10	講義	過去形文の理解	過去形文の作成及び未来形文について調べる
11	講義	未来形文の理解	未来形文の作成及び可能系文について調べる
12	講義	可能系文の理解	可能系文の作成及び次回授業での作文を構想する
13	講義	作文	韓国のビデオコンテンツ(字幕あり)を鑑賞し、感想文(日本語)を作成する
14	講義	期末テスト	未達成箇所の復習
15	講義	前期実施項目の復習	後期実施項目の予習
準備学習 時間外学習			
【使用教科書・教材・参考書】			
韓国語初歩の初歩 CD付／韓国語「文法」トレーニング			

科目名	韓国語講座 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 崔 可暎
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	ハンゲルの理解、読み、聞き、作文まで対応 学んだ内容を基に、チームワークで会話の練習を行う 教科書で学んだものを応用して活用できるような発表も行う					
到達目標	韓国語での日常会話が可能になる 韓国語能力試験(TOPIK)の獲得を目標にします					
評価方法と基準	試験:100%(筆記、会話、聴解)					

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	空港での表現	韓国のビデオコンテンツ(字幕なし)を鑑賞し、感想文(日本語)を作成する
2	講義	郵便局での表現	韓国のビデオコンテンツ(字幕なし)を鑑賞し、感想文(日本語)を作成する
3	講義	旅行先での表現	韓国のビデオコンテンツ(字幕なし)を鑑賞し、感想文(日本語)を作成する
4	講義	映画館・デートでの表現	韓国のビデオコンテンツ(字幕なし)を鑑賞し、感想文(日本語)を作成する
5	講義	病院に行った時の表現	韓国のビデオコンテンツ(字幕なし)を鑑賞し、感想文(日本語)を作成する
6	講義	美容室に行った時の表現	韓国のビデオコンテンツ(字幕なし)を鑑賞し、感想文(日本語)を作成する
7	講義	手紙の表現	韓国のビデオコンテンツ(字幕あり)を鑑賞し、感想文(韓国語)を作成する
8	講義	褒め言葉・指摘言葉	韓国のビデオコンテンツ(字幕あり)を鑑賞し、感想文(韓国語)を作成する
9	講義	リスニングのテスト	韓国のビデオコンテンツ(字幕あり)を鑑賞し、感想文(韓国語)を作成する
10	講義	面接の表現	韓国のビデオコンテンツ(字幕あり)を鑑賞し、感想文(韓国語)を作成する
11	講義	フリートーク(自分の国について)	韓国のビデオコンテンツ(字幕なし)を鑑賞し、感想文(韓国語)を作成する
12	講義	フリートーク(趣味について)	韓国のビデオコンテンツ(字幕なし)を鑑賞し、感想文(韓国語)を作成する
13	講義	作文	韓国のビデオコンテンツ(字幕なし)を鑑賞し、感想文(韓国語)を作成する
14	講義	期末テスト	未達成箇所の復習
15	講義	後期実施項目の復習	総復習
準備学習 時間外学習			
【使用教科書・教材・参考書】			
韓国語初歩の初歩 CD付/韓国語「文法」トレーニング			

科目名	日本語講座 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	池村雅彦
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部ー	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	滋慶グループで日本語検定対策N1, N2、ビジネス日本語担当						
授業の学習 内容	日本語能力試験合格のために必要な文法、語彙の意味、用法を学び練習問題で理解度を確認する。また適切なコミュニケーションがとれるように自然な表現、慣用表現などを導入、練習する。						
到達目標	①日本語能力試験N1合格を目指す。②上級レベルの文法、語彙、慣用表現を使えるようになる。③学んだ表現を使って自身の考え、物事の説明が適切にできる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	日本語講習の重要性と講習内容説明	アンケート
2	講義	レベルチェックテスト、自己紹介	自己の振り返り
3	講義	判断、意志を表す表現が理解できる	レベルチェックテストの復習
4	講義	仮定条件を使って判断、意志を表現することができる	提出文型、表現の復習
5	講義	理由を強調して自身の考えを述べる事が出来る	提出文型、表現の復習
6	講義	意向形を使い自身の考えを述べる事が出来る	提出文型、表現の復習
7	講義	地位や立場を表す表現を使って自身の判断を述べる事が出来る	提出文型、表現の復習
8	講義	「～ない」を使った間接的な言い方が理解できる	提出文型、表現の復習
9	講義	二重否定、反語を理解し正しく使う事が出来る	提出文型、表現の復習
10	講義	目標、目的をかたい表現で言う事が出来る	提出文型、表現の復習
11	講義	結果、事実関係を正確に伝える事が出来る	提出文型、表現の復習
12	講義	時間関係の表現を使い分ける事が出来る	宿題
13	講義	前期実施項目の復習	宿題
14	講義	試験実施	宿題
15	講義	総復習を通して、後期で強化する点を知る	宿題
準備学習 時間外学習			
【使用教科書・教材・参考書】スピードマスターN1文法、語彙力ぐんぐん1日10分、その他必要に応じた資料			

科目名	日本語講座 2	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	池村雅彦
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	滋慶グループで日本語検定対策N1, N2、ビジネス日本語担当						
授業の学習 内容	日本語能力試験合格のために必要な文法、語彙の意味、用法を学び練習問題で理解度を確認する。適切なコミュニケーションがとれるように自然な表現、慣用表現などを導入、練習する。テーマに沿ってグループディスカッション実施、グループの意見をまとめ発表する。						
到達目標	①日本語能力試験N1合格を目指す。②上級レベルの文法、語彙、慣用表現が適切に使えるようになる。③学んだ表現を使って自身の考え、物事の説明が適切にでき、スムーズなコミュニケーションがとれる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	挨拶、自己紹介を日本語でできる。	挨拶の復習と年間勉強計画表を作成
2	講義	大きさや量を強調する表現が理解できる	大きさや量を強調する表現の文型を作りレポート作成
3	講義	「ごとく」を使った表現を使い分けができる	「ごとく」を使った表現の文型を作りレポート作成
4	講義	連続する動作を表す表現を使うことができる	連続する動作を表す表現の文型を作りレポート作成
5	講義	評価や感情を表す表現を使うことができる	評価や感情を表す表現の文型を作りレポート作成
6	講義	大切に不可欠であることを表現できる	大切に不可欠であることを表現の文型を作りレポート作成
7	講義	価値や能力について適切に表現できる	価値や能力についての表現の文型を作りレポート作成
8	講義	「かいがある」などの似かよった表現が理解できる	「かいがある」などの似かよった表現の文型を作りレポート作成
9	講義	強い感情、気持ちを書き言葉で表せる	強い感情、気持ちの表現の文型を作りレポート作成
10	講義	状況を否定的、消極的な気持ちで表すことができる	状況を否定的、消極的な表現の文型を作りレポート作成
11	講義	驚き、感嘆、疑問などの表現が理解できる	驚き、感嘆、疑問などの表現の文型を作りレポート作成
12	講義	一つの例を示して他にもあることを強調できる	一つの例を示して他にもあることの表現の文型を作りレポート作成
13	講義	価値や能力について適切に表現できる	価値や能力についての表現の文型を作りレポート作成
14	講義	復習試験	試験準備として、これまでのレポートを確認しまとめる。
15	講義	総復習と意見交換	1~11の苦手なところを確認し再度レポートにまとめる。
準備学習 時間外学習			
【使用教科書・教材・参考書】スピードマスターN1文法、新完全マスターN1語彙、その他必要に応じた資料			

科目名	Inst Ensemble 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 城石 真臣 遠藤 敬三 小寺 良太 織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	
教員の略歴						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。					
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践する。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践する。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践する。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践する。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いて授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解する。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いてお
7		演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いてお
8		演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いてお
9		演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いてお
10		演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いてお
11		演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いてお
12		演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いてお
13		演習	ボサノバの基本パターンをアンサンブルを通して習得する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いてお
14		演習	2～13週で習った課題曲をさらい、前期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
15		演習	実技テスト及び前期内容の復習	1～13をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 城石 真臣 遠藤 敬三 小寺 良太 織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	
教員の略歴						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーブ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。					
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーブを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
2		演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
3		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
4		演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
6		演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
7		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
8		演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
9		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
10		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
11		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
12		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
13		演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
14		演習	2～13週で習った課題曲をさらい、前期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-1 (Vocal Training 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	崔可暎 橋元美沙 齊藤早春 鈴木さくら 吉田華奈 長谷川開 國末慶宏
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの基礎と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる。	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
9		演習	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
10		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
11		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
12		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
13		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
14		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする☑
15		演習	試験と復習	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習 時間外学習		ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-2 (Vocal Training 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 崔可暎 橋元美沙 齊藤早春 鈴木さくら 吉田華奈 長谷川開 國末慶宏
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。					
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの基礎と活用方法を習得し実践できるようになる。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
9		演習	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
10		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
11		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
12		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
13		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
14		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
15		演習	試験と復習	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習 時間外学習		ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B-1 (Vocal Reading 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	城山 恵利
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割を理解し説明ができる。	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割復習レポート作成
2		講義	メジャースケール(1)。 4分音符、4分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(1)。 4分音符、4分休符復習レポート作成
3		講義	メジャースケール(2)。 4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(2)。 4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を復習レポート作成
4		講義	Cメジャースケールに内在する音程を理解し説明ができる。	Cメジャースケールに内在する音程を復習レポート作成
5		講義	Cメジャートライアードを理解し説明ができる。。	Cメジャートライアードを復習レポート作成
6		講義	Cメジャーペンタトニックスケールを理解し説明ができる。	Cメジャーペンタトニックスケールを復習レポート作成
7		講義	ベースパート(ベースライン)を理解し説明ができる。	ベースパート(ベースライン)を復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題の提出。
9		講義	Fメジャースケール(1) タイとシンコペーションを理解し説明ができる。	Fメジャースケール(1) タイとシンコペーションを理解し説明ができる。
10		講義	3連符(1)を理解し説明ができる。	3連符(1)を復習レポート作成
11		講義	Cマイナースケール(旋律的短音階) 3連符(2)、C 短三和音を理解し説明ができる。	Cマイナースケール(旋律的短音階) 3連符(2)、C 短三和音を復習レポート作成
12		講義	Cマイナースケール(和声的短音階) 8分の6拍子(6拍子として)を理解し説明ができる。。	Cマイナースケール(和声的短音階) 8分の6拍子(6拍子として)を復習レポート作成
13		講義	Cマイナースケール(自然的短音階) 8分の6拍子(2拍子として)を理解し説明ができる。	Cマイナースケール(自然的短音階) 8分の6拍子(2拍子として)を復習レポート作成
14		講義	様々な調、音階、拍子記号の練習。(種々の)マイナースケール内の音程を理解し説明ができる。	様々な調、音階、拍子記号の練習。(種々の)マイナースケール内の音程を復習レポート作成
15		講義	期末試験と復習	期末課題に向けて復習レポート作成
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B-2 (Vocal Reading 3)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	三浦 侖 美
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていくためには、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
2		講義	コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程	G メジャースケール(1) コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程復習レポート作成
3		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
4		講義	B \flat メジャースケールについて説明できる。	B \flat メジャースケール復習レポート作成
5		講義	B \flat メジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールとコード進行について説明できる。	B \flat メジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールとコード進行復習レポート作成
6		講義	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
7		講義	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	A \flat メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコードについて説明できる。	A \flat メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコード復習レポート作成
10		講義	E マイナースケールについて説明できる。	E マイナースケール復習レポート作成
11		講義	D メジャースケールについて説明できる。。	D メジャースケール復習レポート作成
12		講義	E \flat メジャースケール。マイナーダイアトニックハーモニーについて説明できる。	E \flat メジャースケール。マイナーダイアトニックハーモニー復習レポート作成
13		講義	D マイナースケールについて説明できる。	D マイナースケール復習レポート作成
14		講義	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる練習について説明できる。。	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
15		講義	期末試験と復習	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-1 (Vocal Reading 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	城山 恵利
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割を理解し説明ができる。	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割復習レポート作成
2		講義	メジャースケール(1)。 4分音符、4分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(1)。 4分音符、4分休符復習レポート作成
3		講義	メジャースケール(2)。 4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(2)。 4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を復習レポート作成
4		講義	Cメジャースケールに内在する音程を理解し説明ができる。	Cメジャースケールに内在する音程を復習レポート作成
5		講義	Cメジャートライアドを理解し説明ができる。。	Cメジャートライアドを復習レポート作成
6		講義	Cメジャーペンタトニックスケールを理解し説明ができる。	Cメジャーペンタトニックスケールを復習レポート作成
7		講義	ベースパート(ベースライン)を理解し説明ができる。	ベースパート(ベースライン)を復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題の提出。
9		講義	Fメジャースケール(1) タイとシンコペーションを理解し説明ができる。	Fメジャースケール(1) タイとシンコペーションを理解し説明ができる。
10		講義	3連符(1)を理解し説明ができる。	3連符(1)を復習レポート作成
11		講義	Cマイナースケール(旋律的短音階) 3連符(2)、C 短三和音を理解し説明ができる。	Cマイナースケール(旋律的短音階) 3連符(2)、C 短三和音を復習レポート作成
12		講義	Cマイナースケール(和声的短音階) 8分の6拍子(6拍子として)を理解し説明ができる。。	Cマイナースケール(和声的短音階) 8分の6拍子(6拍子として)を復習レポート作成
13		講義	Cマイナースケール(自然的短音階) 8分の6拍子(2拍子として)を理解し説明ができる。	Cマイナースケール(自然的短音階) 8分の6拍子(2拍子として)を復習レポート作成
14		講義	様々な調、音階、拍子記号の練習。(種々の)マイナースケール内の音程を理解し説明ができる。	様々な調、音階、拍子記号の練習。(種々の)マイナースケール内の音程を復習レポート作成
15		講義	期末試験と復習	期末課題に向けて復習レポート作成
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-2 (Vocal Reading 4)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	三浦 侖 美
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
2		講義	コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程	G メジャースケール(1) コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程復習レポート作成
3		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
4		講義	B \flat メジャースケールについて説明できる。	B \flat メジャースケール復習レポート作成
5		講義	B \flat メジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールとコード進行について説明できる。	B \flat メジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールとコード進行復習レポート作成
6		講義	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
7		講義	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	A \flat メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコードについて説明できる。	A \flat メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコード復習レポート作成
10		講義	E マイナースケールについて説明できる。	E マイナースケール復習レポート作成
11		講義	D メジャースケールについて説明できる。。	D メジャースケール復習レポート作成
12		講義	E \flat メジャースケール。マイナーダイアトニックハーモニーについて説明できる。	E \flat メジャースケール。マイナーダイアトニックハーモニー復習レポート作成
13		講義	D マイナースケールについて説明できる。	D マイナースケール復習レポート作成
14		講義	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる練習について説明できる。。	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
15		講義	期末試験及び期末課題の提出。	期末課題の提出。
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A-1 (Gt style 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	クリス・ ジャーガ ンセン
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ギターの基礎知識の向上 様々なビートにあった演奏方法の習得						
到達目標	講師に提示された譜面を初見で間違えずに演奏できるかどうか、また理論的な解釈で説明できるかどうか						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について) ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (マイナー・メジャーペンタニック) スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (メジャースケール) スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (マイナースケール) スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (インターバル) スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ (コードストローク、ソロ)について復習する
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる (コードストローク、ソロ)	16ビート主体の曲に対するアプローチ (コードストローク、ソロ)について復習する
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する
9		演習	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について演奏できる	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について復習する
10		演習	ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について演奏できる	ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について復習する
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する
12		演習	コードトーン (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーン (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について復習する
13		演習	主要四和音 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる	主要四和音 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について復習する
14		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックニクとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析 (ダイアトニックニクとコードアルペジオの関係性について)について復習 する
15		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックニクとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析 (ダイアトニックニクとコードアルペジオの関係性について)について復習 する
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A-1 (Ba style 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 堀川 俊 平
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	ベーシストとしての基礎力・表現力を養う。					
到達目標	ベーシストとして活躍するためのステージング、アンサンブル力が身に付く。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップ・プレースについて復習する
2		演習	譜面の解説・読み方について演奏できる	譜面の解説・読み方について復習する
3		演習	運指の方法を知り楽曲に活かすについて演奏できる。	運指の方法を知り楽曲に活かすについて復習する
4		演習	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて演奏できる	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて復習する
5		演習	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて演奏できる	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて復習する
6		演習	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて演奏できる	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて復習する
7		演習	ペンタニックコードについて演奏できる	ペンタニックコードについて復習する
8		演習	音符の長さについて演奏できる	音符の長さについて復習する
9		演習	8ビートの基本について演奏できる	8ビートの基本について演奏できる
10		演習	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる
11		演習	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる
12		演習	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる
13		演習	メジャー・マイナースケールについて演奏できる	メジャー・マイナースケールについて演奏できる
14		演習	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる
15		演習	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A-1 (Dr style 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 奥 出矢
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	ドラムを演奏する上で必要な基礎的な技術、知識を学ぶ。 譜面の理解度をあげ様々なジャンルのアンサンブル力を養う。					
到達目標	基礎的なスティックコントロールができる。譜面の読み書きができる。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		演習	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)演奏できる	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する	
2		演習	ドラム譜面の解説・読み方を説明できる	ドラム譜面の解説・読み方を復習する、	
3		演習	ドラム譜面の書き方を説明できる	ドラム譜面の書き方を復習する、	
4		演習	スティックの持ち方(マッチド・トラディショナル)を説明できる	スティックの持ち方(マッチド・トラディショナル)を復習する、	
5		演習	打楽器に触れる	打楽器を復習する、	
6		演習	正しい演奏フォームを説明できる	正しい演奏フォームを復習する、	
7		演習	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を説明できる	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を復習する、	
8		演習	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを説明できる	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを復習する、	
9		演習	8ビートの仕組み、理解し演奏できる。	8ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、	
10		演習	16ビートの仕組み、理解し演奏できる	16ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、	
11		演習	ソロメイキングを学び演奏できる	ソロメイキングを学び演奏を復習する、	
12		演習	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏できる	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏を復習する、	
13		演習	シンコペーションを習得し演奏できる	シンコペーションを習得し演奏を復習する、	
14		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する、	
15		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する、	
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Band Ensemble A-1 (Key style 1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。					
到達目標	楽譜の読み書きができる。ダイアトニックコードの成り立ちを理解しているなどの基礎的な理論、 キーボードの音が出せる、自分の好みの音色が使えるなどの実技の基礎的なものを習得する。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏で	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	楽譜の読み方 ト音を説明できる。	楽譜の読み方 ト音を復習する。
3		演習	楽譜の読み方 ヘ音を説明できる。	楽譜の読み方 ヘ音を復習する
4		演習	楽譜の書き方 音符を説明できる。	楽譜の書き方 音符を復習する。
5		演習	楽譜の書き方 記号を説明できる。	楽譜の書き方 記号を復習する。
6		演習	ダイアトニックコードを学び演奏できる。	ダイアトニックコードを復習する。
7		演習	音色を変えてのコード学び演奏できる。	音色を変えてのコードを復習する。
8		演習	コードアレンジ(和音の積み方)学び演奏できる。	コードアレンジ(和音の積み方を復習する。
9		演習	音色を変えてのコードアレンジ学び演奏できる。	音色を変えてのコードアレンジを復習する。
10		演習	オンレーターの説明学び演奏できる。	オンレーターの説明を復習する。
11		演習	自分好みの音色を作り。演奏できる。	自分好みの音色を復習する。
12		演習	コードトーン (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーンを復習する。 (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる
13		演習	主要四和音 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる	主要四和音を復習する。 (トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる
14		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析演奏を復習する。 (ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)
15		演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A-2 (Gt style 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 クリス・ ジャーガン セン
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	コードルとモーダルについて理解し、コードの分解と着地について理解を深める。					
到達目標	講師に提示された譜面を初見で演奏し、アドリブで演奏できるか。また理論的な解釈で説明できるようになる。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	ダイアトニックとチャーチモードの関係性について説明できる。	ダイアトニックとチャーチモードの関係性を復習する。
3		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (チャーチモード/ドリアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (チャーチモード/ドリアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得
4		演習	演奏における音楽理論 (チャーチモード/フリジアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (チャーチモード/フリジアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得
5		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (チャーチモード/リディアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (チャーチモード/リディアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得
6		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (チャーチモード/ミクソリディアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (チャーチモード/ミクソリディアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得
7		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (チャーチモード/ロクリアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (チャーチモード/ロクリアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得
8		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (メロディックマイナースケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (メロディックマイナースケール) スケールを基にしたフレーズの習得
9		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (ハーモニックマイナースケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (ハーモニックマイナースケール) スケールを基にしたフレーズの習得
10		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (ディミニッシュスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (ディミニッシュスケール) スケールを基にしたフレーズの習得
11		演習	ノンダイアトニックコードについて説明できる。	ノンダイアトニックコードを復習する。
12		演習	コードの分解と着地について説明できる。	コードの分解と着地を復習する。
13		演習	アドリブ/モーダルとコードルについて説明できる。	アドリブ/モーダルとコードルを復習する。
14		演習	リズムメソッドについて説明できる。	リズムメソッドを復習する。
15		演習	講師の提示する楽譜でアドリブ演奏について説明できる。	講師の提示する楽譜を復習する。
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A-2 (Ba style 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 堀川 俊 平
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	アンサンブルを行うのに必要な基礎力を身につけ、家譜代楽曲を使用し、表現力を養う。					
到達目標	アンサンブルという音でのコミュニケーションを通して、自分を表現できる。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	ポップスの基礎的な演奏方法を習得し演奏する。	ポップスの基礎的な演奏方法を復習する。
3		演習	裏拍を理解し、グルーブを理解し演奏する。	裏拍を理解し、グルーブを復習する。
4		演習	R&Bの基礎的な演奏方法を習得し演奏する。	R&Bの基礎的な演奏方法を復習する。
5		演習	ソロのフレーズメイキングを習得し演奏する。	ソロのフレーズメイキングを復習する。
6		演習	ペントニックコードを習得し演奏する。	ペントニックコードを復習する。
7		演習	オンタイム・前ノリ・後ろノリを習得し演奏する。	オンタイム・前ノリ・後ろノリを復習する。
8		演習	アンサンブル内での効果的な演奏方法を課題曲を習得し演奏する。	アンサンブル内での効果的な演奏方法を課題曲を復習する。
9		演習	スラップの奏法、効果を習得し演奏する。	スラップの奏法、効果を復習する。
10		演習	ベースのコード引きを習得し演奏する。	ベースのコード引きを復習する。
11		演習	ベースのコード引きを習得し演奏する。	ベースのコード引きを復習する。
12		演習	DAWの利点を習得し演奏する。	DAWの利点を復習する。
13		演習	DAWを習得し演奏する。	DAWを復習する。
14		演習	LIVEを想定した音作り、パフォーマンスを習得し演奏する。	LIVEを想定した音作り、パフォーマンスを復習する。
15		演習	LIVEを想定した音作り、パフォーマンスを習得し演奏する。	LIVEを想定した音作り、パフォーマンスを復習する。
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A-2 (Dr style 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 奥 出矢
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	様々なジャンルのリズムを学ぶ。実践を想定しての効果的な演奏を習得。 電子機器の使用を習得。					
到達目標	様々なリズムの習得。DAWを使用したLIVEの実施。 電子ドラムの扱いを習得。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)演奏できる	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	JAZZのフィールを習得し演奏する。	JAZZのフィールを復習する。
3		演習	コンビネーションfillの構築を習得し演奏する。	コンビネーションfillの構築を復習する。
4		演習	サンバ・ボサノバ・レゲエを習得し演奏する。	サンバ・ボサノバ・レゲエを復習する。
5		演習	ブラシの使用方法を習得し演奏する。	ブラシの使用方法を復習する。
6		演習	アンサンブルの理解、実践を習得し演奏する。	アンサンブルの理解、実践を復習する。
7		演習	ドラムのサウンドとアンサンブルを習得し演奏する。	ドラムのサウンドとアンサンブルを復習する。
8		演習	電子ドラムの実践的な使用方法を習得し演奏する。	電子ドラムの実践的な使用方法を復習する。
9		演習	コンガ・ボンゴ等のアンサンブルを習得し演奏する。	コンガ・ボンゴ等のアンサンブルを復習する。
10		演習	楽器のメンテナンスとその効果を習得し演奏する。	楽器のメンテナンスとその効果を復習する。
11		演習	DAWを使用したドラミングを習得し演奏する。	DAWを使用したドラミングを復習する。
12		演習	DAWを使用したドラミングを習得し演奏する。	DAWを使用したドラミングを復習する。
13		演習	DAWの実践的なアンサンブルを習得し演奏する。	DAWの実践的なアンサンブルを復習する。
14		演習	LIVEを想定してのステージングを習得し演奏する。	LIVEを想定してのステージングを復習する。
15		演習	DAWを使用したドラミングを習得し演奏する。	DAWを使用したドラミングを復習する。
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A-2 (Key style 2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。 ダイアトニック以外のコードや、スケールなどより実践的なものを行う。					
到達目標	ダイアトニックコード以外のコードを理解しアレンジなどの理解力を高める。 演奏面ではボイスを変えしよりプロフェッショナルな演奏力をつける。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	M7、7コードの成り立ちを習得し演奏する。	M7、7コードの成り立ちを復習する。
3		演習	m7、m9コードの成り立ちを習得し演奏する。	m7、m9コードの成り立ちを復習する。
4		演習	dim,augコードの成り立ちを習得し演奏する。	dim,augコードの成り立ちを復習する。
5		演習	ダイアトニックスケールを習得し演奏する。	ダイアトニックスケールを復習する。
6		演習	ナチュラル、メロディック、ハーモニックマイナースケールを習得し演奏する。	ナチュラル、メロディック、ハーモニックマイナースケールを復習する。
7		演習	1oct soloを習得し演奏する。	1oct soloを復習する。
8		演習	1oct solo+バックングを習得し演奏する。	1oct solo+バックングを復習する。
9		演習	2oct soloを習得し演奏する。	2oct soloを復習する。
10		演習	2oct solo+バックングを習得し演奏する。	2oct solo+バックングを復習する。
11		演習	midiを使つての演奏課題曲の楽譜作成を習得し演奏する。	midiを使つての演奏課題曲の楽譜作成を復習する。
12		演習	1oct soloを習得し演奏する。	1oct soloを復習する。
13		演習	1oct solo+バックングを習得し演奏する。	1oct solo+バックングを復習する。
14		演習	2oct soloを習得し演奏する。	2oct soloを復習する。
15		演習	2oct solo+バックングを習得し演奏する。	2oct solo+バックングを復習する。
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble B-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 クリス・ジャー ガンセン 堀川 俊平 奥 出矢 織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	
教員の略歴						
授業の学習内容	国内外問わず、音楽業界で活躍していく為には、様々なジャンルの音楽を知り、各パートの奏法、リズム、表現方法、パフォーマンス等をアンサンブルを通して身に付ける必要があります。この授業では、2週続きで指定された課題曲を通して、音楽ジャンルや音楽の歴史を学びながら、ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのパートが合わさってアンサンブルを実践していきます。					
到達目標	バンド形態で歌うスキルや楽器演奏力を養う。 音楽でコミュニケーションが取れるようになる。 ジャンルの違いを理解し、リズム感や表現力、パフォーマンス力を身に付ける。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	バンドアンサンブルについての概要説明、ブルースの成り立ちや歴史を学び、ブルースを演奏する必要性を理解する。	授業で学んだブルースについて復習し、理解を深める。
2		演習	ブルースの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ブルースのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。
3		演習	ブルースの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。 次週の予習もしておく。
4		演習	モータウンの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	モータウンのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。
5		演習	モータウンの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。 次週の予習もしておく。
6		演習	ソウルの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ソウルのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。
7		演習	ソウルの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。 次週の予習もしておく。
8		演習	ファンクの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ファンクのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。
9		演習	ファンクの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。 次週の予習もしておく。
10		演習	70年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	70'sClassicRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。
11		演習	70年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。 次週の予習もしておく。
12		演習	80年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	80'sClassicRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。
13		演習	80年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。 次週の予習もしておく。
14		演習	中間発表。課題曲の中から選択した曲をステージでパフォーマンスする。	実際のステージで演奏することにより気づいた部分を反省し、弱点克服に向けて練習をする。
15		演習	テストと復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			課題曲の復習と予習をしっかりと行う。各ジャンルの課題曲以外の曲もたくさん聞く。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble B-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 クリス・ジャー ガンセン 堀川 俊平 奥 出矢 織原 洋子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 屋間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	
教員の略歴						
授業の学習内容	国内外問わず、音楽業界で活躍していく為には、様々なジャンルの音楽を知り、各パートの奏法、リズム、表現方法、パフォーマンス等をアンサンブルを通して身に付ける必要があります。この授業では、2週続きで指定された課題曲を通して、音楽ジャンルや音楽の歴史を学びながら、ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのパートが合わさってアンサンブルを実践していきます。					
到達目標	バンド形態で歌うスキルや楽器演奏力を養う。 音楽でコミュニケーションが取れるようになる。 ジャンルの違いを理解し、リズム感や表現力、パフォーマンス力を身に付ける。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	90年代ロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	90'sRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。
2		演習	90年代ロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
3		演習	コンテンポラリーロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ContemporaryRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。
4		演習	コンテンポラリーロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
5		演習	コンテンポラリーポップの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ContemporaryPOPのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。
6		演習	コンテンポラリーポップの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。
7		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。
8		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。
11		演習	数バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業を進めていく事の理解を深めていく。
13		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。
14		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。
15		演習	テストと復習	1-14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			課題曲の復習と予習をしっかりと行う。バンド練習を行い、制作物やアー写、撮影など自主的に行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	セッションアレンジゼミ 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	村田 隆行
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 屋間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	鳴瀬喜博・IKUO・村田、3人のベーシストによるユニット「THE CHOPPERS REVOLUTION」を結成し、キングレコード、徳間JAPANより2枚のフル・アルバムとライブDVDを発表。						
授業の学習 内容	<p>①「BANDアンサンブルをテーマに、プロフェッショナルな現場での急なアレンジや自身の演奏スタイルの応用までを習得する。」</p> <p>②「各パートの授業、理論の実践の場。」</p> <p>③「瞬発的なアンサンブルやアレンジの対応を求められる事で、自身の演奏課題が明確になる事。(アンサンブル力・楽器演奏力)この二つがプロフェッショナルとして通用するための課題が明確になり、それらを勉強・実践する事により、ステージや録音現場で堂々と演奏が出来き、自信に繋がっていく場になって欲しい。」</p> <p>①～③をふまえ、課題曲を中心に、みんなで演奏をする事、その結果どうなったかを録音し、みんなでチェックをする。リズム・ハーモニー・メロディー、これらのテーマを各楽器がどう考え、何に気をつけながら演奏しなければいけないのかをみんなで考察する。他パートが何を考えているのか、どう変化すればどの様なアンサンブルが生まれるのかをみんなで考える事により、自然とアンサンブルやバンド・アレンジに対する意識を各ミュージシャンが身につけてほしい。</p>						
到達目標	<p>①急なアレンジの変更・楽曲の提示を対応する事により、自身の楽器演奏レベルの向上、授業の実践をする事から自身の目標をさらに明確にする。</p> <p>②アンサンブル・アレンジに対するチームワーク意識と大切さを持ってもらう。</p> <p>③インストゥルメンタル・ミュージックとヴォーカルのためのアンサンブルの違いをこの授業から理解し、状況によりコントロール出来る様になる。</p>						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	この授業の説明とチームの振り分け	共有された課題曲を全曲一通り事前に聞いておく
2		演習	課題曲①を使っているアンサンブル/前半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
3		講義	①のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジの応用	・バンドアンサンブルに必要な担当楽器のセルフアレンジ力の幅を広げるためのトレーニング
4		演習	課題曲を使っているアンサンブル/後半	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
5		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
6		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
7		演習	課題曲を使っているアンサンブル②	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
8		講義	②のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジの応用	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
9		講義	②のアレンジの考察と主にハーモニー・リアレンジの応用	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
10		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
11		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
12		演習	課題曲を使っているアンサンブル③(課題曲まとめ)	課題曲のアレンジ発表
13		演習	課題曲を使っているアンサンブル④(課題曲まとめ)	課題曲のアレンジ発表
14		講義	前期項目の総復習	前期未達成項目の復習
15		演習	期末テスト実施と復習	前期未達成項目の復習
準備学習 時間外学習			スキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	セッションアレンジゼミ 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	村田 隆行
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	鳴瀬喜博・IKUO・村田、3人のベーシストによるユニット「THE CHOPPERS REVOLUTION」を結成し、キングレコード、徳間JAPANより2枚のフル・アルバムとライブDVDを発表。						
授業の学習 内容	<p>①「前期よりもリズム、コード感に特化し、プロフェッショナルな現場での急なアレンジや自身の演奏スタイルの応用までを習得する。」</p> <p>②「各パートの授業、理論の実践の場。」</p> <p>③「瞬発的なアンサンブルやアレンジの対応を求められる事で、自身の演奏課題が明確になる事。(アンサンブル力・楽器演奏力)この二つがプロフェッショナルとして通用するための課題が明確になり、それらを勉強・実践する事により、ステージや録音現場で堂々と演奏が出来き、自信に繋がっていく場になって欲しい。」</p> <p>①～③をふまえ、課題曲を中心に、みんなで演奏をする事、その結果どうなったかを録音し、みんなでチェックをする。リズム・ハーモニー・メロディー、これらのテーマを各楽器がどう考え、何に気をつけながら演奏しなければいけないのかをみんなで考察する。他パートが何を考えているのか、どう変化すればどの様なアンサンブルが生まれるのかをみんなで考える事により、自然とアンサンブルやバンド・アレンジに対する意識を各ミュージシャンが身につけてほしい。</p>						
到達目標	<p>①急なアレンジの変更・楽曲の提示を対応する事により、自身の楽器演奏レベルの向上、授業の実践をする事から自身の目標をさらに明確にする。</p> <p>②アンサンブル・アレンジに対するチームワーク意識と大切さを持ってもらう。</p> <p>③インストゥルメンタル・ミュージックとヴォーカルのためのアンサンブルの違いをこの授業から理解し、状況によりコントロール出来る様になる。</p>						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	前期の振り返り	後期の予習
2		演習	課題曲①を使つてのアンサンブル/前半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
3		講義	①のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジの応用	・バンドアンサンブルに必要な担当楽器のセルフアレンジ力の幅を広げるためのトレーニング
4		演習	課題曲を使つてのアンサンブル/後半	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
5		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
6		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
7		演習	課題曲を使つてのアンサンブル②	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
8		演習	②のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジの応用	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
9		演習	②のアレンジの考察と主にハーモニー・リアレンジの応用	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
10		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
11		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフルの応用/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
12		演習	課題曲を使つてのアンサンブル③(課題曲まとめ)	課題曲のアレンジ発表
13		演習	課題曲を使つてのアンサンブル④(課題曲まとめ)	課題曲のアレンジ発表
14		講義	後期項目の総復習	後期末達成項目の復習
15		演習	期末テスト実施と復習	後期末達成項目の復習
準備学習 時間外学習			スキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Vocal Band Ensemble 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 原田 由佳 田原 佑一朗
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習内容	国内外問わず、音楽業界で活躍していく為には、様々なジャンルの音楽を知り、各パートの奏法、リズム、表現方法、パフォーマンス等をアンサンブルを通して身に付ける必要があります。この授業では、2週続きで指定された課題曲を通して、音楽ジャンルや音楽の歴史を学びながら、ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのパートが合わさってアンサンブルを実践していきます。					
到達目標	バンド形態で歌うスキルや楽器演奏力を養う。 音楽でコミュニケーションが取れるようになる。 ジャンルの違いを理解し、リズム感や表現力、パフォーマンス力を身に付ける。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)	
1		演習	バンドアンサンブルについての概要説明、ブルースの成り立ちや歴史を学び、ブルースを演奏する必要性を理解する。		授業で学んだブルースについて復習し、理解を深める。	
2		演習	ブルースの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。		ブルースのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。	
3		演習	ブルースの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。		課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
4		演習	モータウンの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。		モータウンのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。	
5		演習	モータウンの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。		課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
6		演習	ソウルの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。		ソウルのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。	
7		演習	ソウルの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。		課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
8		演習	ファンクの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。		ファンクのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。	
9		演習	ファンクの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。		課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
10		演習	70年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。		70'sClassicRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。	
11		演習	70年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。		課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
12		演習	80年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。		80'sClassicRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。	
13		演習	80年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。		課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
14		演習	中間発表。課題曲の中から選択した曲をステージでパフォーマンスする。		実際のステージで演奏することにより気づいた部分を反省し、弱点克服に向けて練習をする。	
15		演習	テストと復習		1-14をまとめてレポート作成	
準備学習 時間外学習			課題曲の復習と予習を行う。各ジャンルの課題曲以外の曲も聞く。準備復習研究時間として週4時間行う。			
【使用教科書・教材・参考書】						

科目名	Vocal Band Ensemble 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 原田 由佳 田原 佑一朗
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習内容	国内外問わず、音楽業界で活躍していく為には、様々なジャンルの音楽を知り、各パートの奏法、リズム、表現方法、パフォーマンス等をアンサンブルを通して身に付ける必要があります。この授業では、2週続きで指定された課題曲を通して、音楽ジャンルや音楽の歴史を学びながら、ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのパートが合わさってアンサンブルを実践していきます。					
到達目標	バンド形態で歌うスキルや楽器演奏力を養う。 音楽でコミュニケーションが取れるようになる。 ジャンルの違いを理解し、リズム感や表現力、パフォーマンス力を身に付ける。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)	
1		演習	90年代ロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。		90'sRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。	
2		演習	90年代ロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。		課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
3		演習	コンテンポラリーロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。		ContemporaryRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。	
4		演習	コンテンポラリーロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。		課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
5		演習	コンテンポラリーポップの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。		ContemporaryPOPのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。	
6		演習	コンテンポラリーポップの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。		課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
7		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。		バンド練習を行う。	
8		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。		バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。	
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。		バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。	
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。		バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。	
11		演習	数バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。		バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。	
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。		PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業を進めていく事の理解を深めていく。	
13		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。		バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。	
14		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。		最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。	
15		演習	テストと復習		1-14をまとめてレポート作成	
準備学習 時間外学習			課題曲の復習と予習をしっかりと行う。バンド練習を行い、制作物やアー写、撮影など自主的に行う。			
【使用教科書・教材・参考書】						

科目名	Vocal Performance 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西野 恭 平
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	ダンス&ヴォーカリストとして多くのイベントやアーティストのサポート、また自らもアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを実践できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
15		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なパフォーマンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Vocal Performance 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西野 恭 平
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	ダンス&ヴォーカリストとして多くのイベントやアーティストのサポート、また自らもアーティストとして活躍						
授業の学習 内容	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを実践できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
15		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なパフォーマンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Piano Duo 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 潤 豊 田原 佑一朗 熊谷 丈
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習内容	音楽業界で活躍していく為には、ピアノと歌のアンサンブルを重点的に学ぶことが望ましい。本講義ではいくつかのピアノパターンにあわせた歌唱法を学び表現に繋げていけるようにする。					
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なアンサンブルスキルを習得し実践できる。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	POPSリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		演習	POPSリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		演習	ROCKリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		演習	ROCKリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		演習	サンバ系リズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		演習	サンバ系リズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		演習	フリーのリズムを感じながらの表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		演習	フリーのリズムを感じながらのアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
13		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
14		演習	歌からスタートする音楽を学び実践できる	歌からスタートする音楽を学び実践できる
15		演習	試験	1-14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Piano Duo 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 潤 豊 田原 佑一朗 熊谷 丈
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習内容	リズム、ボリューム、コミュニケーション、曲の構成など、演奏を通してアンサンブル力を育てる					
到達目標	譜面を見ながら演奏もしくは歌唱できるようになる。					
評価方法と基準	実技試験100%%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	POPSリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		演習	POPSリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		演習	ROCKリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		演習	ROCKリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		演習	サンバ系リズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		演習	サンバ系リズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		演習	フリーのリズムを感じながらの高度な表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		演習	フリーのリズムを感じながらの高度なアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
13		演習	JAZZリズムにあわせた高度な高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
14		演習	歌からスタートする高度な音楽を学び実践できる	歌からスタートする音楽を学び実践できる
15		演習	試験	1-14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Song Writing 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田 隆 志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。本講義ではジャズ音楽理論の応用とその使用方法を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なジャズ音楽理論の応用と作曲方法を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	楽器構造と特有な記譜法を理解し実演	楽器構造と特有な記譜法を理解し復習
2		演習	メトロノームを使用したを理解し実演。	メトロノームを使用したを理解し復習
3		演習	カホンの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	カホンの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
4		演習	ティンパレスの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	ティンパレスの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
5		演習	ゴーストモーションに関するを理解し実演	ゴーストモーションに関するを理解し復習
6		演習	フィルインに関する考察を理解し実演	フィルインに関する考察を理解し復習
7		演習	コンガの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	コンガの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
8		演習	その他パーカッション (シェイカーやカウベルなど) の各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	その他パーカッション (シェイカーやカウベルなど) の各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
9		演習	16ビートの実践。リード感覚に関する考察を理解し実演	16ビートの実践。リード感覚に関する考察を理解し復習
10		演習	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察を理解し実演	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察を理解し復習
11		演習	マイナスイオン音源を使用したトレーニングの実施を理解し実演	マイナスイオン音源を使用したトレーニングの実施を理解し復習
12		演習	リズム構造の理解とフィルの実践を理解し実演	リズム構造の理解とフィルの実践を理解し復習
13		演習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し実演	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
14		演習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し実演	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
15		演習	学期末試験実施と復習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Song Writing 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田 隆 志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。本講義ではジャズ音楽理論の応用とその使用方法を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なジャズ音楽理論の応用と作曲方法を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	アレンジングを理解し説明ができる	アレンジング 復習レポート作成
2		講義	メロディーとハーモニーの関係。和声音と非和声音。コードシンボルを理解し説明ができる	和声音と非和声音。コードシンボルの復習レポート作成
3		講義	楽器グループと音域。ソロ、ユニゾン、オクターブメロディー。メロディーのアレンジメントを理解し説明ができる	楽器グループと音域の復習レポート作成
4		講義	4パートソリ。メカニカルヴォイシング (4ウェイクローズ、ドロップ2、ドロップ3、ドロップ2+4) を理解し説明ができる	4パートソリ。メカニカルヴォイシングの復習レポート作成
5		講義	4パートソリ。アプローテックニック。ローインターヴァルリミットを理解し説明ができる	ローインターヴァルリミットの復習レポート作成
6		講義	2パートソリ、3パートソリを理解し説明ができる	2パートソリ、3パートソリの復習レポート作成
7		講義	中間課題の説明を理解し述べる事ができる。	中間課題レポート作成
8		講義	中間確認試験と復習	1-8の復習レポート作成
9		講義	ヴォイスリーディングとガイドトーンラインを理解し説明ができる	ヴォイスリーディングの復習レポート作成
10		講義	ガイドトーンバックグラウンドとスプレッドヴォイシングを理解し説明ができる	ガイドトーンバックグラウンドとスプレッドヴォイシングの復習レポート作成
11		講義	ガイドトーンラインの装飾とカウンターメロディーを理解し説明ができる	ガイドトーンラインの装飾とカウンターメロディー復習レポート作成
12		講義	インデペンデントリード。ソリとの混用を理解し説明ができる	インデペンデントリードの復習レポート作成
13		講義	アーティキュレーション。編曲の手順、復習、詳細、そして練習を理解し説明ができる	編曲の手順、復習、詳細、そして復習レポート作成
14		講義	期末課題の説明を理解し述べる事ができる。	期末課題に向けて復習レポート作成
15		講義	期末試験と復習	期末課題に向けて復習レポート作成
準備学習 時間外学習			ジャズ音楽理論の基礎と作曲方法の確認と復習を実践していく。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Composition 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大貫 和 紀
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	作曲するための理論と手順を伝える。 自分で楽譜に起こす他、DTM(デスクトップミュージック)にて楽曲を完成させられるようにする。						
到達目標	この授業を通して1曲を自分の力で作れるようになる。 楽曲を作るために必要な理論を習得するとを到達目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	基本的なトライアドの理解	1 2音階のメジャースケールを理解、midiキーボードで演奏できるようにする
2		講義	ダイアトニックコードの理解	1 2音階のダイアトニックコード演奏できるようにする
3		演習	ダイアトニックコードを使ってコード進行を作る	ダイアトニックコードのみで作られている曲を選別しコード進行のパターンをメモしておく
4		演習	セカンダリードミナント、同主調の取り入れ	セカンダリードミナントのコードワークを理解し、理論的分析。ノンダイアトニックにおけるメロディーの作り方
5		演習	リレイテッドIImを取り入れる	リレイテッドIImとセカンダリードミナントの関係を理解する
6		講義	課題曲(1-VIm-IV-V)のアナライズ	課題曲(1-VIm-IV-V)のアナライズ
7		演習	課題曲のメロディーを変えずコード進行を変更	コードとメロディーの関係を理解する
8		試験	課題曲のコード進行を変更し採譜して提出	コードとメロディーの関係を理解する
9		演習	ガレージバンドで課題曲のドラムのリズムパターンを打ち込んでみる。	ドラムのことを調べドラムのパターンを3つ覚える
10		演習	Logicにガレージバンドで打ち込んだデータを入れフィルのループを挿入してみる	ドラムのフィルについて研究し3パターン作成し実際に使ってみる
11		演習	Logicを使いベースとギターとキーボードを打ち込んでみる	各楽器の奏法と音色について調べて理解する
12		演習	打ち込んだデータとヴォーカルレコーディングしたデータをラフミックスする。EQとコンプレッサーの処理をする	ヴォーカルをレコーディングしてみる
13		演習	マスタリング作業の工程を理解、マスタリングの重要性。	各楽器の音量のバランスを再度調整
14		演習	前期のおさらい	DTMの基本、音楽理論まとめ
15		試験	課題曲を打ち込んだものをアレンジし提出	未達成箇所の復習
準備学習 時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Composition 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大貫 和 紀
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	作曲するための理論と手順を伝える。 前期で学んだ内容を元にコードの抑揚(明るい、暗い)の幅を広げるための理論を学ぶ。 自分で楽譜に起こす他、DTM(デスクトップミュージック)にて楽曲を完成させられるようにする。						
到達目標	作詞作曲をし1曲打ち込みができるようになる。 この授業や、他の授業で学んだ内容を活かし ミックスマスタリングの重要性を理解した状態でのアレンジをする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	作詞のやり方、作詞の練習の仕方	課題曲に新たな詞を追加し課題曲の歌詞にあった詞を作成する
2		講義	前期で打ち込んだ課題曲のメロディーを変更	メロディーのパターンを3種類授業外で作成
3		演習	変更したメロディーに新たな歌詞を作成する	変更したメロディーに沿ったアレンジをする
4		演習	講師が提示したコード進行のパターンを使ってロックの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	ロックというジャンルがどういジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
5		演習	講師が提示したコード進行のパターンを使ってバラードの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	バラードというジャンルがどういジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
6		演習	講師が提示したコード進行のパターンを使ってポップスの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	ポップスというジャンルがどういジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
7		試験	ロック、バラード、ポップスの3曲のうちどれかを完成させアレンジしたもの提出	提出した音源以外のアレンジも完成させる
8		講義	ホーンセクションの考え方と打ち込みの仕方について	ホーンセクションについて調べ理論的解釈を深める 前回作ったポップスの曲にホーンセクションを挿入してみる
9		講義	オーケストレーションについてと打ち込みの仕方について	オーケストラについて調べ理論的解釈を深める 前回作ったバラードの曲にオーケストレーションを挿入してみる
10		講義	好きな曲をコード進行をリファレンス分解し理論的解釈を深め曲のアライズ力を高める	理論的に曲を分析しコード進行やアレンジやリズムパターンなどメロディーにどのように関係してるの解釈する
11		演習	リファレンスした曲のドラムをアレンジし全体の構成作成	リズムパターンの決定
12		演習	コード進行を決めてベースラインを作成する	コードアレンジをしベースラインを組み直す
13		演習	ギターアレンジを作成する	メロディーの作成
14		演習	キーボード、ホーンセクションなどの楽器のアレンジと	ヴォーカルレコーディング
15		演習	トラックメイカー目線でのミックスを学び色々なサイドチェインで個性を出せるようになる	コンプレッサーを實際触ってみて中間試験で作曲したものにサイドチェインを使ってみる
準備学習 時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	J-POP Ensemble 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	細井 康行
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	国内の音楽業界で活躍していく為には、J-POPの楽曲の分析やアレンジの能力が必要となる。本講義ではJ-POP音楽理論の応用とその特徴を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なJ-POP音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	J-POPの特徴を理解し実践する。	J-POPの特徴を理解し実演する・
2		演習	J-POPの特徴を理解しアンサンブルで実践する。	J-POPの特徴を理解し実演する・
3		演習	ネオアコースティックを用いて表現する。	ネオアコースティックを理解し実演する・
4		演習	ネオアコースティックのアンサンブルを実践できる。	ネオアコースティックを理解し実演する・
5		演習	90年代POPSを用いてアレンジを研究し実践できる。	90年代POPSを理解し実演する
6		演習	90年代POPSを用いてアンサンブルを学び実践できる。	90年代POPSを理解し実演する
7		演習	80年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
8		演習	80年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
9		演習	70年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
10		演習	70年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
11		演習	70年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	70年代のアレンジの特徴を理解し実演する・
12		演習	80年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	80年代のアレンジの特徴を理解し実演する・
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を理解し実演する・
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを理解し実演する・
15		演習	テストと復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			業界で活躍するJ-POPアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	J-POP Ensemble 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	細井 康行
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	国内の音楽業界で活躍していく為には、J-POPの楽曲の分析やアレンジの能力が必要となる。本講義ではJ-POP音楽理論の応用とその特徴を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なJ-POP音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し説明ができる。	シンガーソングライターの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	J-POPバラードを分析し演奏できる。	J-POPバラードを分析し実演する。
10		演習	J-POPバラードをアンサンブルで演奏できる。	J-POPバラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	テストと復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			業界で活躍するJ-POPアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				
オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜				

科目名	著作権 1	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員 峰松 毅
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、著作権の知識が必要となる。本講義では音楽における権利の基礎とその現状を学び、実際の活動に役立てるようにする。					
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要な著作権の基礎知識を習得し説明ができるようになる。					
評価方法と基準	筆記による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	著作権の概要について学び理解し説明ができる	著作権の概要について学び理解しレポート作成
2		講義	アーティスト契約についての理解し説明ができる。	アーティスト契約についての理解しレポート作成
3		講義	契約書の基本的な読み方を理解し説明ができる	契約書の基本的な読み方を理解しレポート作成
4		講義	著作権法について理解し説明ができる。	著作権法について理解しレポート作成
5		講義	SNSにおける著作権を知り説明ができる。	SNSにおける著作権を知り理解しレポート作成
6		講義	著作物の条件を理解し説明ができる	著作物の条件を理解しレポート作成
7		講義	音源が売れた場合の作詞、作曲印税について理解し説明ができる	音源が売れた場合の作詞、作曲印税について理解しレポート作成
8		講義	アーティストに支払われる印税について理解し説明ができる	アーティストに支払われる印税について理解しレポート作成
9		講義	JASRACを知り説明ができる	JASRACを知り理解しレポート作成
10		講義	音楽出版社の役割を理解し説明ができる	音楽出版社の役割理解しレポート作成
11		講義	動画サイトにおける音楽使用の現状を知り説明ができる	動画サイトにおける音楽使用の現状を理解しレポート作成
12		講義	動画サイトにおける音楽使用の現状を知り説明ができる	動画サイトにおける音楽使用の現状を理解しレポート作成
13		講義	再販制度の功罪を理解し説明ができる	再販制度の功罪を理解しレポート作成
14		講義	替え歌と著作者人格権の理解をし説明ができる。	替え歌と著作者人格権の理解しレポート作成
15		講義	試験	振り返りをおこない、レポートにまとめる
準備学習 時間外学習			業界で活躍するための権利を知る。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	著作権 2	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	峰松 毅
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、高度な著作権の知識が必要となる。本講義では音楽における権利の基礎とその現状を学び、実際の活動に役立てるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要な著作権の高度知識を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	海外著作権の概要について学び理解し説明ができる	著作権の概要について学び理解しレポート作成
2		講義	海外でのアーティスト契約についての理解し説明ができる。	アーティスト契約についての理解しレポート作成
3		講義	英文の契約書の基本的な読み方を理解し説明ができる	契約書の基本的な読み方を理解しレポート作成
4		講義	海外の著作権法について理解し説明ができる。	著作権法について理解しレポート作成
5		講義	SNSにおける著作権を知り説明ができる。	SNSにおける著作権を知り理解しレポート作成
6		講義	著作物の条件を理解し説明ができる	著作物の条件を理解しレポート作成
7		講義	海外で音源が売れた場合の作詞、作曲印税について理解し説明ができる	音源が売れた場合の作詞、作曲印税について理解しレポート作成
8		講義	アーティストに支払われる印税について理解し説明ができる	アーティストに支払われる印税について理解しレポート作成
9		講義	国際的な管理会社を知り説明ができる	JASRACを知り理解しレポート作成
10		講義	音楽出版社の役割を理解し説明ができる	音楽出版社の役割理解しレポート作成
11		講義	動画サイトにおける音楽使用の現状を知り説明ができる	動画サイトにおける音楽使用の現状を理解しレポート作成
12		講義	動画サイトにおける音楽使用の現状を知り説明ができる	動画サイトにおける音楽使用の現状を理解しレポート作成
13		講義	再販制度の功罪を理解し説明ができる	再販制度の功罪を理解しレポート作成
14		講義	替え歌と著作者人格権の理解をし説明ができる。	替え歌と著作者人格権の理解しレポート作成
15		講義	試験	振り返りをおこない、レポートにまとめる
準備学習 時間外学習			業界で活躍するための権利を知る。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	著作権Ⅱ 1	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	峰松 毅
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・試験	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ビクターではカラオケのレコーディングディレクターを、バンダイではアニメ特撮系の音楽プロデューサーを務める。現在はライセンスゲートを設立しゲーム系の音楽配信を中心にライセンス事業を展開。						
授業の学習 内容	想像することの大切さを通し、著作権の意義を教えます。著作権を軽視したことにより生じたトラブルの実例を通し、契約社会の実象を学びます。またグループワークを通し、ネット社会で見落とされがちな会話の重要性を体感させます。						
到達目標	最終的には自分は何を誰にどのようにして伝えたいのかを考えさせます。※マネージャー、企画、作詞、作曲などいずれも自分は誰に何を伝えたいのかを考えさせ、社会の一員であることを考えさせます。						
評価方法と基準	1)定期テスト(筆記60% 実技40%)						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		講義	自己紹介と講義概要の説明	第一回目の授業は講師の自己紹介と講義の概要を伝えます。最後に宿題を提示。⇒A4一枚にまとめた物語を配布。5人のキャラクターが登場。好感の持てる順に並べます。その根拠をグループワークでを発表。自分の想像力と会話能力を実感させます。			
2		講義	グループワーク。「創造」とは何か！を議論します	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。著作権の第一歩は想像することであり、いかに想像力を発揮していないかを体験させます。また人間関係がいかに重要で不可欠であるかを体験させます。次回の課題として原盤権を講義。第三者からの制作依頼を想定。どのような約束(契約)が必要かを宿題とします。			
3		講義	原盤権と著作権の概念を事例を通しシミュレーションする体験教室	前回の課題をグループワークで検討。当たり前を見落としていること、契約の大切さを実感させます。現代の傾向として一般化される買い取り契約を講義。宿題として買取を求められた場合を想定。			
4		講義	プロデューサー、ディレクター、A&R、マネージャーの基本を学びます	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。著作権及び権利譲渡について講義。そのうえでプロデューサー、A&R、ディレクター等、言葉の大切さを教えます。著作権使用料と徴収の仕組み、音楽出版社とjasracの関係について講義。ある設定を提示し、jasracとの契約を宿題として提示。			
5		講義	作家の印税収入の仕組みを学びます。JASRACと音楽出版社について等	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。jasracの必要性及び問題点を講義。海外版権について講義。ある設定を提示。海外の版権を取り扱う場合の注意点を考えさせます。			
6		講義	版権とその仕組みを学ぶ。～ビートルズとサンダーバードの場合～	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。キャラクタービジネスが注目された60年代をもとに権利を守ること活かすことを講義。次回の宿題として俳優のトラブルの実例を講義。どうすれば問題を回避できたか、マネージャーとは何かを考えさせます。			
7		講義	もしもあなたがマネージャーだったら！ 翻案権を考えます。<女優土屋アンナの裁判事件>	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。他人に物事を正確に伝えることの大切さを再度講義。太古の雨ごい儀式をどのようにとらえるかを考えさせます。(合理的か否か)			
8		講義	雨ごいは合理的？著作権は別？論理性を考えます。	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。スポティファイと崩壊する？著作権ビジネスを考える。宿題として音楽業界の仕組みをイメージさせます。			
9		講義	音楽出版社の調べ方とスポティファイを考える。自己PRを問う！	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。大きく変わる世界情勢とエンターテインメント業界を検討。今、アーティストに求められるものは何かを宿題として提示。			
10		講義	世界情勢の混乱。今、アーティストのメッセージとは何か～問われる表現者の意識～	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。jasracの問題点を宿題として提示。			
11		講義	JASRAC信託契約の落とし穴、原盤印税とは何か	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。			
12		試験と面談	テストと2階企画ルームで個人別面談	面談では講義へのリクエストや不満などを自由に述べてもらいます。			
13		講義	前期のまとめ	前期のまとめ。面談結果及び今後の講義の概要を伝えます。			
14		実習	「明日への扉」の台本より著作権を考える	「明日への扉」での運営・制作スタッフとして実践する。			
15		実習	「明日への扉」の台本より著作権を考える	「明日への扉」での運営・制作スタッフとして実践する。			
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。					
【使用教科書・教材・参考書】							
個人作成によるパワーポイントファイルとプロジェクターを使用。							

科目名	著作権3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	峰松 毅
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ビクターではカラオケのレコーディングディレクターを、バンダイではアニメ特撮系の音楽プロデューサーを務める。現在はライセンスゲートを設立しゲーム系の音楽配信を中心にライセンス事業を展開。						
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、高度な著作権の知識が必要となる。本講義では音楽における権利の基礎とその現状を学び、実際の活動に役立てるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要な著作権の高度知識を習得し、説明ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	海外著作権の概要について学び理解し説明ができる	著作権の概要について学び理解しレポート作成
2	講義	海外でのアーティスト契約についての理解し説明ができる。	アーティスト契約についての理解しレポート作成
3	講義	英文の契約書の基本的な読み方を理解し説明ができる	契約書の基本的な読み方を理解しレポート作成
4	講義	海外の著作権法について理解し説明ができる。	著作権法について理解しレポート作成
5	講義	SNSにおける著作権を知り説明ができる。	SNSにおける著作権を知り理解しレポート作成
6	講義	著作物の条件を理解し説明ができる	著作物の条件を理解しレポート作成
7	講義	海外で音源が売れた場合の作詞、作曲印税について理解し説明ができる	音源が売れた場合の作詞、作曲印税について理解しレポート作成
8	講義	アーティストに支払われる印税について理解し説明ができる	アーティストに支払われる印税について理解しレポート作成
9	講義	国際的な管理会社を知り説明ができる	JASRACを知り理解しレポート作成
10	講義	音楽出版社の役割を理解し説明ができる	音楽出版社の役割理解しレポート作成
11	講義	動画サイトにおける音楽使用の現状を知り説明ができる	動画サイトにおける音楽使用の現状を理解しレポート作成
12	講義	動画サイトにおける音楽使用の現状を知り説明ができる	動画サイトにおける音楽使用の現状を理解しレポート作成
13	講義	再販制度の功罪を理解し説明ができる	再販制度の功罪を理解しレポート作成
14	講義	替え歌と著作者人格権の理解をし説明ができる。	替え歌と著作者人格権の理解しレポート作成
15	講義	復習試験	振り返りをおこない、レポートにまとめる
準備学習 時間外学習		業界で活躍するための権利を知る。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】			

科目名	著作権4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	峰松 毅
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	ピクチャーではカラオケのレコーディングディレクターを、バンダイではアニメ特撮系の音楽プロデューサーを務める。現在はライセンスゲートを設立しゲーム系の音楽配信を中心にライセンス事業を展開。						
授業の学習内容	想像することの大切さを通し、著作権の意義を教えます。著作権を軽視したことにより生じたトラブルの実例を通し、契約社会の現実を学びます。またグループワークを通し、ネット社会で見落とされがちな会話の重要性を体感させます。						
到達目標	最終的には自分は何を誰にどのようにして伝えたいのかを考えさせます。※自分の職業を通して誰に何を伝えたいのかを考えさせ、社会の一員であることを考えさせます。上記を通して著作権の知識を習得することができます。						
評価方法と基準	筆記試験と面談。会話能力(自己表現)も評価の対象とします。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	著作権者人格権から買い取り契約の落とし穴を考える	前期の総括及び後期の講義概要を説明。著作権者人格権について講義。ミュージシャンに著作権は発生するかを課題とし次回のグループワークとする。
2	講義	事例をもとにミュージシャンに演奏の権利は発生するのかを考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。著作権使用料の基本を講義し、定額制配信を考えさせます。
3	講義	音楽配信の現状から定額制のち問題を問う	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。表現とは何かを講義。欧米とアジア(韓国と日本の演歌)の違い。課題としてある物語からどのような歌詞とメロディーが合うのかを考えさせます。
4	講義	欧米と日本の表現方法の違いを考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。俳優(アクター)とは何かを講義。芸能の仕事と著作権について考えさせます。
5	講義	問われる芸能人の問題意識を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。イラスト、写真などの権利を講義。マネージャーと契約業務の例を提示。もしも自分がマネージャーだったらどうするかを宿題とします。
6	講義	マネージャーに問われる著作権意識	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。ライブを行う場合、アーティスト(実演家)とイベントターが確認しなければならない著作権とは何かを宿題とします。
7	講義	コンサートと著作権	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。洋楽をカバーする場合、日本語で歌う場合の注意点を宿題として考えさせます。
8	講義	歌謡曲とJポップの違いから著作権を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。ウェブ上で注意すべき著作権を考える。ある動画配信を提示し著作権問題を含んでいるか否かを宿題として提示。
9	講義	YOUTUBEと著作権	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。動画配信の活かし方。表現することの難しさを問う。動画企画を宿題とします。
10	講義	表現者とは何か考えそこに発生する著作権を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。ウェブビジネスを宿題として提示。
11	講義	web上の音楽ビジネスから著作権を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。
12	試験と面談	筆記テストと2階企画ルームで個人別面談	テスト及び後期講義の質疑応答。
13	講義	後期のまとめ	質疑応答の結果及びリクエスト講義
14	実習	卒業制作展での使用楽曲の著作権を確認す	卒業制作展での運営・制作スタッフとして実践する。
15	実習	卒業制作展DVD配布に伴う著作権を考える	卒業制作展での運営・制作スタッフとして実践する。
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	
【使用教科書・教材・参考書】			
個人作成によるパワーポイントファイルとプロジェクターを使用。			

科目名	著作権Ⅱ 2	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	峰松 毅
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ビクターではカラオケのレコーディングディレクターを、バンダイではアニメ特撮系の音楽プロデューサーを務める。現在はライセンスゲートを設立しゲーム系の音楽配信を中心にライセンス事業を展開。						
授業の学習 内容	想像することの大切さを通し、著作権の意義を教えます。著作権を軽視したことにより生じたトラブルの実例を通し、契約社会の現実を学びます。またグループワークを通し、ネット社会で見落とされがちな会話の重要性を体感させます。						
到達目標	最終的には自分は何を誰にどのようにして伝えたいのかを考えさせます。＊自分の職業を通して誰に何を伝えたいのかを考えさせ、社会の一員であることを考えさせます。						
評価方法と基準	1)定期テスト(筆記60% 実技40%)						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		講義	著作者人格権から買い取り契約の落とし穴を考える	前期の総括及び後期の講義概要を説明。著作者人格権について講義。ミュージシャンに著作権は発生するかを課題とし今回のグループワークとする。			
2		講義	事例をもとにミュージシャンに演奏の権利は発生するのを考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。著作権使用料の基本を講義し、定額制配信を考えさせます。			
3		講義	音楽配信の現状から定額制のち問題を問う	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。表現とは何かを講義。欧米とアジア(韓国と日本の演歌)の違い。課題としてある物語からどのような歌詞とメロディーが合うのかを考えさせます。			
4		講義	欧米と日本の表現方法の違いを考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。俳優(アクター)とは何かを講義。芸能の仕事と著作権について考えさせます。			
5		講義	問われる芸能人の問題意識を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。イラスト、写真などの権利を講義。マネージャーと契約業務の例を提示。もしも自分がマネージャーだったらどうするかを宿題とします。			
6		講義	マネージャーに問われる著作権意識	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。ライブを行う場合、アーティスト(実演家)とイベントターが確認しなければならない著作権とは何かを宿題とします。			
7		講義	コンサートと著作権	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。洋楽をカバーする場合、日本語で歌う場合の注意点を宿題として考えさせます。			
8		講義	歌謡曲とJ ポップの違いから著作権を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。ウェブ上で注意すべき著作権を考える。ある動画配信を提示し著作権問題を含んでいるか否かを宿題として提示。			
9		講義	YOUTUBEと著作権	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。動画配信の活かし方。表現することの難しさを問う。動画企画を宿題とします。			
10		講義	表現者とは何か考えそこに発生する著作権を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。ウェブビジネスを宿題として提示。			
11		講義	web上の音楽ビジネスから著作権を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。			
12		試験と面談	筆記テストと2階企画ルームで個人別面談	テスト及び後期講義の質疑応答。			
13		講義	後期のまとめ	質疑応答の結果及びリクエスト講義			
14		実習	卒業制作展での使用楽曲の著作権を確認する	卒業制作展での運営・制作スタッフとして実践する。			
15		実習	卒業制作展DVD配布に伴う著作権を考える	卒業制作展での運営・制作スタッフとして実践する。			
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。					
【使用教科書・教材・参考書】							
個人作成によるパワーポイントファイルとプロジェクターを使用。							

科目名	PCスキルアップ	必修 選択	年次	2	担当教員	唐澤 淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	総時間 (単位)	15 2単位		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務					
授業の学習 内容	重要度が高まっている映像関連の最低限のスキルを身につけます。 実習作業を中心に反復練習を繰り返すことで身体で覚えながら、様々なテクニックも身につけていきます。					
到達目標	(1) Adobe Premiere proの基本的な使い方を習得する。 (2) Adobe Photoshopの応用方法を習得する。 (3) Adobe Illustratorの応用方法を習得する。					
評価方法と基準	1. 実技試験 (%) : 50% 2. 筆記試験 (%) : 0% 3. 課題 (%) : 50%					

授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)	
1		講義	【Premiere】基本的な概念を習得する。		基礎の仕組みを覚え、慣れておく。	
2		演習	【Premiere】Lyric Video製作を通してレイヤー・タイトル・波形の使い方を習得する。		授業で使用する音源・歌詞を用意し提出。	
3		演習	【Premiere】Lyric Video製作を通して文字エフェクト・Fadeの使い方を習得する。		機能の復習として作品制作内歌詞を入力しておく。	
4		演習	【Premiere】Lyric Video製作を通して画像・動画の挿入を習得する。		機能の復習として作品制作内画像・動画を挿入しておく。	
5		演習	【Premiere他】Illustrator・photoshopとの連携を習得する。		機能の復習として作品制作内でIllustrator・photoshopの要素を入れ込む。	
6		演習	【Premiere】Lyric Video製作を通してレンダリングを習得する。		機能の復習として作品制作内レンダリングしておく。	
7		演習	【Premiere】Lyric Video製作を通して書き出し・仕上げを習得する。		YouTubeにてアップする。	
8		演習	【Premiere】動画素材の撮影・デバイスから動画の取り込み・QT録画を習得する。		次回の授業用に、複数人で1つの被写体を同時に録画してくる。	
9		演習	【Premiere】動画作成を課題に複数カメラからの編集を習得する。		スローモーション、早回しをしたら良さそうな素材を撮影してくる。	
10		演習	【Premiere】動画作成を課題に速度調整を習得する。		単色の背景の前での動画素材を撮影してくる。	
11		演習	【Premiere】動画作成を課題にクロマキーを習得する。		クロマキー合成のクオリティを上げた編集を再度しておく。	
12		演習	【Premiere】動画作成を課題にアフレコを習得する。		作品制作のプランニングをし、絵コンテを描いてくる。	
13		実習	【Premiere】「明日への扉」を題材に3分間の映像制作(素材の回収(必要であれば撮影))		授業内で出来なかった部分を各自進める。	
14		実習	【Premiere】「明日への扉」を題材に3分間の映像制作(動画編集)		授業内で出来なかった部分を各自進める。	
15		実習	【Premiere】「明日への扉」を題材に3分間の映像制作(書き出し・盤面印刷)		授業内で出来なかった部分を各自進める。	
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。			
【使用教科書・教材・参考書】						
インターネット&ホームページ						

科目名	作編曲法 Basic 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員: 藤井文司
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	30 2単位	
教員の略歴	プロデューサー、アレンジ、ソングライティング、ギターなど、80年代中頃よりシンセサイザー・プログラマーとしてキャリアをスタートし、YMO、サザンオールスターズ等の作品に参加する。様々な分野で才能をマルチに発揮する日本を代表するアーティスト。					
授業の学習 内容	作詞 作曲 アレンジ 録音 ミックス 楽曲制作の総合力をじっくりと身につける授業です。授業は提示された課題曲をテーマに、生徒が自由にオリジナル楽曲を作りながら進んでいきます。出来上がった楽曲は授業内で発表しお互いに活発な意見交換を行います。					
到達目標	歌詞のついたボーカル入りの楽曲制作がアレンジも含めて出来るようになる。 講師の修正リクエストに対応した制作能力を身につける。 前期では3曲のオリジナル曲を目標にします。					
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記30% 実技70%)					

授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容		準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	ガイダンスと自分の好きな曲発表			
2		講義 演習	音楽の聴き方を身につける			
3		講義 演習	リズムとコード進行の基礎			次週課題提出
4		講義 課題提出	コードとメロディの基礎	オリジナル曲デモ1提出		課題修正
5		講義 課題提出	インスト部分の作り方	オリジナル曲デモ2提出		課題修正
6		講義 課題提出	歌詞の書き方	ハモの付け方デモ3		課題修正
7		課題提出/発表	オリジナル曲①完成発表	意見交換		最終提出
8		講義	第2課題一テーマ概説			次週課題提出
9		講義 課題提出	オリジナル曲②(曲のみ)提出~修正			課題修正
10		講義 課題提出	オリジナル曲②(アレンジ)提出~修正口			課題修正
11		課題提出/発表	オリジナル曲②(歌詞付)提出	意見交換	夏休み課題	夏休み宿題に取り組む
12		課題提出/発表	夏休み制作③(歌詞付)提出			最終提出
13		振り返り	ここまでの振り返り	秋休み課題発表		修正提出あり
14		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成			ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
15		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成			ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
準備学習 時間外学習						
【使用教科書・教材・参考書】						

科目名	作編曲法 Basic 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	藤井文司
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実 習等	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	プロデューサー、アレンジ、ソングライティング、ギターなど、80年代中頃よりシンセサイザー・プログラマーとしてキャリアをスタートし、YMO、サザンオールスターズ等の作品に参加する。様々な分野で才能をマルチに発揮する日本を代表するアーティスト。						
授業の学習 内容	作詞 作曲 アレンジ 録音 ミックス 楽曲制作の総合力をじっくりと身につける授業です。後期はフルサイズの楽曲制作とグループ制作を中心にを行います。出来上がった楽曲は授業内で発表しお互いに活発な意見交換を行います。						
到達目標	イントロ、間奏、カウンターメロディなど、よりプロ志向の楽曲制作が出来るようになる。 自分の目指した楽曲を作り、世の中にしっかりと発表していける制作能力を身につける。 秋学期も3曲のオリジナル曲を目標にします。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記30% 実技70%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容		準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	秋休み課題④発表		意見交換への準備
2		講義 演習	第5課題フルサイズ制作	楽曲構築のやり方	次週課題提出
3		講義 演習	ワンコーラスの提出	リズムとコード進行の基礎	課題修正
4		講義 課題提出	アレンジとフルサイズのデモを提出		課題修正
5		講義 課題提出	フルサイズの修正 歌詞提出と修正		課題修正
6		講義 課題提出	最終段階のデモ提出とミックスの修正をします。		課題修正
7		課題提出/発表	オリジナル曲⑤発表	意見交換	最終提出
8		講義	第6課題(グループ制作)の説明		次週課題提出
9		講義 課題提出	グループ内の組織と、どんなテーマを持って作っていくのかを発表します。		課題修正
10		講義 課題提出	ワンコーラスのデモをグループで発表します。意見交換と修正。		課題修正
11		課題提出/修正	フルサイズのデモをグループで発表します。意見交換と修正。		夏休み宿題あり
12		課題提出/修正	フルサイズ歌入りのデモを発表します。意見交換		最終提出
13		課題提出/発表	グループ制作⑥最終振り返り		
14		講義・演習	卒業制作展においてSE制作を行う。		時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
15		講義・演習	卒業制作展においてBGM制作を行う。		時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	MA&ラジオ番組制作 1	必修 選択	選択	年次	2.3	担当教員	松浦敏昭
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習等	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	ピクチャー青山スタジオでのマスタリング・エンジニアを経てラジオ業界へ。ディレクターとパーソナリティーを務め、有名企業のCMナレーションも担当。						
授業の学習 内容	映像に音楽やナレーションをマルチトラックで録音する、MAの基礎を学ぶ。PRO TOOLSの基本操作。パンチ・インとトラックダウン。ラジオ番組の企画、構成、制作の基礎を学ぶ。ナレーションの滑舌とイントネーションやフリートークの組み立て。						
到達目標	映画やアニメのアフレコ、ナレーションなど、収録内容に応じたマイクセッティングとディレクション、PRO TOOLSの操作を身につける。ラジオ番組制作において、収録と生放送の違いを学び、起承転結を踏まえた話の組み立てが出来るようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1		講義・演習	シラバス概要 スタジオのシステム構成 マイクアレンジ	シラバス概要 スタジオのシステム構成 マイクアレンジ	振り返りと自習。		
2		講義・演習	ドキュメンタリー番組のMA演習	ドキュメンタリー番組のMA演習	振り返りと自習。		
3		講義・演習	ラジオ AMとFM ステレオの定位 ナレーション練習	ラジオ番組を聞いて、レポート提出			
4		講義・演習	LEGO ムービーの吹き替えMA演習 基礎	LEGO ムービーの吹き替えMA演習 基礎	振り返りと自習。		
5		講義・演習	LEGO ムービーの吹き替えMA演習 応用	LEGO ムービーの吹き替えMA演習 応用	振り返りと自習。		
6		講義・演習	ラジオ ナレーション収録 ニュース原稿	ラジオ番組を聞いて、レポート提出			
7		講義・演習	テレビ番組のMA演習 基礎	テレビ番組のMA演習 基礎	振り返りと自習。		
8		講義・演習	テレビ番組のMA演習 応用	テレビ番組のMA演習 応用	振り返りと自習。		
9		講義・演習	ラジオ プロツールズ 音楽編集 コマーシャル 告知原稿	ラジオ番組を聞いて、レポート提出			
10		講義・演習	外国映画の吹き替えMA演習	外国映画の吹き替えMA演習	振り返りと自習。		
11		講義・演習	ラジオ プロツールズ ジングル制作 イントロ紹介	ラジオ番組を聞いて、レポート提出			
12		試験	授業のまとめ 試験				
13		講義・演習	テレビ番組のMA演習 ラジオ収録番組シミュレーション	振り返りレポートまとめ、次回授業時に提出。			
14		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングのMAシステム構築及びProToolsセッション作成について	ミュージカルのライブレコーディングのMAシステム構築及びProToolsセッション作成について	振り返りと自習。		
15		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングセッションのMA編集と管理について	ミュージカルのライブレコーディングセッションのMA編集と管理について	振り返りと自習。		
準備学習 時間外学習							
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	MA&ラジオ番組制作 2	必修 選択	選択	年次	2.3	担当教員	松浦敏昭
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習等	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	ビクター青山スタジオでのマスタリング・エンジニアを経てラジオ業界へ。ディレクターとパーソナリティーを務め、有名企業のCMナレーションも担当。						
授業の学習 内容	映像に音楽やナレーションをマルチトラックで録音する、MAの基礎を学ぶ。PRO TOOLSの基本操作。パンチ・インとラックダウン。ラジオ番組の企画、構成、制作の基礎を学ぶ。ナレーションの滑舌とイントネーションやフリートークの組み立て。						
到達目標	映画やアニメのアフレコ、ナレーションなど、収録内容に応じたマイクセッティングとディレクション、PRO TOOLSの操作を身につける。ラジオ番組制作において、収録と生放送の違いを学び、起承転結を踏まえた話の組み立てが出来るようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1		講義・演習	ドキュメンタリー番組のMA演習 基礎	ドキュメンタリー番組のMA演習 基礎	振り返りと自習。		
2		講義・演習	ドキュメンタリー番組のMA演習 応用	ドキュメンタリー番組のMA演習 応用	振り返りと自習。		
3		講義・演習	ラジオ 生放送のシミュレーション フリートーク	ラジオ番組を聞いて、レポート提出			
4		講義・演習	LEGO ムービーの吹き替えMA演習 基礎	LEGO ムービーの吹き替えMA演習 基礎	振り返りと自習。		
5		講義・演習	LEGO ムービーの吹き替えMA演習 応用	LEGO ムービーの吹き替えMA演習 応用	振り返りと自習。		
6		講義・演習	ラジオ 生放送のシミュレーション フリートーク	ラジオ番組を聞いて、レポート提出			
7		講義・演習	テレビ番組のMA演習 基礎	テレビ番組のMA演習 基礎	振り返りと自習。		
8		講義・演習	テレビ番組のMA演習 応用	テレビ番組のMA演習 応用	振り返りと自習。		
9		講義・演習	ラジオ プロツールズ ジングル制作 ニュース原稿	ラジオ番組を聞いて、レポート提出			
10		講義・演習	外国映画の吹き替えMA演習 基礎	外国映画の吹き替えMA演習 基礎	振り返りと自習。		
11		講義・演習	外国映画の吹き替えMA演習 応用	ラジオ番組を聞いて、レポート提出			
12		試験	授業のまとめ 試験				
13		講義・演習	テレビ番組のMA演習 ラジオ生放送シミュレーション	振り返りレポートまとめ、次回授業時に提出。			
14		講義・演習	卒業進級制作のライブレコーディングのMAシステム構築及びProToolsセッション作成について	卒業進級制作のライブレコーディングに向けたMAシステム構築及びProToolsセッション作成について	振り返りと自習		
15		講義・演習	卒業進級制作のライブレコーディングセッションのMA編集と管理について	卒業進級制作のライブレコーディングセッションのMA編集と管理について	振り返りと自習		
準備学習 時間外学習							
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	DJパフォーマンスAdvance 1-1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	特別講師
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	DJのパフォーマンス技術を習得する為に、最新のソフトウェアや機材の操作の理解、楽曲の理解およびセレクト、スクラッチ技術などを学習する。						
到達目標	DJとしてイベントに出演、ステージパフォーマンスの経験を積む。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	【新時代のDJのあり方について講義】	時間外学習として復習90分取り組む
2		講義・演習	【スクラッチ講習①】 ・今までのレベルチェック	時間外学習として復習90分取り組む
3		講義・演習	【楽曲制作講習①】 ・今までのレベルチェック	時間外学習として復習90分取り組む
4		講義・演習	【マイクパフォーマンス講習①】	時間外学習として復習90分取り組む
5		講義・演習	個人面談	
6		講義・演習	【出演・準備(配信)】	出演に向けてのセットリスト作成
7		講義・演習	【出演・準備(配信)】	出演に向けてのセットリスト作成
8		講義・演習	【出演・本番(配信)】 ・校内ホール	時間外学習として復習90分取り組む
9		講義・演習	【配信プロジェクトのフィードバック】	時間外学習として復習90分取り組む
10		講義・演習	【楽曲制作講習②】 ・現時点での制作プロジェクトのフィードバック	時間外学習として復習90分取り組む
11		講義・演習	【スクラッチ講習②】	時間外学習として復習90分取り組む
12		講義・演習	【マイクパフォーマンス講習②】	時間外学習として復習90分取り組む
13		講義・演習	【中間テスト】	
14		講義・演習	進級制作展に向けた60分セット作成①	
15		講義・演習	オンライン配信プラットフォーム:Twitchを活用した配信ライブ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	DJパフォーマンスAdvance 1-2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	特別講師
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 星間部一	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	DJのパフォーマンス技術を習得する為に、最新のソフトウェアや機材の操作の理解、楽曲の理解およびセレクト、スクラッチ技術などを学習する。						
到達目標	DJとしてイベントに出演、ステージパフォーマンスの経験を積む。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1		講義・演習	マイクパフォーマンス講習		時間外学習として復習90分取り組む		
2		講義・演習	ダンスミュージック楽曲制作のスキルアップコンサル		時間外学習として復習90分取り組む		
3		講義・演習	【クラブ出演・本番(配信)】 ・銀座GHQ				
4		講義・演習	【スクラッチ講習③】		時間外学習として復習90分取り組む		
5		講義・演習	【楽曲制作講習③】		時間外学習として復習90分取り組む		
6		講義・演習	【マイクパフォーマンス講習③】		時間外学習として復習90分取り組む		
7		講義・演習	【出演・準備(配信)】		時間外学習として復習90分取り組む		
8		講義・演習	【出演・本番(配信)】 ・校内ホール		時間外学習として復習90分取り組む		
9		講義・演習	【配信プロジェクトのフィードバック】				
10		講義・演習	【楽曲製作講習④】		時間外学習として復習90分取り組む		
11		講義・演習	【スクラッチ講習④】		時間外学習として復習90分取り組む		
12		講義・演習	【楽曲製作講習⑤】		時間外学習として復習90分取り組む		
13		講義・演習	【期末テスト】				
14		講義・演習	進級制作イベントへの出演に向けた60分セットの作成②				
15		講義・演習	進級制作イベント本番				
準備学習 時間外学習							
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	DJパフォーマンスAdvance 2-1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	特別講師
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	DJのパフォーマンス技術を習得する為に、最新のソフトウェアや機材の操作の理解、楽曲の理解およびセレクト、スクラッチ技術などを学習する。						
到達目標	DJとしてイベントに出演、ステージパフォーマンスの経験を積む。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1		講義・演習	【新時代のDJのあり方について講義】		時間外学習として復習90分取り組む		
2		講義・演習	【スクラッチ講習①】 ・今までのレベルチェック		時間外学習として復習90分取り組む		
3		講義・演習	【楽曲制作講習①】 ・今までのレベルチェック		時間外学習として復習90分取り組む		
4		講義・演習	【マイクパフォーマンス講習①】		時間外学習として復習90分取り組む		
5		講義・演習	個人面談				
6		講義・演習	【出演・準備(配信)】		出演に向けてのセットリスト作成		
7		講義・演習	【出演・準備(配信)】		出演に向けてのセットリスト作成		
8		講義・演習	【出演・本番(配信)】 ・校内ホール		時間外学習として復習90分取り組む		
9		講義・演習	【配信プロジェクトのフィードバック】		時間外学習として復習90分取り組む		
10		講義・演習	【楽曲制作講習②】 ・現時点での制作プロジェクトのフィードバック		時間外学習として復習90分取り組む		
11		講義・演習	【スクラッチ講習②】		時間外学習として復習90分取り組む		
12		講義・演習	【マイクパフォーマンス講習②】		時間外学習として復習90分取り組む		
13		講義・演習	【中間テスト】				
14		講義・演習	進級制作展に向けた60分セット作成①				
15		講義・演習	オンライン配信プラットフォーム:Twitchを活用した配信ライブ				
準備学習 時間外学習							
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	DJパフォーマンスAdvance 2-2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	特別講師
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	DJのパフォーマンス技術を習得する為に、最新のソフトウェアや機材の操作の理解、楽曲の理解およびセレクト、スクラッチ技術などを学習する。						
到達目標	DJとしてイベントに出演、ステージパフォーマンスの経験を積む。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1		講義・演習	マイクパフォーマンス講習		時間外学習として復習90分取り組む		
2		講義・演習	ダンスミュージック楽曲制作のスキルアップコンサル		時間外学習として復習90分取り組む		
3		講義・演習	【クラブ出演・本番(配信)】 ・銀座GHQ				
4		講義・演習	【スクラッチ講習④】		時間外学習として復習90分取り組む		
5		講義・演習	【楽曲制作講習③】		時間外学習として復習90分取り組む		
6		講義・演習	【マイクパフォーマンス講習③】		時間外学習として復習90分取り組む		
7		講義・演習	【出演・準備(配信)】		時間外学習として復習90分取り組む		
8		講義・演習	【出演・本番(配信)】 ・校内ホール		時間外学習として復習90分取り組む		
9		講義・演習	【配信プロジェクトのフィードバック】				
10		講義・演習	【楽曲製作講習④】		時間外学習として復習90分取り組む		
11		講義・演習	【スクラッチ講習④】		時間外学習として復習90分取り組む		
12		講義・演習	【楽曲製作講習⑤】		時間外学習として復習90分取り組む		
13		講義・演習	【期末テスト】				
14		講義・演習	進級制作イベントへの出演に向けた60分セットの作成②				
15		講義・演習	進級制作イベント本番				
準備学習 時間外学習							
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	音楽史(邦楽)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	西田 剛
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	2003年よりTSM渋谷校にて音楽史授業担当。JASRAC準会員。ギタリスト、作曲家として活動。実務歴37年。						
授業の学習 内容	この授業の目的は「音楽を考える力」を育むことであり、日本におけるポップ・ロックミュージックの起りから現代まで、その発達の歴史を深く学びます。その歴史や文化に触れ、広い視点で日本におけるポピュラー音楽の位置づけを概観することができる。						
到達目標	時代の流れに沿った、日本のロック・ポップスの発達を深く知ることで、自分たちの作り出す音楽と、日本のロック・ポップスの歴史・進化を結び付け評価することができる。また、進路となる日本のミュージックシーンすなわち業界の先輩となる方々の功績を学ぶ。						
評価方法と基準	筆記試験						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	授業の進め方(資料、音源、DVD、実演)の確認 日本のポップスの夜明けについて学ぶ。	美空ひばり、坂本九など昭和の象徴と呼べる大御所 グループサウンズと呼ばれたブームを探る。名曲アナライズに挑戦！上を向いて歩こう(ディグリー、機能など)
2	講義	フォークの時代を知る。	吉田拓郎、井上陽水、かぐや姫などフォークの名曲を歌詞にスポットを当てて時代背景を探る 名曲アナライズ: いとしのエリー
3	講義	日本流の本格派ロック〜ニューミュージックについて学ぶ。	フラワートラベリングバンド、ユーミン、CHARなど、70年代のミュージックシーンを探る 名曲アナライズ: Tomorrow never knows
4	講義	歌謡曲とロック・ポップスの融合について学ぶ。	山口百恵、松田聖子、中森明菜など当時のアイドル文化 職業作詞家/作曲家の存在を探る 名曲アナライズ: 財津和夫 サボテンの花
5	講義	ジャパニーズ・ニューウェイヴについて学ぶ。	イエローマジックオーケストラ(YMO)を中心に日本独自のテクノポップ世界を探る
6	講義	ロックの大衆化とバンドブームについて考察する。	チェッカーズ、レベッカ、BOOWYなどと共に80年代シーンを探る メジャーデビューについて考察 バンドブーム
7	講義	ロックの大衆化とバンドブームについて考察する。	TMネットワーク、ブルーハーツ、X JAPANなどと共に80年代シーンを探る 80年代という時代を、オーディションやCMタイアップなどから考察する。
8	講義	90年代型ロックスターについて学ぶ。	L'Arc〜en〜Ciel、ドリカム、B'zなどと共に90年代シーンを探る 名曲アナライズ: TSUNAMI
9	講義	90年代型ロックスターについて学ぶ。	LUNA SEA、GLAYなどと共に90年代シーンを探る 名曲アナライズ: グロリアス
10	講義	オルタナティブ指向の定着とシーンの二極化について学ぶ。	PIZZICATO FIVE、Mr.Children、椎名林檎などのアーティスト考察 名曲アナライズ: 空も飛べるはず
11	講義	90年以降、多様化を謳歌する日本の音楽シーンを学ぶ。	多様化するシーンを、Globe、MISIA、宇多田ヒカル、MONGOL 800などのアーティストと共に探る。 インディーズ、アイドル文化、アニソンなど
12	テスト	筆記試験の実施	試験で不明確だった箇所を調べる。
13	実習	進級制作展の課題曲について考察する。	課題曲についてWEB閲覧により調べ、レポートを作成。
14	実習	We are TSM渋谷の課題曲について考察する。	課題曲についてWEB閲覧により調べ、レポートを作成。
15	講義	まとめ	全体のふりかえり & 未来を探る
準備学習 時間外学習		授業内容について復習しレポートを作成。	
【使用教科書・教材・参考書】			

科目名	PCスキルアップ4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	唐澤 淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務						
授業の学習 内容	1年時に習得した「PCスキルアップ I・Ⅲ」「DTP」のスキルをベースに応用を学びます。 加えて、重要度が高まっている映像関連の最低限のスキルを身につけます。 実習作業を中心に反復練習を繰り返すことで身体で覚えながら、様々なテクニックも身につけていきます。						
到達目標	一年次に習得した「PCスキルアップ I・Ⅲ」「DTP」の復習とともに新たに以下の3点を身につける。 (1) Adobe Premiere proの基本的な使い方を習得する。 (2) Adobe Photoshopの応用方法を習得する。 (3) Adobe Illustratorの応用方法を習得する。						
評価方法と基準	1. レポート提出 (%) : 50% 2. 筆記課題 (%) : 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	【Premiere】基本的な概念を習得する。	基礎の仕組みを覚え、慣れておく。
2	講義	【Premiere】 Lyric Video製作を通してレイヤー・タイトル・波形の使い方を習得する。	授業で使用する音源・歌詞を用意し提出。
3	講義	【Premiere】 Lyric Video製作を通して文字エフェクト・Fadeの使い方を習得する。	機能の復習として作品制作内歌詞を入力しておく。
4	講義	【Premiere】 Lyric Video製作を通して画像・動画の挿入を習得する。	機能の復習として作品制作内画像・動画を挿入しておく。
5	講義	【Premiere他】 Illustrator・photoshopとの連携を習得する。	機能の復習として作品制作内でIllustrator・photoshopの要素を入れ込む。
6	講義	【Premiere】 Lyric Video製作を通してレンダリングを習得する。	機能の復習として作品制作内レンダリングしておく。
7	講義	【Premiere】 Lyric Video製作を通して書き出し・仕上げを習得する。	YouTubeにてアップする。
8	講義	【Premiere】 動画素材の撮影・デバイスから動画の取り込み・QT録画を習得する。	次回の授業用に、複数人で1つの被写体を同時に録画してくる。
9	講義	【Premiere】 動画作成を課題に複数カメラからの編集を習得する。	スローモーション、早回しをしたら良さそうな素材を撮影してくる。
10	講義	【Premiere】 動画作成を課題に速度調整を習得する。	単色の背景の前での動画素材を撮影してくる。
11	講義	【Premiere】 動画作成を課題にクロマキーを習得する。	クロマキー合成のクオリティーを上げた編集を再度しておく。
12	講義	【Premiere】 動画作成を課題にアフレコを習得する。	作品制作のプランニングをし、絵コンテを描いてくる。
13	講義	【Premiere】 「明日への扉」を題材に3分間の映像制作（素材の回収（必要であれば撮影））	授業内で出来なかった部分を各自進める。
14	講義	【Premiere】 「明日への扉」を題材に3分間の映像制作（動画編集）	授業内で出来なかった部分を各自進める。
15	講義	【Premiere】 「明日への扉」を題材に3分間の映像制作（書き出し・盤面印刷）	授業内で出来なかった部分を各自進める。
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
インターネット&ホームページ			

科目名	PCスキルアップ5	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	唐澤 淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務						
授業の学習 内容	1年時に習得した「PCスキルアップ I・Ⅲ」「DTP」のスキルをベースに応用を学びます。 加えて、重要度が高まっている映像関連の最低限のスキルを身につけます。 実習作業を中心に反復練習を繰り返すことで身体で覚えながら、様々なテクニックも身につけていきます。						
到達目標	一年次に習得した「PCスキルアップ I・Ⅲ」「DTP」の復習とともに新たに以下の3点を身につける。 (1) Adobe Premiere proの基本的な使い方を習得する。 (2) Adobe Photoshopの応用方法を習得する。 (3) Adobe Illustratorの応用方法を習得する。						
評価方法と基準	1. レポート提出 (%) : 50% 2. 筆記課題 (%) : 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	【Illustrator/Photoshop】就職活動用または学生生活ポートフォリオ作り (構成・作品傾向の解説)	ポートフォリオの作成の為に素材を集める
2	講義	【Illustrator/Photoshop】就職活動用または学生生活ポートフォリオ作り (作成に伴う効果的なエフェクトを知る)	Photoshop・Illustratorの機能の復習を踏まえポートフォリオの作成を進める
3	講義	【Illustrator/Photoshop】就職活動用または学生生活ポートフォリオ作り	Photoshop・Illustratorの機能の復習を踏まえポートフォリオの作成を進める
4	講義	【Illustrator/Photoshop】就職活動用または学生生活ポートフォリオ作り	カラーの印刷機で実際に使用できるように印刷しておく
5	講義	【Illustrator/Photoshop】チラシ作成 (コピー) を通じてスキルアップと復習	Photoshop・Illustratorの機能の復習を踏まえチラシの作成を進める
6	講義	【Illustrator/Photoshop】チラシ作成 (コピー) を通じてスキルアップと復習	チラシ作成を進めつつ、機能の復習も進める
7	講義	【Illustrator/Photoshop】チラシ作成 (コピー) を通じてスキルアップと復習	カラーの印刷機で実際に手元にあるように印刷しておく
8	講義	【Illustrator/Photoshop】カレンダー製作	月に合った素材を集めておく。
9	講義	【Illustrator/Photoshop】カレンダー製作	カラーの印刷機で実際に手元にあるように印刷しておく
10	講義	【Illustrator/Photoshop】ファッション誌の表紙作り	Photoshop・Illustratorの機能の復習を踏まえ表紙の作成を進める
11	講義	【Illustrator/Photoshop】ファッション誌の表紙作り	カラーの印刷機で実際に手元にあるように印刷しておく
12	講義	【PowerPoint】進級制作展を校内宣伝するための資料を作成する	資料を基に各校舎教職員に確認してもらい校内放送してもらう。
13	講義	【PowerPoint】卒業制作展を校内宣伝するための資料を作成する	資料を基に各校舎教職員に確認してもらい校内放送してもらう。
14	講義	【PowerPoint】進級制作展で使用するサイン・チケットのデザインを作成する。	作成したデザインを本番日に使用する
15	講義	【PowerPoint】卒業制作展で使用するサイン・チケットのデザインを作成する。	作成したデザインを本番日に使用する
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】			
インターネット&ホームページ・Photoshop ver.CS6・Illustrator ver.CS6			

科目名	タレントマネジメントアドバンス	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	堀内 梓
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	エイベックス・エンタテインメント株式会社 プラットフォーム事業本部 / マーケティングユニット / MD事業グループ / MD企画第1ユニット						
授業の学習 内容	マネージャーとしての音楽業界の基礎知識を学び、実習を通して即戦力となる人材育成を行うカリキュラム。						
到達目標	音楽業界が求める人材になる為の基礎知識を身につける。 実習を通して自ら調べ考える力を身につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	本授業における目的設定の共有	事前に目的(目標)と自己PRをまとめて提出。
2	講義	ライブを取り巻く音楽業界の構造-1 基本知識	ワークシート提出
3	講義	ライブを取り巻く音楽業界の構造-2 マネタイズ	ワークシート提出
4	講義	マネージャーとは-1 基本知識	ワークシート提出
5	講義	マネージャーとは-2 企画やマネタイズ	ワークシート提出
6	講義	ブランディング戦略-1 ブランディングとは?	ワークシート提出
7	講義	ブランディング戦略-2 ブランディングとは?/プレゼンについて説明	ワークシート提出/プレゼン準備
8	講義	ブランディング戦略-3 プレゼンパート	ワークシート提出/プレゼン準備
9	講義	ブランディング戦略-4 プレゼンパート	ワークシート提出/プレゼン準備
10	講義	ブランディング戦略-5 プレゼンパート	ワークシート提出
11	講義	復習・資料ブラッシュアップ	ワークシート提出
12	講義	ブランディング戦略-6 プレゼンパート	ワークシート提出/プレゼン準備
13	講義	ブランディング戦略-7 プレゼンパート	ワークシート提出/プレゼン準備
14	講義	定期試験	ワークシート提出
15	講義	振り返り	ワークシート提出/プレゼン資料最終提出
準備学習 時間外学習		設定した目的と前週を振り返り、復習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】			

科目名	舞台知識Advance 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	江見 千尋
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 屋間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	イベンターとして仕事をスタートし、その後 舞台監督、舞台照明などの業務に携わる						
授業の学習 内容	一年次に履修した「舞台知識」の講義をもとに、講義→演習のかたちで実際の現場で使用できる図面や資料の作成方法を学ぶ。 学内イベントミュージカル「明日への扉」を素材に実際にイベントで使用した上でより良いものにする。						
到達目標	舞台を作っていく具体的な流れ、段取りを把握し実際に現場で活用できる図面や資料を作成出来るようになる。						
評価方法と基準	課題の出来による評価を行う。30% 期日までに課題が提出されているか・必要な資料が揃っているか・課題のテーマに則しているか・よく考えられたプランになっているかを評価 70%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	会場図面の作成方法を習得する	「明日への扉」で使用する会場の情報を収集しておく
2	講義	「明日への扉」に使用する会場図面の作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
3	講義	進行プランの作成方法を習得する	「明日への扉」で使用する進行の情報を収集しておく
4	講義	「明日への扉」に使用する進行プランの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
5	講義	演出プランの作成方法を習得する	「明日への扉」で登場する演出の情報を収集しておく
6	講義	「明日への扉」に使用する演出プランの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
7	講義	セット図の作成方法を習得する	「明日への扉」で登場するセットの情報を収集しておく
8	講義	「明日への扉」に使用するセット図の作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
9	講義	タイムテーブルの作成方法を習得する	「明日への扉」小屋入り～本番までの各セクションのスケジュールを収集し
10	講義	「明日への扉」に使用するタイムテーブルの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
11	講義	同セクション担当が打ち合わせを行い、各資料問題が無い確認する	問題や変更があった部分を修正し提出する。
12	講義	授業内課題提出による試験を行う	試験にて出来なかった部分を復習する。
13	講義	「明日への扉」を題材に舞台機構を学ぶ①	本日の授業を基に出された課題を提出する。
14	講義	「明日への扉」を題材に舞台機構を学ぶ①	本日の授業を基に出された課題を提出する。
15	講義	各資料・図面が実際の現場で上手く活用できていたか検証する。	検証の際の改善点を訂正し提出。
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】			
「ステージ・PA・照明用語辞典」 リットーミュージック			

科目名	舞台知識Adance2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	江見 千尋
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	イベントーとして仕事をスタートし、その後 舞台監督、舞台照明などの業務に携わる						
授業の学習 内容	一年次に履修した「舞台知識」の講義をもとに、講義→演習のかたちで実際の現場で使用できる図面や資料の作成方法を学ぶ。学内イベントミュージカル「明日への扉」を素材に実際にイベントで使用した上でより良いものにする。						
到達目標	舞台を作っていく具体的な流れ、段取りを把握し実際に現場で活用できる図面や資料を作成出来るようになる。						
評価方法と基準	課題の出来による評価を行う。30% 期日までに課題が提出されているか・必要な資料が揃っているか・課題のテーマに則しているか・よく考えられたプランになっているかを評価 70%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	会場図面の作成方法を習得する	卒業制作展で使用する会場の情報を収集しておく
2	講義	卒業制作展に使用する会場図面の作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
3	講義	進行プランの作成方法を習得する	卒業制作展で使用する進行の情報を収集しておく
4	講義	卒業制作展に使用する進行プランの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
5	講義	演出プランの作成方法を習得する	卒業制作展で登場する演出の情報を収集しておく
6	講義	卒業制作展に使用する演出プランの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
7	講義	セット図の作成方法を習得する	卒業制作展で登場するセットの情報を収集しておく
8	講義	卒業制作展に使用するセット図の作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
9	講義	タイムテーブルの作成方法を習得する	卒業制作展小屋入り～本番までの各セクションのスケジュールを収集しておく
10	講義	卒業制作展に使用するタイムテーブルの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
11	講義	同セクション担当が打ち合わせを行い、各資料問題が無いか確認する	問題や変更があった部分を修正し提出する
12	講義	授業内課題提出による試験を行う	試験にて出来なかった部分を復習する
13	講義	卒業制作展の舞台機構を学ぶ①	本日の授業を基に出された課題を提出する。
14	講義	卒業制作展の舞台機構を学ぶ②	本日の授業を基に出された課題を提出する。
15	講義	各資料・図面が実際の現場で上手く活用できていたか検証する	検証の際の改善点を訂正し提出
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】 「ステージ・PA・照明用語辞典」 リットーミュージック			

科目名	文章基礎3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	天井 潤 之介
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	株式会社ロッキング・オン勤務、退社後、編集者／音楽評論家／音楽レーベル監修						
授業の学習 内容	「書く」という技術の習得。そのためのルールと基本構造を学んでもらいます。自分が考えている・思っていることを言葉／文字に変換する。そしてその言葉／文字を使いこなして、自分の考えや意図する思いを相手に正確に「伝える」ためにはどうすればよいのか。文章力の養成を通じて、思考力やコミュニケーション能力も養成することができればベストだと考えています。授業の進め方ですが、一コマめにその日の課題となる授業内容をレクチャーし、二コマめにその授業内容に沿ったライティングを実践してもらいます。						
到達目標	「書く」という技術は、企画立案や会議でのプレゼンテーションなど、自分の考えや意図を相手に正しく伝えるという様々なビジネスの場面で基礎となるものです。授業では主に音楽に関するテーマの文章作成を課すことが多くなると思いますが、そうした作業を通じて、説得力と具体性を持った論理の筋道を立てること、個人的な感想や感動を「情報整理／分析」へと昇華できるような技術と能力を養うことが目標です。						
評価方法及び基準	課題の提出が前提、原稿の出来栄を評価します。学習内容と到達目標を踏まえた上での総合判断を評価の基準とします。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	年間の授業方針と文章力の必要性について学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
2	講義	句読点を正しく使い、文意の伝わる文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
3	講義	改行を使いこなし、内容や趣旨を意識した文章作成が出来るようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
4	講義	例文の校正・添削を通じて、「主語・述語」の使い方を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
5	講義	例文の校正・添削を通じて、「修飾語」の使い方を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
6	講義	助詞を正しく使いこなし、誤読や誤解を生まない文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
7	講義	書き言葉と話し言葉の違いを学び効果的な使い方で文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
8	講義	起承転結を意識した文章を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
9	講義	起承転結を意識した文章を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
10	講義	起承転結を意識した文章を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
11	講義	両論併記を意識した文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
12	講義	両論併記を意識した文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
13	講義	両論併記を意識した文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
14	講義	授業の総振り返り	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
15	講義	テスト	
準備学習 時間外学習		授業内で出される課題の作成。文章に慣れた習慣作り。	
【使用教科書・教材・参考書】			
自作プリント配布			

科目名	文章基礎4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	天井潤之介
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	株式会社ロッキング・オン勤務、退社後、編集者／音楽評論家／音楽レーベル監修						
授業の学習 内容	「書く」という技術の習得。そのためのルールと基本構造を学んでもらいます。自分が考えている・思っていることを言葉／文字に変換する。そしてその言葉／文字を使いこなして、自分の考えや意図する思いを相手に正確に「伝える」ためにはどうすればよいのか。文章力の養成を通じて、思考力やコミュニケーション能力も養成することができればベストだと考えています。授業の進め方ですが、一コマめにその日の課題となる授業内容をレクチャーし、二コマめにその授業内容に沿ったライティングを実践してもらいます。						
到達目標	「書く」という技術は、企画立案や会議でのプレゼンテーションなど、自分の考えや意図を相手に正しく伝えるという様々なビジネスの場面で基礎となるものです。授業では主に音楽に関するテーマの文章作成を課すことが多くなると思いますが、そうした作業を通じて、説得力と具体性を持った論理の筋道を立てること、個人的な感想や感動を「情報整理／分析」へと昇華できるような技術と能力を養うことが目標です。						
評価方法と基準	課題の提出が前提、原稿の出来栄を評価します。学習内容と到達目標を踏まえた上での総合判断を評価の基準とします。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	前期の復習。文章力の基礎を固める。	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
2	講義	前期の復習。文章力の基礎を固める。	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
3	講義	前期の復習。文章力の基礎を固める。	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
4	講義	両論併記を意識した文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
5	講義	両論併記を意識した文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
6	講義	文章にリズムをつけて読み手が飽きない文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
7	講義	文章にリズムをつけて読み手が飽きない文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
8	講義	漢字とひらがなのバランスを考え読みやすい文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
9	講義	漢字とひらがなのバランスを考え読みやすい文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
10	講義	同義語を意識し語彙力を上げ表現力豊かな文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
11	講義	同義語を意識し語彙力を上げ表現力豊かな文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
12	講義	段落を活用し各コンテンツに適した文字数でまとめることを学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
13	講義	段落を活用し各コンテンツに適した文字数でまとめることを学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
14	講義	授業の総振り返り	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
15	講義	テスト	
準備学習 時間外学習		授業内で出される課題の作成。文章に慣れた習慣作り。	
【使用教科書・教材・参考書】			
自作プリント配布			

科目名	コンサートマネージメント&ビジネスワーク1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	高田 雄貴
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習 内容	[1] 音楽ビジネスにおける必須能力である、企画(プランニング)についての知識を用いて、プランニングの学習を行う [2] 音楽ビジネスの企画(プランニング)学習を通じてマーケットリサーチの学習を行う [3] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画(プランニング)について学ぶ中から企画実務の基本を学習する						
到達目標	[1] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスのコアを知る事で、業界人として必要なビジネスモデルを構築出来るようになる [2] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスの仕組みを知る事で、業界人として必要な提案力を構築出来るようになる [3] 音楽業界への就職後に必要な音楽ビジネスの実務を知る事で、業界人として必要な心構えを自信に変えられるようになる						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験 (評価割合 40%) [2] 受講態度 ※課題提出 (評価割合 60%)						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	時間の流れを企画する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
2	講義	企画の基本を確認する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
3	講義	企画の準備作業について理解する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
4	講義	地域催事の企画立案を行う	地域で行われている年間催事を調査しレポートにて提出
5	講義	地域催事の企画立案を発表する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
6	講義	野外フェスティバルの企画立案を行う	今年度開催される野外音楽フェスティバルを調査しレポートにて提出
7	講義	野外フェスティバルの企画立案を発表する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
8	講義	ビジネスモデルと企画を理解する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
9	講義	出演者をキャスティングするにはを理解する	音楽事業者協会と音楽制作者連盟について調査しレポートにて提出
10	講義	会場のタイプと仕組みを理解する	公益社団法人 全国公立文化施設協会について調査しレポートにて提出
11	講義	季節型催事の企画立案を行う	レジャー白書を調査しレポートにて提出
12	講義	季節型催事の企画立案を発表する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
13	講義	企画と調査を理解する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
14	講義	(明日への扉)を通して音楽ビジネススキルを学ぶ	明日への扉を通して音楽ビジネススキルを考察する
15	講義	(明日への扉)を通してビジネススキルを学ぶ	明日への扉を通してビジネススキルを考察する
準備学習 時間外学習		授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。	
【使用教科書・教材・参考書】			
昨年度実績の概要書・終了報告書参照			

科目名	コンサートマネージメント&ビジネスワーク2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	高田 雄貴
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習 内容	[1] 音楽ビジネスにおける必須能力である、企画(プランニング)についての知識を用いて、プランニングの学習を行う [2] 音楽ビジネスの企画(プランニング)学習を通じてマーケットリサーチの学習を行う [3] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画(プランニング)について学ぶ中から企画実務の基本を学習する						
到達目標	[1] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスのコアを知る事で、業界人として必要なビジネスモデルを構築出来るようになる [2] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスの仕組みを知る事で、業界人として必要な提案力を構築出来るようになる [3] 音楽業界への就職後に必要な音楽ビジネスの実務を知る事で、業界人として必要な心構えを自信に変えられるようになる						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験 (評価割合 40%) [2] 受講態度 ※課題提出 (評価割合 60%)						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	ヒットの仕組みを知る	昨年飛び出したヒットを研究しレポートとして提出
2	講義	フェスティバル受けする出演者を知る	本日の授業をもってレポートを800字以内で提出
3	講義	同世代の企画を検証する	大学リストを作成し提出する
4	講義	全国の大学で開催されているイベント(学園祭)を調査する	本日の授業をもってレポートを800字以内で提出
5	講義	企画を通すには、プレゼンテーション技術を学ぶ	本日の授業をもってレポートを800字以内で提出
6	講義	採用された企画を制作する(会議技法)	本日の授業をもってレポートを800字以内で提出
7	講義	採用された企画を制作する(ガントチャートによる作業進行管理技法)	本日の授業をもってレポートを800字以内で提出
8	講義	予算の管理を考える	本日の授業をもってレポートを800字以内で提出
9	講義	プロモーションについて検証する(広告と広報)	本日の授業をもってレポートを800字以内で提出
10	講義	企画における印刷媒体を学ぶ	本日の授業をもってレポートを800字以内で提出
11	講義	企画は流行を読むことから始まる	本日の授業をもってレポートを800字以内で提出
12	講義	スポーツイベントのビジネスモデルを知る	東京オリンピックを調査しレポートとして提出
13	講義	企画立案しプレゼンする	本日の授業をもってレポートを800字以内で提出
14	講義	(明日への扉)を通してプランニング力を学ぶ	明日への扉の資料の復習①
15	講義	(明日への扉)を通してプランニング力を学ぶ	明日への扉の資料の復習②
準備学習 時間外学習	授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。		
【使用教科書・教材・参考書】			
昨年度実績の概要書・終了報告書参照・自作PPT			

科目名	舞台史1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	北英樹
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 屋間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	コンサートや演劇、イベント等の舞台監督として活動。実務歴35年。						
授業の学習 内容	紀元前からの舞台の歴史や、劇場、舞台美術について学びます。舞台スタッフとして最低限必要な教養を身につけ、また舞台美術の知識を通してイマジネーションを広げていきます。						
到達目標	舞台の歴史を知ること、これからの新しいイベント、舞台を創造しゆく知識を習得することができ、創造力豊かな舞台スタッフとしての人材を育成する。						
評価方法と基準	レポート課題 50% 実技試験 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	舞台の歴史について概要説明し、流れを理解する。	
2	講義	古代ギリシア演劇～中世～	古代ギリシア演劇についてグループ研究し、レポートにまとめる
3	講義	古代ギリシア演劇を映像で鑑賞する	
4	講義	シェイクスピアの作品に触れる	シェイクスピア作品についてグループ研究し、レポートにまとめる
5	講義	シェイクスピア演劇を映像で鑑賞する	
6	講義	紀元前からの劇場について学ぶ	紀元前からの劇場について調べ、レポートにまとめる
7	講義	ローマ時代の劇場について学ぶ	ローマ時代の劇場について調べ、レポートにまとめる
8	講義	フランス演劇、スペイン演劇、ロシア演劇について学ぶ	フランス演劇、スペイン演劇、ロシア演劇について調べ、レポートにまとめる
9	講義	フランスのシュールレアリズム演劇、ミュージカル演劇、ピンターについて学ぶ	フランスのシュールレアリズム演劇、ミュージカル演劇、ピンターについて調べ、レポートにまとめる
10	講義	日本の古典演劇、能、狂言、歌舞伎、落語について学ぶ	能、狂言、歌舞伎、落語について調べ、レポートにまとめる
11	講義	日本舞台史～近世①～ (新派・新劇の登場)について学ぶ	新派・新劇について調べ、レポートにまとめる
12	講義	日本舞台史～近世②～ (宝塚歌劇団、松竹少女歌劇団)について学ぶ	宝塚歌劇団、松竹少女歌劇団について調べ、レポートにまとめる
13	講義	日本舞台史～現代～ (小劇場演劇、アングラ演劇)について学ぶ	小劇場演劇、アングラ演劇について調べ、レポートにまとめる
14	講義	劇団四季、2.5次元ミュージカルなど最近の舞台公演について学ぶ	劇団四季、2.5次元ミュージカルについて調べ、レポートにまとめる
15	講義	復習試験	総まとめをレポートにまとめる
準備学習 時間外学習		授業内容の復習をレポートにまとめる。	
【使用教科書・教材・参考書】			

科目名	舞台史2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	北英樹
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	コンサートや演劇、イベント等の舞台監督として活動。実務歴35年。						
授業の学習 内容	舞台のルーツを考え、現在の舞台を知る。						
到達目標	舞台の歴史を知ること、これからの新しいイベント、舞台を創造しゆく知識を習得することができ、創造力豊かな舞台スタッフとしての人材を育成する。						
評価方法と基準	レポート課題 50% 実技試験 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	古代エフェリスの舞台から歴史を学ぶ	古代エフェリスについて調べる
2	講義	現代とエフェリスとの共通点を学ぶ	ヨーロッパ舞台の歴史を調べる、グループワークで研究しレポートにまとめる。
3	講義	ヨーロッパからの舞台の躍進を学ぶ	ローマ時代の舞台について研究する
4	講義	ローマ時代のからの舞台のルーツを学ぶ	世界のイベントの数を調べる
5	講義	現在と過去のイベントの変遷を学ぶ	舞台とは何か、事前に研究する。
6	講義	生と死、舞台との関わりを学ぶ	前半講義のまとめレポートにまとめレポート課題として提出する。
7	講義	前半講義確認テスト 筆記	前半確認テスト 筆記
8	講義	日本の舞台の歴史を学ぶ	日本芸術について研究する。
9	講義	歌舞伎のルーツを学ぶ	ミュージカルについて研究する
10	講義	歴史からミュージカルを学ぶ	舞台と歴史の変遷について考察する
11	講義	舞台の歴史から変遷の流れを学ぶ	舞台美術と歴史について研究する
12	講義	ミュージカル「キャッツ」を学ぶ	美術と舞台についての関係を考察①
13	講義	デザイン画と舞台の可能性①	美術と舞台についての関係を考察①
14	講義	デザイン画と舞台の可能性②	舞台史の授業の振り返りを行う
15	講義	後期復習テスト 筆記	後期テスト 筆記
準備学習 時間外学習		授業内容の復習をレポートにまとめる。	
【使用教科書・教材・参考書】			

科目名	舞台スタッフ基礎講座1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	北 英 樹
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	コンサートや演劇、イベント等の舞台監督として活動。実務歴35年。						
授業の学習 内容	舞台美術、PA、照明、楽器テクニシャン、特殊効果等の舞台制作及び舞台監督を目指す学生にとって有益となる他セクションの仕事を学ぶ講義及び実技。						
到達目標	将来的に仕事での即戦力となるべく、舞台美術、舞台制作、PA、照明、楽器テクニシャン、特殊効果等の基本的知識を知り、作業内容を習得する。						
評価方法と基準	1.実技試験（50%） 2.筆記試験（50%）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	舞台美術（基礎舞台の設営）に関して	舞台美術とは何かを調べる。
2	講義	PAの基礎知識に関して	PAとは何かを調べる。
3	講義	舞台制作の応用知識に関して	1年時の舞台制作授業の復習。
4	講義	PAの機材に関して	PAの機材について調べる。
5	講義	PAのシステムに関して	PAのシステムとは何かを調べる。
6	講義	照明の基礎知識に関して	照明とは何かを調べる。
7	講義	照明の機材に関して	照明の機材について調べる。
8	講義	照明のシステムに関して	照明のシステムとは何かを調べる。
9	講義	ミュージカルの舞台演出について①	資料をまとめて整理する。
10	講義	ミュージカルの舞台演出について②	資料をまとめて整理する。
11	講義	特殊効果に関して	特殊効果とは何かを調べる。
12	講義	楽器と楽器のセッティングに関して	楽器とは何かを調べる。
13	講義	舞台での足場に関して	舞台での足場とは何かを調べる。
14	試験	前期復習テスト（筆記及び実技）	前期の全ての授業内容の復習
15	講義	舞台メイクに関して	舞台メイクについて復習レポート作成。
準備学習 時間外学習		準備学習 各授業のテーマを調べて下さい 時間外学習 授業日の曜日に必ず復習して下さい	
【使用教科書・教材・参考書】			
学内に有る全ての機材の使用			

科目名	舞台スタッフ基礎講座2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	北 英 樹
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	コンサートや演劇、イベント等の舞台監督として活動。実務歴35年。						
授業の学習 内容	舞台美術、PA、照明、楽器テクニシャン、特殊効果等の舞台制作及び舞台監督を目指す学生にとって有益となる他セクションの仕事を学ぶ講義及び実技。						
到達目標	将来的に仕事での即戦力となるべく、舞台美術、舞台制作、PA、照明、楽器テクニシャン、特殊効果等の基本的知識を知り、作業内容を習得する。						
評価方法及び基準	1.実技試験（50%） 2.筆記試験（50%）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	舞台スタッフの打合せスキルを学ぶ。	資料をまとめて整理する。
2	講義	舞台、照明、PAの各図面について学ぶ。	課題の図面を作成して提出する。
3	講義	舞台の様々なスタッフ（トランスポート、プロンプター等）について知る。	授業内容についての復習レポートを作成する。
4	講義	舞台の様々なスタッフ（レーザー、電飾等）について知る。	授業内容についての復習レポートを作成する。
5	講義	PAステージスタッフの仕事学ぶ。	授業内容についての復習レポートを作成する。
6	講義	PAハウスエンジニアの仕事学ぶ。	授業内容についての復習レポートを作成する。
7	講義	PA機材の名前を覚える。	授業内容についての復習レポートを作成する。
8	講義	照明の仕込み方法を学ぶ。	授業内容についての復習レポートを作成する。
9	講義	照明の一般調光オペレートを学ぶ。	授業内容についての復習レポートを作成する。
10	講義	照明のムービングについて学ぶ。	授業内容についての復習レポートを作成する。
11	講義	照明のムービングオペレートを学ぶ。	授業内容についての復習レポートを作成する。
12	講義	安全管理について学ぶ。	授業内容についての復習レポートを作成する。
13	講義	足場の組み方を学ぶ。	舞台での足場とは何か調べる。
14	試験	前期復習テスト（筆記及び実技）	前期の全ての授業内容の復習
15	講義	舞台スタッフの関連図を作成する。	
準備学習 時間外学習		準備学習 各授業のテーマを調べて下さい 時間外学習 授業日の曜日に必ず復習して下さい	
【使用教科書・教材・参考書】			

科目名	コンサート演出研究1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	唐澤淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務。実務歴26年。						
授業の学習 内容	海外の最先端コンサート情報と近代コンサート事情の歴史を知り、考察することで、新しいコンサートを作るための柔軟な思考を育てる。 1)最先端のコンサート演出、情報を知る。 2)最先端の情報の収集が出来るようになる。 3)海外コンサートの実態を知る。						
到達目標	最先端のコンサートを知ることで、未来を創ることができるスタッフを目指す。						
評価方法と基準	1. 実技試験 (%) : 50% 2. 課題提出 (%) : 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	最先端コンサートに興味を持つ	最先端のコンサートについて復習レポートを作成。
2	講義	4/19-21のコーチェラフェスティバルを振り返る	コーチェラフェスティバルについて調べてレポートを作成。
3	講義	NFL Superbowl Halftime Showで近代コンサートを見てみよう1992-2001、2019	近代コンサートについて調べてレポートを作成。
4	講義	NFL Superbowl Halftime Showで近代コンサートを見てみよう2002-2010、2018	近代コンサートについて調べてレポートを作成。
5	講義	NFL Superbowl Halftime Showで近代コンサートを見てみよう2011-2017	近代コンサートについて調べてレポートを作成。
6	講義	コンサートとは何か?なぜ行うのか?を考える	授業内容について復習レポートを作成。
7	講義	みんなのオススメコンサート演出の共有 (1)	お勧めコンサートの資料を準備する。
8	講義	U2を中心に近代の演出考察	U2というバンドについて調べてレポートを作成。
9	講義	BrunoMars/2017-2018 TOURを中心に近代の演出考察	BrunoMarというバンドについて調べてレポートを作成。
10	講義	みんなのオススメコンサート演出の共有 (2)	お勧めコンサートの資料を準備する。
11	講義	海外フェス演出	海外フェスについて調べてレポートを作成。
12	講義	明日への扉のスタッフとして演出を学ぶ①	明日への扉の演出についてレポートを作成。
13	講義	明日への扉のスタッフとして演出を学ぶ②	明日への扉の演出についてレポートを作成。
14	講義	日本のフェス演出/2018	日本のフェスについて調べてレポートを作成。
15	講義	2019日本の夏フェスを振り返る。試験。	2019日本の夏フェスについてレポートを作成。
準備学習 時間外学習		授業に向けて事前調べと資料の準備、授業内容の復習レポートを作成。	
【使用教科書・教材・参考書】			

科目名	コンサート演出研究2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	唐澤淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務。実務歴26年。						
授業の学習 内容	海外の最先端コンサート情報と近代コンサート事情の歴史を知り、考察することで、新しいコンサートを作るための柔軟な思考を育てる。 1)最先端のコンサート演出、情報を知る。 2)最先端の情報の収集が出来るようになる。 3)海外コンサートの実態を知る。						
到達目標	最先端のコンサートを知ることで、未来を創ることができるスタッフを目指す。						
評価方法と基準	1. 実技試験 (%) : 50% 2. 課題提出 (%) : 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	現在のアメリカコンサート事情	現在のアメリカコンサート事情について復習レポートを作成。
2	講義	Drake/2018、the carters/2018、Travis Scott/2019などHIP-HOP	HIP-HOPについて調べてレポートを作成。
3	講義	THIS IS ITでMichel Jacksonを知る	Michel Jacksonについて調べてレポートを作成。
4	講義	INTER BEE見学(開催日によって前後あり)	INTER BEEを調べてレポートを作成。
5	講義	MADONNA、JanetなどのGIRL'S POPクラシック	MADONNA、Janet
6	講義	Areana、Katy、Taylor、GagaなどのGIRL'S POP最先端	Areana、Katy、Taylor、Gaga
7	講義	IDOL(日本除く)コンサート	IDOL(日本除く)コンサート
8	講義	コンサート機材最新情報(Lighting & Sound Americaを使用)	コンサート機材最新情報
9	講義	オリンピック開会式演出(ロンドン2012、ソチ2014)	オリンピック開会式演出(ロンドン2012、ソチ2014)
10	講義	オリンピック開会式演出(リオ2016、平昌2018)、リオ東京プレゼンテーション	オリンピック開会式演出(リオ2016、平昌2018)、リオ東京プレゼンテーション
11	講義	最新コンサート情報についての考察(1)	授業内容の復習レポートを作成。
12	講義	最新コンサート情報についての考察(2)	授業内容の復習レポートを作成。
13	講義	We are TSM渋谷の演出を学ぶ①	We are TSM渋谷の演出についてレポートを作成。
14	講義	We are TSM渋谷の演出を学ぶ②	We are TSM渋谷の演出についてレポートを作成。
15	試験	Superbowl 2020振り返り。復習試験。	Superbowl 2020についてレポートを作成。
準備学習 時間外学習		授業に向けて事前調べと資料の準備、授業内容の復習レポートを作成。	
【使用教科書・教材・参考書】			

科目名	Creator'sRecording概論	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西片悠人
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴8年(代表作品:GLAY「LOVE IS BEAUTIFUL」,かりゆし58「でーじ、かりゆし」)						
授業の学習 内容	音楽クリエイターを目指す上で、レコーディング技術の必要性と需要が高まってきている昨今、クリエイターにとって必要なデジタルレコーディングの基本概念と、レコーディング技術及びミキシング・マスタリング技術の基礎知識と技術の習得を目指す。						
到達目標	①デジタルレコーディングの基本概念の理解 ②ヴォーカル及び各種アコースティック楽器のレコーディング技術の習得 ③業界標準DAW「ProTools」の基本概念と機能の理解						
評価方法と基準	1)定期テスト(筆記60% 実技40%)						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	デジタルレコーディング基本概念の理解① (アナログ,デジタルの違いとレコーディング技術の変遷について)	デジタルレコーディング基本概念の理解① (アナログ,デジタルの違いとレコーディング技術の変遷について)
2	講義	デジタルレコーディング基本概念の理解② (サンプリングレート、ビットレートについての理解)	デジタルレコーディング基本概念の理解② (サンプリングレート、ビットレートについての理解)
3	講義	デジタルレコーディング応用編① (AD/DA,レイテンシーとは?その対策について)	デジタルレコーディング応用編① (AD/DA,レイテンシーとは?その対策について)
4	講義	デジタルレコーディング応用編② (ワードクロックについて、活用法や注意点について)	デジタルレコーディング応用編② (ワードクロックについて、活用法や注意点について)
5	講義	マイクの種類および特性について	マイクの種類および特性について
6	講義	アナログコンソール(SSL4000G)を利用したオーディオルーティングについての理解	アナログコンソール(SSL4000G)を利用したオーディオルーティングについての理解
7	講義	アナログコンソール(SSL4000G)を利用したオーディオルーティングを理解し、レコーディング及びモニタリングのセットアップについて	アナログコンソール(SSL4000G)を利用したオーディオルーティングを理解し、レコーディング及びモニタリングのセットアップについて
8	講義	ヴォーカルレコーディングのセッティングとルーティングについて	ヴォーカルレコーディングのセッティングとルーティングについて
9	講義	アコースティック楽器のセッティングとルーティングについて	アコースティック楽器のセッティングとルーティングについて
10	講義	DAW「ProTools」基礎① セッションの作り方、各種機能の理解	DAW「ProTools」基礎① セッションの作り方、各種機能の理解
11	講義	DAW「ProTools」基礎② 編集ウィンドウの理解、4つの基本モードの理解	DAW「ProTools」基礎② 編集ウィンドウの理解、4つの基本モードの理解
12	講義	DAW「ProTools」基礎③ ミックスウィンドウの理解、オーディオルーティングについて	DAW「ProTools」基礎③ ミックスウィンドウの理解、オーディオルーティングについて
13	講義	SSLコンソールを使った実技テスト	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14	講義	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	ミュージカルのライブレコーディングのセッション作成について 振り返りと自習
15	講義	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習 時間外学習		授業に向けて事前調べと資料の準備、授業内容の復習レポートを作成。	
【使用教科書・教材・参考書】			

科目名	韓国語講座 3	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	崔 可暎
学科・コース	音楽テクノロジー科 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ハンゲルの理解、読み、聞き、作文まで対応 学んだ内容を基に、チームワークで会話の練習を行う 教科書で学んだものを応用して活用できるような発表も行う						
到達目標	韓国語での日常会話が可能になる 韓国語能力試験(TOPIK)の獲得を目標にします						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	ハンゲルの理解を深める。	ハンゲルの復習を行う。
2		講義	ハンゲルの読みをマスターする。	ハンゲルの読みの復習を行う。
3		講義	ハンゲルの読みの確認。	ハンゲルの読みの復習を行う。
4		講義	パッチムの理解し使える。	パッチムの理解の復習を行う。
5		講義	リスニング練習・テストと復習	リスニング練習・テストと復習
6		講義	挨拶の会話文作って話せる。	挨拶の会話文作っての復習を行う。
7		講義	「あります」「ありません」を使った表現を使う。	「あります」「ありません」を使った表現の復習を行う。
8		講義	形容詞の応用を理解する。	形容詞の応用の復習を行う。
9		講義	敬語を理解する。	敬語を理解の復習を行う。
10		講義	過去形文を理解する。	過去形文を理解の復習を行う。
11		講義	未来形文を理解する。	未来形文を理解の復習を行う。
12		講義	可能系文を理解する。	可能系文を理解の復習を行う。
13		講義	作文を理解する。	作文を理解の復習を行う。
14		講義	「あります」「ありません」を使った表現を使う。	「あります」「ありません」を使った表現の復習を行う。
15		講義	前期実施項目の復習	前期実施項目の復習を行う。
準備学習 時間外学習			様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
韓国語初歩の初歩 CD付／韓国語「文法」トレーニング				

科目名	韓国語講座 4	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	崔 可暎
学科・コース	音楽テクノロジー科 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ハンゲルの理解、読み、聞き、作文まで対応 学んだ内容を基に、チームワークで会話の練習を行う 教科書で学んだものを応用して活用できるような発表も行う						
到達目標	韓国語での日常会話が可能になる 韓国語能力試験(TOPIK)の獲得を目標にします						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	空港での表現を理解する。	空港での表現の復習を行う。
2		講義	郵便局での表現を理解する。	郵便局での表現の復習を行う。
3		講義	旅行先での表現を理解する。	旅行先での表現の復習を行う。
4		講義	映画館・デートでの表現を理解する。	映画館・デートでの表現の復習を行う。
5		講義	病院に行った時の表現を理解する。	病院に行った時の表現の復習を行う。
6		講義	美容室に行った時の表現を理解する。	美容室に行った時の表現の復習を行う。
7		講義	手紙の表現を理解する。	手紙の表現の復習を行う。
8		講義	褒め言葉・指摘言葉を理解する。	褒め言葉・指摘言葉の復習を行う。
9		講義	リスニングのテストと復習	リスニングのテストの復習を行う。
10		講義	面接の表現を理解する。	面接の表現の復習を行う。
11		講義	フリートーク(自分の国について)を理解する。	フリートーク(自分の国について)の復習を行う。
12		講義	フリートーク(趣味について)を理解する。	フリートーク(趣味について)の復習を行う。
13		講義	褒め言葉・指摘言葉を理解する。	褒め言葉・指摘言葉の復習を行う。
14		講義	病院に行った時の表現を理解する。	病院に行った時の表現の復習を行う。
15		講義	後期実施項目の復習	後期実施項目の復習
準備学習 時間外学習			様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】 韓国語初歩の初歩 CD付／韓国語「文法」トレーニング				

科目名	日本語講座 3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	池村 雅彦
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部-	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	滋慶グループで日本語検定対策N1, N2、ビジネス日本語担当						
授業の学習 内容	日本語能力試験合格のために必要な文法、語彙の意味、用法を学び練習問題で理解度を確認する。適切なコミュニケーションがとれるように自然な表現、慣用表現などを導入、練習する。テーマに沿ってグループディスカッション実施、グループの意見をまとめ発表する。						
到達目標	①日本語能力試験N1合格を目指す。②上級レベルの文法、語彙、慣用表現が適切に使えるようになる。③学んだ表現を使って自身の考え、物事の説明が適切にでき、スムーズなコミュニケーションがとれる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	挨拶、自己紹介を日本語でできる。	挨拶の復習と年間勉強計画表を作成
2	講義	大きさや量を強調する表現が理解できる	大きさや量を強調する表現の文型を作りレポート作成
3	講義	「ごとく」を使った表現を使い分けができる	「ごとく」を使った表現の文型を作りレポート作成
4	講義	連続する動作を表す表現を使うことができる	連続する動作を表す表現の文型を作りレポート作成
5	講義	評価や感情を表す表現を使うことができる	評価や感情を表す表現の文型を作りレポート作成
6	講義	大切で不可欠であることを表現できる	大切で不可欠であることを表現の文型を作りレポート作成
7	講義	価値や能力について適切に表現できる	価値や能力についての表現の文型を作りレポート作成
8	講義	「かいがある」などの似かよった表現が理解できる	「かいがある」などの似かよった表現の文型を作りレポート作成
9	講義	強い感情、気持ちを書き言葉で表せる	強い感情、気持ちの表現の文型を作りレポート作成
10	講義	状況を否定的、消極的な気持ちで表すことができる	状況を否定的、消極的な表現の文型を作りレポート作成
11	講義	驚き、感嘆、疑問などの表現が理解できる	驚き、感嘆、疑問などの表現の文型を作りレポート作成
12	講義	一つの例を示して他にもあることを強調できる	一つの例を示して他にもあることの表現の文型を作りレポート作成
13	講義	価値や能力について適切に表現できる	価値や能力についての表現の文型を作りレポート作成
14	講義	試験実施と復習	試験実施と復習
15	講義	総復習を通して、後期で強化する点を知る	これまでの復習し理解し正しく作文を作成する。
準備学習 時間外学習		様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】スピードマスターN1文法、新完全マスターN1語彙、その他必要に応じた資料			

科目名	日本語講座 4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	池村 雅彦
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部-	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	滋慶グループで日本語検定対策N1, N2、ビジネス日本語担当						
授業の学習 内容	日本語能力試験合格のために必要な文法、語彙の意味、用法を学び練習問題で理解度を確認する。適切なコミュニケーションがとれるように自然な表現、慣用表現などを導入、練習する。テーマに沿ってグループディスカッション実施、グループの意見をまとめ発表する。						
到達目標	①日本語能力試験N1合格を目指す。②上級レベルの文法、語彙、慣用表現が適切に使えるようになる。③学んだ表現を使って自身の考え、物事の説明が適切にでき、スムーズなコミュニケーションがとれる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	挨拶、自己紹介を日本語でできる。	挨拶の復習と年間勉強計画表を作成
2	講義	大きさや量を強調する表現が理解できる	大きさや量を強調する表現の文型を作りレポート作成
3	講義	「ごとく」を使った表現を使い分けができる	「ごとく」を使った表現の文型を作りレポート作成
4	講義	連続する動作を表す表現を使うことができる	連続する動作を表す表現の文型を作りレポート作成
5	講義	評価や感情を表す表現を使うことができる	評価や感情を表す表現の文型を作りレポート作成
6	講義	大切で不可欠であることを表現できる	大切で不可欠であることを表現の文型を作りレポート作成
7	講義	価値や能力について適切に表現できる	価値や能力についての表現の文型を作りレポート作成
8	講義	「かいがある」などの似かよった表現が理解できる	「かいがある」などの似かよった表現の文型を作りレポート作成
9	講義	強い感情、気持ちを書き言葉で表せる	強い感情、気持ちの表現の文型を作りレポート作成
10	講義	状況を否定的、消極的な気持ちで表すことができる	状況を否定的、消極的な表現の文型を作りレポート作成
11	講義	驚き、感嘆、疑問などの表現が理解できる	驚き、感嘆、疑問などの表現の文型を作りレポート作成
12	講義	一つの例を示して他にもあることを強調できる	一つの例を示して他にもあることの表現の文型を作りレポート作成
13	講義	価値や能力について適切に表現できる	価値や能力についての表現の文型を作りレポート作成
14	講義	試験実施と復習	試験実施と復習
15	講義	総復習を通して、後期で強化する点を知る	これまでの復習し理解し正しく作文を作成する。
準備学習 時間外学習		様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】			

科目名	Expression A-3 (Vocal Training 3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	三浦 侖美
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ヴォーカリストで活躍していくためには幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの応用と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	高度な歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	高度な歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
9		演習	高度な歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
10		演習	高度な歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
11		演習	高度な歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
12		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
13		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
14		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
15		演習	試験	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習 時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A-4 (Vocal Training 3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	三浦 侖美
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ヴォーカリストで活躍していくには幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの応用と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
9		演習	高度な歌唱歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
10		演習	高度な歌唱歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
11		演習	高度な歌唱歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
12		演習	高度な歌唱歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
13		演習	高度な歌唱アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
14		演習	高度な歌唱アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
15		演習	試験	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習 時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B-3 (Vocal Reading 5)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	田原 佑 一朗
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	イヤートレーニング2を理解し説明できる。	授業概要の説明とイヤートレーニング2の復習レポート作成
2		講義	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
3		講義	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
4		講義	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
5		講義	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
6		講義	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
7		講義	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
8		講義	中間試験、中間課題の発表・提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ミクソリディアンを理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ミクソリディアン復習レポート作成
10		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：リディアンを理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：リディアン復習レポート作成
11		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ドリアンを理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ドリアン復習レポート作成
12		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：フリジアンを理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：フリジアンの復習レポート作成
13		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ロクリアンを理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ロクリアンの復習レポート作成
14		講義	ダイアトニック・モード(ダイアトニック・コード・スケール)を理解し説明できる。	ダイアトニック・モード(ダイアトニック・コード・スケール)の復習レポート作成
15		講義	学期末試験及び、学期末課題の発表・提出。	学期末課題の発表・提出。
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B-4 (Vocal Reading 7)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	田原 佑 一朗
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	イヤートレーニング3を復習理解し説明ができる	イヤートレーニング3の復習・確認レポート作成
2		講義	ペンタトニック・スケール(メジャー、マイナー)理解し説明ができる	ペンタトニック・スケール(メジャー、マイナー)の復習確認レポート作成
3		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
4		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
5		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
6		講義	クロマチック・スケールとスケール・モードの習得し理解し説明ができる	クロマチック・スケールとスケール・モードの復習確認レポート作成
7		講義	クロマチック・アプローチを含むメロディー習得し理解し説明ができる	クロマチック・アプローチを含むメロディー確認レポート作成
8		講義	中間試験、中間課題の発表・提出。	中間試験、中間課題準備
9		講義	転調について実践習得し理解し説明ができる	転調について実践確認レポート作成
10		講義	転調を含むメロディーを作って習得し理解し説明ができる	転調を含むメロディー確認レポート作成
11		講義	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー確認レポート作成
12		講義	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー確認レポート作成
13		講義	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる	無調的なメロディー確認レポート作成
14		講義	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる	無調的なメロディー確認レポート作成
15		講義	学期末試験及び、学期末課題の発表・提出。	学期末課題の発表・提出。
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-3 (Vocal Reading 6)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 田原 佑 一朗
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。					
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。					
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	イヤートレーニング2を理解し説明できる。	授業概要の説明とイヤートレーニング2の復習レポート作成
2		講義	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
3		講義	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
4		講義	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
5		講義	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
6		講義	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
7		講義	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
8		講義	中間試験、中間課題の発表・提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ミクソリディアンを理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ミクソリディアン復習レポート作成
10		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：リディアンを理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：リディアン復習レポート作成
11		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ドリアンを理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ドリアン復習レポート作成
12		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：フリジアンを理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：フリジアンの復習レポート作成
13		講義	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ロクリアンを理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール)：ロクリアンの復習レポート作成
14		講義	ダイアトニック・モード(ダイアトニック・コード・スケール)を理解し説明できる。	ダイアトニック・モード(ダイアトニック・コード・スケール)の復習レポート作成
15		講義	学期末試験及び、学期末課題の発表・提出。	学期末課題の発表・提出。
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-4 (Vocal Reading 8)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	田原 佑 一朗
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	多くのアーティストのサポートとしてライブやレコーディングで活躍。						
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	イヤートレーニング3を復習理解し説明ができる	イヤートレーニング3の復習・確認レポート作成
2		講義	ペンタトニック・スケール(メジャー、マイナー)理解し説明ができる	ペンタトニック・スケール(メジャー、マイナー)の復習確認レポート作成
3		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
4		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
5		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
6		講義	クロマチック・スケールとスケール・モードの習得し理解し説明ができる	クロマチック・スケールとスケール・モードの復習確認レポート作成
7		講義	クロマチック・アプローチを含むメロディー習得し理解し説明ができる	クロマチック・アプローチを含むメロディー確認レポート作成
8		講義	中間試験、中間課題の発表・提出。	中間試験、中間課題準備
9		講義	転調について実践習得し理解し説明ができる	転調について実践確認レポート作成
10		講義	転調を含むメロディーを作って習得し理解し説明ができる	転調を含むメロディー確認レポート作成
11		講義	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー確認レポート作成
12		講義	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー確認レポート作成
13		講義	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる	無調的なメロディー確認レポート作成
14		講義	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる	無調的なメロディー確認レポート作成
15		講義	学期末試験及び、学期末課題の発表・提出。	学期末課題の発表・提出。
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Semi Private Lesson 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 野見山 正貴 小林 幸恵 金野 友美
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	ミュージシャン、アーティストにとって必要不可欠な音階を学び、ソロアプローチ法やそのテクニックを学ぶ。					
到達目標	メジャースケールの5パターン、メジャーペンタニックスケールの5パターン、ダイアトニックアルペジオの使い方、ソロ奏法ができるようになる。					
評価方法と基準	実技による採点: 100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	メジャー・スケールのハーモニーを理解する。	メジャー・スケールのハーモニーの復習を行い実演する。
2		演習	1、3、5度のコード・トーンからスケールを始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。
3		演習	メジャー・スケールパターン・トライアド・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン4のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
4		演習	1、3、5度のコード・トーンから始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。
5		演習	メジャー・スケールパターン2のトライアド・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン2のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
6		演習	1、3、5度のコード・トーンから始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。
7		演習	メジャー・スケールパターン1のトライアド・アルペジオの使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン1のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
8		演習	1、3、5度のコード・トーンから始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。
9		演習	1、3、5度のコード・トーンから始める方法を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン3のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
10		演習	メジャー・スケールパターン5のトライアド・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン5のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
11		演習	メジャー、マイナー、ディミニッシュ、sus4、オーギュメントアルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー、マイナー、ディミニッシュ、sus4、オーギュメントアルペジオ使い方の復習を行い実演する。
12		演習	メジャー・スケールパターン4の7th・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン4の7th・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
13		演習	メジャー・スケールパターン2の7th・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン2の7th・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
14		演習	メジャー・スケールパターン1の7th・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン1の7th・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
15		演習	学期末試験及び復習。	試験
準備学習 時間外学習			各スケール練習、コードワーク復習を1日1時間を基本に繰り返す。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Semi Private Lesson 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 野見山 正貴 小林 幸恵 金野 友美
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	アンサンブルコミュニケーション力と、インスト楽曲での各楽器の演奏バリエーションを学ぶ。					
到達目標	ミュージシャンにとって必要な読譜力を学び、様々なスタイルの楽曲を様々なキーで演奏する。					
評価方法と基準	実技による採点: 100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	譜面の読み方、パート作りを行い書くことができる。	譜面の読み方、パート作りを行い書くし譜面作成する。
2		演習	ブルースのコード進行の理解し演奏できる。	ブルースのコード進行の復習をし演奏を録音する。
3		演習	パートのバリエーションとソロの応用を行い実演する。	パートのバリエーションとソロの応用を復習をし演奏を録音する。
4		演習	ブルースのシャッフルスタイルの理解し12小節、8ビートブルースの演奏する。	ブルースのシャッフルスタイルの復習をし演奏を録音する。
5		演習	ブルースのシャッフルスタイルの理解しブルースのシャッフルスタイル曲の演奏する。	ブルースのシャッフルスタイルの復習をし演奏を録音する。
6		演習	8小節ブルース+ブリッジの理解しブルースのシャッフルスタイル曲の演奏する。	8小節ブルース+ブリッジ復習をし演奏を録音する。
7		演習	8小節ブルース+ブリッジの理解し、ブルースのシャッフルスタイル曲の演奏する。	8小節ブルース+ブリッジ復習をし演奏を録音する。
8		演習	シンコペーションと分数コードの理解しブルース+ブリッジ構成曲の演奏する。	シンコペーションと分数コードの復習をし演奏を録音する。
9		演習	シンコペーションと分数コードの理解しブルース+ブリッジ構成曲の演奏する。	シンコペーションと分数コードの理解をし復習をし演奏を録音する。
10		演習	シンコペーションと分数コードを理解しシンコペーションと分数コード曲の演奏。	シンコペーションと分数コードを理解し復習をし演奏を録音する。
11		演習	シンコペーション、分数コードの理解しロックスタイルのシンコペーションと分数コード曲の演奏する。	シンコペーション、分数コードの理解し復習をし演奏を録音する。
12		演習	レゲエスタイルの理解とロックスタイルのシンコペーションと分数コード曲の演奏する。	レゲエスタイルの理解復習をし演奏を録音する。
13		演習	レゲエスタイルの理解しレゲエスタイル曲の演奏する。	レゲエスタイルの理解復習をし演奏を録音する。
14		演習	6/8拍子のロックスタイルの理解しKey=CMのレゲエスタイル曲の演奏する。	6/8拍子のロックスタイルの理解復習をし演奏を録音する。
15		演習	学期末試験及び復習。	テスト。
準備学習 時間外学習			各スケール練習、コードワーク復習を1日1時間を基本に繰り返す。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	セッションアレンジゼミ 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 村田 隆 行
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴	鳴瀬喜博・IKUO・村田、3人のベーシストによるユニット「THE CHOPPERS REVOLUTION」を結成し、キングレコード、徳間JAPANより2枚のフル・アルバムとライブDVDを発表。					
授業の学習 内容	<p>①「BANDアンサンブルをテーマに、プロフェッショナルな現場での急なアレンジや自身の演奏スタイルの応用までを習得する。」</p> <p>②「各パートの授業、理論の実践の場。」</p> <p>③「瞬発的なアンサンブルやアレンジの対応を求められる事で、自身の演奏課題が明確になる事。(アンサンブル力・楽器演奏力)この二つがプロフェッショナルとして通用するための課題が明確になり、それらを勉強・実践する事により、ステージや録音現場で堂々と演奏が出来き、自信に繋がっていく場になって欲しい。」</p> <p>①～③をふまえ、課題曲を中心に、みんなで演奏をする事、その結果どうなったかを録音し、みんなでチェックをする。リズム・ハーモニー・メロディー、これらのテーマを各楽器がどう考え、何に気をつけながら演奏しなければいけないのかをみんなで考察する。他パートが何を考えているのか、どう変化すればどの様なアンサンブルが生まれるのかをみんなで考える事により、自然とアンサンブルやバンド・アレンジに対する意識を各ミュージシャンが身につけてほしい。</p>					
到達目標	<p>①急なアレンジの変更・楽曲の提示に対応する事により、自身の楽器演奏レベルの向上、授業の実践をする事から自身の目標をさらに明確にする。</p> <p>②アンサンブル・アレンジに対するチームワーク意識と大切さを持ってもらう。</p> <p>③インストゥルメンタル・ミュージックとヴォーカルのためのアンサンブルの違いをこの授業から理解し、状況によりコントロール出来る様になる。</p>					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	この授業の説明とチームの振り分け	共有された課題曲を事前に全曲聞く
2		演習	課題曲①を使つてのアンサンブル/前半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
3		講義	①のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・バンドアンサンブルに必要な担当楽器のセルフアレンジ力の幅を広げるためのトレーニング
4		演習	課題曲を使つてのアンサンブル/後半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・リズムパターンの引き出しを増やす
5		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
6		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
7		演習	課題曲を使つてのアンサンブル②	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
8		講義	②のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・リズムキープ練習・アレンジの分析・リズムパターンの引き出しを増やす
9		講義	②のアレンジの考察と主にハーモニー・リアレンジ	・リズムキープ練習・アレンジの分析・リズムパターンの引き出しを増やす
10		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
11		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
12		演習	課題曲を使つてのアンサンブル③(課題曲まとめ)	課題曲のアレンジ発表
13		演習	課題曲を使つてのアンサンブル④(課題曲まとめ)	課題曲のアレンジ発表
14		講義	前期項目の総復習	前期未達成項目の復習
15		テスト	期末テスト実施と復習	前期未達成項目の復習
準備学習 時間外学習			スキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	セッションアレンジゼミ 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	村田 隆 行
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	鳴瀬善博・IKUO・村田、3人のベーストによるユニット「THE CHOPPERS REVOLUTION」を結成し、キングレコード、徳間JAPANより2枚のフル・アルバムとライブDVDを発表。						
授業の学習 内容	<p>①「前期よりもリズム、コード感に特化し、プロフェッショナルな現場での急なアレンジや自身の演奏スタイルの応用までを習得する。」</p> <p>②「各パートの授業、理論の実践の場。」</p> <p>③「瞬発的なアンサンブルやアレンジの対応を求められる事で、自身の演奏課題が明確になる事。(アンサンブル力・楽器演奏力)この二つがプロフェッショナルとして通用するための課題が明確になり、それらを勉強・実践する事により、ステージや録音現場で堂々と演奏が出来き、自信に繋がっていく場になって欲しい。」</p> <p>①～③をふまえ、課題曲を中心に、みんなで演奏をする事、その結果どうなったかを録音し、みんなでチェックをする。リズム・ハーモニー・メロディー、これらのテーマを各楽器がどう考え、何に気をつけながら演奏しなければいけないのかをみんなで考察する。他パートが何を考えているのか、どう変化すればどの様なアンサンブルが生まれるのかをみんなで考える事により、自然とアンサンブルやバンド・アレンジに対する意識を各ミュージシャンが身につけてほしい。</p>						
到達目標	<p>①急なアレンジの変更・楽曲の提示を対応する事により、自身の楽器演奏レベルの向上、授業の実践をする事から自身の目標をさらに明確にする。</p> <p>②アンサンブル・アレンジに対するチームワーク意識と大切さを持ってもらう。</p> <p>③インストゥルメンタル・ミュージックとヴォーカルのためのアンサンブルの違いをこの授業から理解し、状況によりコントロール出来るようになる。</p>						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	前期の振り返り	後期の予習
2		演習	課題曲①を使っのアンサンブル/前半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
3		講義	①のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・バンドアンサンブルに必要な担当楽器のセルフアレンジ力の幅を広げるためのトレーニング
4		演習	課題曲を使っのアンサンブル/後半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・リズムパターンの引き出しを増やす
5		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
6		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
7		演習	課題曲を使っのアンサンブル②	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
8		演習	②のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・リズムキープ練習・アレンジの分析・リズムパターンの引き出しを増やす
9		演習	②のアレンジの考察と主にハーモニー・リアレンジ	・リズムキープ練習・アレンジの分析・リズムパターンの引き出しを増やす
10		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
11		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
12		演習	課題曲を使っのアンサンブル③(課題曲まとめ)	課題曲のアレンジ発表
13		演習	課題曲を使っのアンサンブル④(課題曲まとめ)	課題曲のアレンジ発表
14		講義	後期項目の総復習	後期未達成項目の復習
15		テスト	期末テスト実施と復習	後期未達成項目の復習
準備学習 時間外学習			スキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Song Writing 3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 隆 志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	作曲するための理論と手順を伝える。 自分で楽譜に起こす他、DTM(デスクトップミュージック)にて楽曲を完成させられるようにする。						
到達目標	この授業を通して1曲を自分の力で作れるようになる。 楽曲を作るために必要な理論を習得するとを到達目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	基本的なトライアドの理解	1 2 音階のメジャースケールを理解、midiキーボードで演奏できるようにする
2		講義	ダイアトニックコードの理解	1 2 音階のダイアトニックコード演奏できるようにする
3		演習	ダイアトニックコードを使ってコード進行を作る	ダイアトニックコードのみで作られている曲を選別しコード進行のパターンをメモしておく
4		演習	セカンダリードミナント、同主調の取り入れ	セカンダリードミナントのコードワークを理解し、理論的分析。ノンダイアトニックにおけるメロディーの作り方
5		演習	リレイテッドIImを取り入れる	リレイテッドIImとセカンダリードミナントの関係を理解する
6		講義	課題曲(1-VIm-IV-V)のアナライズ	スタンドバイミーを聴いて採譜する
7		演習	課題曲のメロディーを変えずコード進行を変更	コードとメロディーの関係性を理解する
8		演習	課題曲のコード進行を変更し採譜して提出	コードとメロディーの関係性を理解する
9		演習	ガレージバンドで課題曲のドラムのリズムパターンを打ち込んでみる。	ドラムのことを調べドラムのパターンを3つ覚える
10		演習	Logicにガレージバンドで打ち込んだデータを入れフィルのループを挿入してみる	ドラムのフィルについて研究し3パターン作成し実際に使ってみる
11		演習	Logicを使いベースとギターとキーボードを打ち込んでみる	各楽器の奏法と音色について調べて理解する
12		演習	打ち込んだデータとヴォーカルレコーディングしたデータをラフミックスする。EQとコンプレッサーの処理をする	ヴォーカルをレコーディングしてみる
13		演習	マスタリング作業の工程を理解、マスタリングの重要性。	各楽器の音量のバランスを再度調整
14		演習	前期のおさらい	DTMの基本、音楽理論まとめ
15		演習	課題曲を打ち込んだものをアレンジし提出	未達成箇所の復習
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Song Writing 4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 隆 志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	作曲するための理論と手順を伝える。 前期で学んだ内容を元にコードの抑揚(明るい、暗い)の幅を広げるための理論を学ぶ。 自分で楽譜に起こす他、DTM(デスクトップミュージック)にて楽曲を完成させられるようにする。						
到達目標	作詞作曲をし1曲打ち込みができるようになる。 この授業や、他の授業で学んだ内容を活かし ミックスマスタリングの重要性を理解した状態でのアレンジをする。						
評価方法と基準	実技による採点:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	作詞のやり方、作詞の練習の仕方	課題曲に新たな詞を追加し課題曲の歌詞にあった詞を作成する
2		講義	前期で打ち込んだ課題曲のメロディーを変更	メロディーのパターンを3種類授業外で作成
3		演習	変更したメロディーに新たな歌詞を作成する	変更したメロディーに沿ったアレンジをする
4		演習	講師が提示したコード進行のパターンを使ってロックの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	ロックというジャンルがどういジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
5		演習	講師が提示したコード進行のパターンを使ってバラードの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	バラードというジャンルがどういジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
6		演習	講師が提示したコード進行のパターンを使ってポップスの曲ワンコーラス曲を作ってみよう	ポップスというジャンルがどういジャンルか調べリファレンスし理論的解釈を深める
7		演習	ロック、バラード、ポップスの3曲のうちどれかを完成させアレンジしたものを提出	提出した音源以外のアレンジも完成させる
8		講義	ホーンセクションの考え方と打ち込みの仕方について	ホーンセクションについて調べ理論的解釈を深める 前回作ったポップスの曲にホーンセクションを挿入してみる
9		講義	オーケストレーションについてと打ち込みの仕方について	オーケストラについて調べ理論的解釈を深める 前回作ったバラードの曲にオーケストレーションを挿入してみる
10		講義	好きな曲をコード進行をリファレンス分解し理論的解釈を深め曲のアライズ力を高める	理論的に曲を分析しコード進行やアレンジやリズムパターンなどメロディーにどのように関係してるの解釈する
11		演習	リファレンスした曲のドラムをアレンジし全体の構成作成	リズムパターンの決定
12		演習	コード進行を決めてベースラインを作成する	コードアレンジをしベースラインを組み直す
13		演習	ギターアレンジを作成する	メロディーの作成
14		演習	キーボード、ホーンセクションなどの楽器のアレンジと	ヴォーカルコーディング
15		演習	トラックメイカー目線でのミックスを学びり色々なサイドチェインで個性を出せるようになる	コンプレッサーを實際触ってみて中間試験で作曲したものにサイドチェインを使ってみる
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	CD制作 1	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	野崎 貴潤
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	実習・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴	作・編曲、プロデュース、エンジニアリングなどの音楽制作に関わって30年						
授業の学習 内容	三年間の学習の総決算として、現実に近い環境・形態で、限りなくプロクオリティに近い音楽アルバム制作を出来る様に力をつける						
到達目標	自分達でサウンドプロデュース・スケジュール作成・ミュージシャン発注等を総合した「トータルプロデュース」の力を発揮できる						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:50%、作品提出:50%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		実習・演習	テーマ決定・チーム編成	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
2		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
3		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
4		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
5		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
6		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
7		実習・演習	10分以上のアレンジ・レコーディング・編集済み作品提出	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
8		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
9		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
10		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
11		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
12		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
13		試験	20分以上のアレンジ・レコーディング・編集済み作品提出	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
14		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
15		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
準備学習 時間外学習			余裕を持った作成環境を作る為に、効率的な授業・授業外のスケジュールアップを心がける	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	CD制作 2	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	野崎 貴潤
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	実習・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴	作・編曲、プロデュース、エンジニアリングなどの音楽制作に関わって30年						
授業の学習 内容	三年間の学習の総決算として、現実に近い環境・形態で、限りなくプロクオリティに近い音楽アルバム制作を出来る様に力をつける						
到達目標	自分達でサウンドプロデュース・スケジュール作成・ミュージシャン発注等を総合した「トータルプロデュース」の力を発揮できる						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:50%、作品提出:50%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	30分以上のアレンジ・レコーディング・編集済み作品提出	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
2		演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
3		演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
4		演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
5		演習	40分以上の全アレンジ・レコーディング・編集済み作品	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
6		演習	ミキシング	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
7		演習	ミキシング	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
8		演習	ミキシング	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
9		演習	全作品ミキシング済み作品提出及び確認	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
10		演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
11		演習	マスタリング	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
12		演習	全作品マスタリング済み作品提出及び確認	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
13		演習	ジャケット・パッケージ制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
14		演習	全作品マスタリング済み作品提出及び確認	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
15		演習	全作品マスタリング済み作品提出及び確認	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
準備学習 時間外学習			余裕を持った作成環境を作る為に、効率的な授業・授業外のスケジュールアップを心がける	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	イベント制作・運営演習5	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤 淳 江見 千尋
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 屋間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 6		
教員の略歴	唐澤:アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務 江見:イベンターとして仕事をスタートし、その後 舞台監督、舞台照明などの業務に携わる						
授業の学習 内容	江戸川文化センターで行われる骨髄移植推進キャンペーンニュージカル「明日への扉」の公演を教材にイベントスタッフとして必要な運営・制作の知識を実践的に学ぶ。 実践で行うことにより、舞台を創る流れや細かな段取りを学びながら業界に必要な人材として成長していく。						
到達目標	運営・制作の流れが理解出来る。 公演の際にスタッフの一員として参加出来る。						
評価方法と基準	授業の中でのレポート提出 30% 「明日への扉」に関しての積極的な発言や態度。関わりや、本番日の行動力、スタッフの一員として成り立っているか。それぞれに与えられた担当のなかで仕事を全うしているかを評価 70%						

授業計画・内容			学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	「明日への扉」の内容について触れ、本公演を開催する意義を理解する ※応用編	骨髄移植を推進するプロモーションをレポート用紙にて提出する
2		演習	運営のセクションの流れと段取りを学ぶ ※応用編	運営とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
3		演習	制作のセクションの流れと段取りを学ぶ ※応用編	制作とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
4		演習	その他のセクション (PA・照明・舞台・衣装管理・メイク) の流れと段取りを学ぶ ※応用編	昨年のマニュアルを参考にに関わり時期を調べておく
5		演習	運営スタッフ・制作スタッフ共通して使用する機材や備品の使い方について学ぶ ※応用編	昨年のマニュアルを参考に実際に使用していた時期を調べておく
6		演習	各希望セクションに分かれ、運営:公演概要と運営方法を学ぶ 制作:稽古スケジュールを基に稽古期間の流れや段取りを学ぶ ※応用編	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
7		演習	運営:チケット発売方法と管理方法を学ぶ 制作:台本の使い方を学ぶ・稽古会場の仕込みを学ぶ ※応用編	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
8		演習	運営:協賛の必要性を学び協力をお願いする 制作:制作スケジュールの作成・各セクション香盤表を作成 ※応用編	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
9		演習	運営:ホールRHに伴う会場下見、必要備品の準備・調達 制作:ホールRHに伴う会場下見・使用会場の申請・乗屋振り分け ※応用編	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
10		演習	運営:運営方法を学びマニュアルを作成する 制作:搬入・搬出方法を学ぶ・機材管理を学ぶ ※応用編	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
11		演習	運営:運営マニュアル読み合わせ 制作:各セクションへの伝達事項を学び実践する ※応用編	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
12		演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を成功させる (実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ) ※応用編	実践的に各セクションに取り組む
13		演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を成功させる (実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ) ※応用編	実践的に各セクションに取り組む
14		演習	運営・制作共に終了報告書の作成方法を学び、作成する	授業に引き続き作成し提出
15		演習	各セクションごとに終了報告会を開催する	実践的に各セクションに取り組む
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	
【使用教科書・教材・参考書】				
昨年度卒業・進級制作展運営マニュアル・概要書・終了報告書				

科目名	イベント制作・運営実習6	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤 淳 江見 千尋
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	唐澤:アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務 江見:イベントラーとして仕事をスタートし、その後 舞台監督、舞台照明などの業務に携わる						
授業の学習 内容	ZEPPTOKYOで行われる卒業・進級制作展wearTSM! TSM渋谷! DA TOKYO! の公演を教材にイベントスタッフとして必要な運営・制作の知識を実践的に学ぶ。実践で行うことにより、コンサートを創る流れや細かな段取りを学びながら業界に必要な人材として成長していく。						
到達目標	運営・制作の流れが理解出来る。 公演の際にスタッフの一員として参加出来る。						
評価方法及び基準	授業の中でレポート提出 30% 「明日への原」に関しての積極的な発言や態度、関わりや、本番日の行動力、スタッフの一員として成り立っているか。それぞれに与えられた担当のなかで仕事を全うしているかを評価 70%						

授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)	
1		演習	卒業・進級制作展の内容について触れ、本公演を開催する意義を理解する		コンセプトの元公演演出の考案レポートを提出	
2		演習	運営のセクションの流れと段取りを学ぶ ※応用編		運営とはどのような役割かをレポートにまとめ提出	
3		演習	制作のセクションの流れと段取りを学ぶ ※応用編		制作とはどのような役割かをレポートにまとめ提出	
4		演習	その他のセクション (PA・照明・舞台・衣装管理・メイク) の流れと段取りを学ぶ ※応用編		昨年のマニュアルを参考に関わり時期を調べておく	
5		演習	運営スタッフ・制作スタッフ共通して使用する機材や備品の使い方について学ぶ ※応用編		昨年のマニュアルを参考に実際に使用していた時期を調べておく	
6		演習	各希望セクションに分かれ、運営:公演概要とコンセプト内容を学ぶ 制作:公演の流れを理解し稽古スケジュールを組む ※応用編		授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する	
7		演習	運営:座席管理方法を学ぶ 制作:公演演出の流れを理解し機材の管理を行う ※応用編		授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する	
8		演習	運営:運営マニュアルの作成方法を学び作成する 制作:制作スケジュールの作成・各セクション香盤表を作成 ※応用編		授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する	
9		演習	運営:ホールRHに伴う会場下見、必要備品の準備・調達 制作:ホールRHに伴う会場下見・使用会場の申請・案屋振り分け ※応用編		授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する	
10		演習	運営:運営方法を学び作成する 制作:搬入・搬出方法を学ぶ・機材管理を学ぶ ※応用編		授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する	
11		演習	運営:運営マニュアルの読み合わせ 制作:各セクションへの伝達事項を学び実践する ※応用編		授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する	
12		演習	卒業・進級制作展運営・制作スタッフとして公演を成功させる (実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ)		実践的に各セクションに取り組む	
13		演習	卒業・進級制作展運営・制作スタッフとして公演を成功させる (実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ)		実践的に各セクションに取り組む	
14		演習	運営・制作共に終了報告書の作成方法を学び、作成する		授業に引き続き作成し提出	
15		演習	各セクションごとに終了報告会を開催する		実践的に各セクションに取り組む	
準備学習		時間外学習	各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。			
【使用教科書・教材・参考書】						
昨年度卒業・進級制作展運営マニュアル・概要書・終了報告書						

科目名	動画撮影&編集3	必修 選択	選択	年次	3	担当教員 鈴木新吾
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	
教員の略歴	テイチクやコロンビアなどのアーティストのMVを監督。現在はニッスイや資生堂のweb、SNS動画広告の監督を務める。					
授業の学習 内容	カメラの種類、特性、撮影技法について学び基本的操作が出来るようになる 映像演出、コンテ作成が出来るようになる Adobe Premiere Proの基本操作が出来るようになる(映像編集) Adobe Photoshopの基本操作が出来るようになる(グラフィック) 学内で行われるイベントの撮影企画制作をし、撮影、編集、最終的にYouTubeなどにアップロードする					
到達目標	Adobe Premiere Pro、Adobe Photoshop、 構成、台本作成、撮影機材、撮影方法、編集、オーディオ編集の基本操作知識、理解					
評価方法と基準	制作物評価:20% 達成度テスト(実技):80%・達成目標なるアプリケーションの基本操作のチェック					

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	演習	カメラの種類、動画フォーマットの種類、撮影技法(アングル、サイズ)動画の構成、演出について学ぶ	学生自身が持っているスマートフォンを使用して授業で学んだことを踏まえて自己紹介動画を作成し、次回提出(編集やテロップなどはいれず、失敗しても収録を止めてやり直さない)
2	演習	コンピューターに関する理解、Adobe Premiere Pro、Adobe Photoshop、を理解する	授業で学んだ内容を復習する
3	演習	【Premiere Pro】基礎技術習得 動画編集を行ううえでのプロジェクト、環境設定、ワークスペースの習得	次週の授業から編集が始めるように復習する
4	演習	【Premiere Pro】基礎技術習得 以前撮影した自己紹介動画の取り込み方法、編集を行ううえでの構成、注意事項、ショートカットキーの習得し編集を行う	復習しながら自己紹介動画の作成
5	演習	【Premiere Pro】基礎技術習得 動画編集の際に必要な特殊効果、タイトル、テロップ、グラフィックの挿入方法を学ぶ	作品を完成させて次回提出
6	演習	【Premiere Pro】基礎技術習得 オーディオの編集、エフェクトの追加、BGMの追加、カラーグレーディング、動画の書き出しにおける設定、アップロード方法の習得	作品提出、総評
7	演習	【Photoshop】 作成するうえでのプロジェクト、環境設定、ワークスペースの習得、素材も元にショートカットキーの習得	次週の授業から編集が始めるように復習する
8	演習	【Photoshop】 動画素材も元に文字起こし等のテロップ作成方法の習得	作品を完成させて提出
9	演習	民生用カメラと業務用カメラの違い、標準的な撮影時のセッティング、照明、ホワイトバランスなどの撮影テクニック講座	授業で学んだ内容を復習する
10	演習	メイキング撮影、インタビューでの構成、演出、のテクニック講座、明日への扉メイキング映像撮影の企画、セクション決め	今まで学んだ内容を復習し、イベント撮影で実践出来るようにする
11	演習	今まで学んだ編集テクニックをおさらい。課題を与え時間内に完成させ、ショートカットキーやより実践的なテクニックを学ぶ	次週のテストに向けて復習と確認
12	演習	【Photoshop】 達成度テスト テスト解説	次週のテストに向けて復習と確認
13	演習	【Premiere Pro】 達成度テスト テスト解説	迷った部分を復習する
14	演習	授業の振り返り	前期内の授業のまとめ
15	演習	テスト	
準備学習 時間外学習		授業時間内の制作が中心で、授業時間内で終わらなかったものを準備学習とします	
【使用教科書・教材・参考書】			

科目名	動画撮影&編集4	必修 選択	選択	年次	3	担当教員 鈴木新吾
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	
教員の略歴	テイチクやコロムビアなどのアーティストのMVを監督。現在はニッスイや資生堂のweb、SNS動画広告の監督を務める。					
授業の学習 内容	カメラの種類、特性、撮影技法について学び基本的操作が出来るようになる 映像演出、コンテ作成が出来るようになる Adobe Premiere Proの基本操作が出来るようになる(映像編集) Adobe Photoshopの基本操作が出来るようになる(グラフィック) 学内で行われるイベントの撮影企画制作をし、撮影、編集、最終的にYouTubeなどにアップロードする					
到達目標	Adobe Premiere Pro、Adobe Photoshop、 構成、台本作成、撮影機材、撮影方法、編集、オーディオ編集の基本操作知識、理解					
評価方法と基準	演習の成果(準備含め):50% 課題の作成:50%					

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	演習	明日への扉メイキング映像の編集、ナレーション入れ、パッケージデザイン	イベントで撮影したものをチームで作成
2	演習	明日への扉メイキング映像の編集、ナレーション入れ、パッケージデザイン	イベントで撮影したものをチームで制作、各チームつなぎ合わせ次回
3	演習	明日への扉メイキング映像の編集、完成、YouTubeなどにアップロード	完成、試写、総評、制作した作品に対するディスカッション
4	演習	撮影テクニック総復習①構成、演出 前回のイベント撮影の反省を活かし、次回に向けて構成、演出論を学ぶ	ドキュメンタリー番組、映画などを視聴し情報収集
5	演習	撮影テクニック総復習②撮影 前回のイベント撮影の反省を活かし、次回に向けて撮影技術向上させる	ドキュメンタリー番組、映画などを視聴し情報収集
6	演習	撮影テクニック総復習③編集 前回のイベント撮影の反省を活かし、次回に向けて編集技術向上させる	ドキュメンタリー番組、映画などを視聴し情報収集
7	演習	SNS広告やweb広告の特徴と傾向、画コンテの読み方と作成方法について学ぶ	動画広告を視聴し情報収集
8	演習	We are TSM!イベント告知CM制作企画	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出演者や裏方スタッフにインタビュー
9	演習	We are TSM!イベント告知CM制作、撮影、編集	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出演者や裏方スタッフにインタビュー、編集
10	演習	We are TSM!イベント告知CM制作、撮影、編集、完成	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出演者や裏方スタッフにインタビュー、編集、完成
11	演習	We are TSM!イベント告知CM制作、撮影、編集、完成(昨年度の素材も使用しYouTubeなどにアップロードする)	完成、試写、総評
12	演習	We are TSM!メイキング映像の企画、セクション決め	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出演者や裏方スタッフにインタビュー
13	演習	We are TSM!メイキング映像制作、撮影、編集	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出演者や裏方スタッフにインタビュー
14	演習	作品の振り返り	チームに分かれて他人の作品の評価
15	演習	テスト	
準備学習 時間外学習		授業時間内の制作が中心で、授業時間内で終わらなかったものを準備学習とします	
【使用教科書・教材・参考書】			

科目名	PCスキルアップ4	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤 淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務						
授業の学習 内容	1年時に習得した「PCスキルアップ I・Ⅲ」「DTP」のスキルをベースに応用を学びます。 加えて、重要度が高まっている映像関連の最低限のスキルを身につけます。 実習作業を中心に反復練習を繰り返すことで身体で覚えながら、様々なテクニックも身につけていきます。						
到達目標	一年次に習得した「PCスキルアップ I・Ⅲ」「DTP」の復習とともに新たに以下の3点を身につける。 (1) Adobe Premiere proの基本的な使い方を習得する。 (2) Adobe Photoshopの応用方法を習得する。 (3) Adobe Illustratorの応用方法を習得する。						
評価方法と基準	1. 実技試験(%) : 50% 2. 筆記試験(%) : 0% 3. 課題(%) : 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	【Premiere】 基本的な概念を習得する。	基礎の仕組みを覚え、慣れておく。
2		講義	【Premiere】 Lyric Video製作を通してレイヤー・タイトル・波形の使い方を習得する。	授業で使用する音源・歌詞を用意し提出。
3		講義	【Premiere】 Lyric Video製作を通して文字エフェクト・Fadeの使い方を習得する。	機能の復習として作品制作内歌詞を入力しておく。
4		講義	【Premiere】 Lyric Video製作を通して画像・動画の挿入を習得する。	機能の復習として作品制作内画像・動画を挿入しておく。
5		講義	【Premiere他】 Illustrator・photoshopとの連携を習得する。	機能の復習として作品制作内でIllustrator・photoshopの要素を入れ込む。
6		講義	【Premiere】 Lyric Video製作を通してレンダリングを習得する。	機能の復習として作品制作内レンダリングしておく。
7		講義	【Premiere】 Lyric Video製作を通して書き出し・仕上げを習得する。	YouTubeにてアップする。
8		講義	【Premiere】 動画素材の撮影・デバイスから動画の取り込み・QT録画を習得する。	次回の授業用に、複数人で1つの被写体を同時に録画してくる。
9		講義	【Premiere】 動画作成を課題に複数カメラからの編集を習得する。	スローモーション、早回しをしたら良さそうな素材を撮影してくる。
10		講義	【Premiere】 動画作成を課題に速度調整を習得する。	単色の背景の前での動画素材を撮影してくる。
11		講義	【Premiere】 動画作成を課題にクロマキーを習得する。	クロマキー合成のクオリティーを上げた編集を再度しておく。
12		講義	【Premiere】 動画作成を課題にアフレコを習得する。	作品制作のプランニングをし、絵コンテを描いてくる。
13		講義	【Premiere】 「明日への扉」を題材に3分間の映像制作(素材の回収(必要であれば撮影))	授業内で出来なかった部分を各自進める。
14		講義	【Premiere】 「明日への扉」を題材に3分間の映像制作(動画編集)	授業内で出来なかった部分を各自進める。
15		講義	【Premiere】 「明日への扉」を題材に3分間の映像制作(書き出し・盤面印刷)	授業内で出来なかった部分を各自進める。
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
インターネット&ホームページ				

科目名	PCスキルアップ5	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤 淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務						
授業の学習 内容	1年時に習得した「PCスキルアップ I・Ⅲ」「DTP」のスキルをベースに応用を学びます。 加えて、重要度が高まっている映像関連の最低限のスキルを身につけます。 実習作業を中心に反復練習を繰り返すことで身体で覚えながら、様々なテクニックも身につけていきます。						
到達目標	一年次に習得した「PCスキルアップ I・Ⅲ」「DTP」の復習とともに新たに以下の3点を身につける。 (1) Adobe Premiere proの基本的な使い方を習得する。 (2) Adobe Photoshopの応用方法を習得する。 (3) Adobe Illustratorの応用方法を習得する。						
評価方法と基準	1. 実技試験(%) : 50% 2. 筆記試験(%) : 0% 3. 課題(%) : 50%						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1		講義	【Illustrator/Photoshop】就職活動用または学生生活ポートフォリオ作り (構成・作品傾向の解説)		ポートフォリオの作成の為に素材を集める		
2		講義	【Illustrator/Photoshop】就職活動用または学生生活ポートフォリオ作り (作成に伴う効果的なエフェクトを知る)		Photoshop・Illustratorの機能の復習を踏まえポートフォリオの作成を進める		
3		講義	【Illustrator/Photoshop】就職活動用または学生生活ポートフォリオ作り		Photoshop・Illustratorの機能の復習を踏まえポートフォリオの作成を進める		
4		講義	【Illustrator/Photoshop】就職活動用または学生生活ポートフォリオ作り		カラーの印刷機で実際に使用できるように印刷しておく		
5		講義	【Illustrator/Photoshop】チラシ作成(コピー)を通じてスキルアップと復習		Photoshop・Illustratorの機能の復習を踏まえチラシの作成を進める		
6		講義	【Illustrator/Photoshop】チラシ作成(コピー)を通じてスキルアップと復習		チラシ作成を進めつつ、機能の復習も進める		
7		講義	【Illustrator/Photoshop】チラシ作成(コピー)を通じてスキルアップと復習		カラーの印刷機で実際に手元にあるように印刷しておく		
8		講義	【Illustrator/Photoshop】カレンダー製作		月に合った素材を集めておく。		
9		講義	【Illustrator/Photoshop】カレンダー製作		カラーの印刷機で実際に手元にあるように印刷しておく		
10		講義	【Illustrator/Photoshop】ファッション誌の表紙作り		Photoshop・Illustratorの機能の復習を踏まえ表紙の作成を進める		
11		講義	【Illustrator/Photoshop】ファッション誌の表紙作り		カラーの印刷機で実際に手元にあるように印刷しておく		
12		講義	【PowerPoint】進級制作展を校内宣伝するための資料を作成する		資料を基に各校舎教職員に確認してもらい校内放送してもらう。		
13		講義	【PowerPoint】卒業制作展を校内宣伝するための資料を作成する		資料を基に各校舎教職員に確認してもらい校内放送してもらう。		
14		講義	【PowerPoint】進級制作展で使用するサイン・チケットのデザインを作成する。		作成したデザインを本番日に使用する		
15		講義	【PowerPoint】卒業制作展で使用するサイン・チケットのデザインを作成する。		作成したデザインを本番日に使用する		
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。				
【使用教科書・教材・参考書】							
インターネット&ホームページ・Photoshop ver.CS6・Illustrator ver.CS6							

科目名	コンサート演出研究1	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務。実務歴26年。						
授業の学習 内容	海外の最先端コンサート情報と近代コンサート事情の歴史を知り、考察することで、新しいコンサートを作るための柔軟な思考を育てる。 1)最先端のコンサート演出、情報を知る。 2)最先端の情報の収集が出来るようになる。 3)海外コンサートの実態を知る。						
到達目標	最先端のコンサートを知ることで、未来を創ることができるスタッフを目指す。						
評価方法と基準	1. 実技試験(%) : 50% 2. 課題提出(%) : 50%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義	最先端コンサートに興味を持つ	最先端のコンサートについて復習レポートを作成。	
2		講義	4/19-21のコーチェフフェスティバルを振り返る	コーチェフフェスティバルについて調べてレポートを作成。	
3		講義	NFL Superbowl Halftime Showで近代コンサートを見てみよう1992-2001、2019	近代コンサートについて調べてレポートを作成。	
4		講義	NFL Superbowl Halftime Showで近代コンサートを見てみよう2002-2010、2018	近代コンサートについて調べてレポートを作成。	
5		講義	NFL Superbowl Halftime Showで近代コンサートを見てみよう2011-2017	近代コンサートについて調べてレポートを作成。	
6		講義	コンサートとは何か?なぜ行っのか?を考える	授業内容について復習レポートを作成。	
7		講義	みんなのオススメコンサート演出の共有(1)	お勧めコンサートの資料を準備する。	
8		講義	U2を中心に近代の演出考察	U2というバンドについて調べてレポートを作成。	
9		講義	BrunoMars/2017-2018 TOURを中心に近代の演出考察	BrunoMarというバンドについて調べてレポートを作成。	
10		講義	みんなのオススメコンサート演出の共有(2)	お勧めコンサートの資料を準備する。	
11		講義	海外フェス演出	海外フェスについて調べてレポートを作成。	
12		講義	明日への扉のスタッフとして演出に関わる(1)	明日への扉の演出についてレポートを作成。	
13		講義	明日への扉のスタッフとして演出に関わる(2)	明日への扉の演出についてレポートを作成。	
14		講義	日本のフェス演出/2018	日本のフェスについて調べてレポートを作成。	
15		講義・試験	2019日本の夏フェスを振り返る。試験。	2019日本の夏フェスについてレポートを作成。	
準備学習 時間外学習			授業に向けて事前調べと資料の準備、授業内容の復習レポートを作成。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	コンサート演出研究2	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務。実務歴26年。						
授業の学習 内容	海外の最先端コンサート情報と近代コンサート事情の歴史を知り、考察することで、新しいコンサートを作るための柔軟な思考を育てる。 1)最先端のコンサート演出、情報を知る。 2)最先端の情報の収集が出来るようになる。 3)海外コンサートの実態を知る。						
到達目標	最先端のコンサートを知ることで、未来を創ることができるスタッフを目指す。						
評価方法と基準	1. 実技試験 (%) : 50% 2. 課題提出 (%) : 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	現在のアメリカコンサート事情	現在のアメリカコンサート事情について復習レポートを作成。
2		講義	Drake/2018、the carters/2018、Travis Scott/2019などHIP-HOP	HIP-HOPについて調べてレポートを作成。
3		講義	THIS IS ITでMichel Jacksonを知る	Michel Jacksonについて調べてレポートを作成。
4		講義	INTER BEE見学(開催日によって前後あり)	INTER BEEを調べてレポートを作成。
5		講義	MADONNA、JanetなどのGIRL'S POPクラシック	MADONNA、Janet
6		講義	Areana、Katy、Taylor、GagaなどのGIRL'S POP最先端	Areana、Katy、Taylor、Gaga
7		講義	IDOL(日本除く)コンサート	IDOL(日本除く)コンサート
8		講義	コンサート機材最新情報(Lighting & Sound Americaを使用)	コンサート機材最新情報
9		講義	オリンピック開会式演出(ロンドン2012、ソチ2014)	オリンピック開会式演出(ロンドン2012、ソチ2014)
10		講義	オリンピック開会式演出(リオ2016、平昌2018)、リオ東京プレゼンテーション	オリンピック開会式演出(リオ2016、平昌2018)、リオ東京プレゼンテーション
11		講義	最新コンサート情報についての考察(1)	授業内容の復習レポートを作成。
12		講義	最新コンサート情報についての考察(2)	授業内容の復習レポートを作成。
13		講義	We are TSM渋谷の演出に関わる(1)	We are TSM渋谷の演出についてレポートを作成。
14		講義	We are TSM渋谷の演出に関わる(2)	We are TSM渋谷の演出についてレポートを作成。
15		講義・試験	Superbowl 2020振り返り。試験。	Superbowl 2020についてレポートを作成。
準備学習 時間外学習			授業に向けて事前調べと資料の準備、授業内容の復習レポートを作成。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	チーム制作プロジェクトE (チーム制作プロジェクト9)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	高田 雄貴
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 6		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習 内容	[1] ライブイベントの企画制作についての基礎知識を下級生に説明しながら、理解度をあげる学習をする [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント(コンサート/ライブ他)企画の実施についてより正確に処理できるよう学習をする [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者としての必要な業務を体験し、将来に備えた学習をする						
到達目標	[1] ライブイベントの企画制作を依頼された際に、自主的に準備・対応できる速度感を習得する [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント(コンサート/ライブ他)企画の実施時におけるお客様対応や、様々な事象の対応力を習得する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者として即時にインターンまたは社員として必要なレベルの実務力を養成する						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験 (評価割合 40%) [2] 受講態度 ※課題提出 (評価割合 60%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		演習	プロジェクトの進め方	プロフィールシートの作成	
2		演習	ライブイベント実施に向けて (打合せ)	打合せ準備資料の作成	
3		演習	ライブイベント実施 ※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入	
4		演習	ライブイベント実施 ※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入	
5		演習	ライブイベント実施 ※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入	
6		演習	ライブイベントを記録する (映像収録とWEB)	ライブ映像の編集処理	
7		演習	ライブイベント実施に向けて (打合せ)	運営マニュアルの作成	
8		演習	ライブイベント実施に向けて (打合せ)	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入	
9		演習	ライブイベント実施 ※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入	
10		演習	ライブイベント実施 ※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入	
11		演習	ライブイベント実施 ※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入	
12		演習	ライブイベント実施 ※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入	
13		演習	ライブイベント実施[Pro Musician FES!]	運営マニュアルの作成・読み合わせ	
14		演習	オーディションイベント実施 ※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入	
15		演習	オーディションイベント実施 ※アーティストは年度によって異なる	ライブ映像の編集処理	
授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。					
【使用教科書・教材・参考書】					
昨年度実績の概要書・終了報告書参照					

科目名	チーム制作プロジェクトE (チーム制作プロジェクト10)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	岡 秀樹
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 6		
教員の略歴	ライブハウス店長・ブッキングマネージャー、アーティストマネージャー						
授業の学習 内容	エンターティメントの発信地である「渋谷」を拠点に活動しているライブハウスや音楽施設を知り、企業とプロジェクトを組み、生きたイベント企画・制作・運営・プロモーションを学ぶ。即戦力になる人材育成に向け実践力を身につける。						
到達目標	精度の高い企画書、実施要項、運営マニュアル、プロモーションプランを学生主体で作成できるようにする。イベント企画では、「独創的な企画を提案できる」こと、制作では「人・もの・お金・時間を管理」できること、運営では「進行を管理することができ、安心・安全な運営を円滑に行う」ことができること、プロモーションでは「既存概念に捉われないこと無く、自分たちに何が出来るかを徹底的に追求し、時代に沿ったプロモーションを提案し実行」することを目標とする。						
評価方法と基準	授業内での積極的な発言や態度。イベント本番日の行動力。メール等のレスポンスの速さ、丁寧さ。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	新年度オリエンテーション(アイスブレイク、フレイムストーン、映像鑑賞、討論)	新入生歓迎ライブの打ち合わせ
2		演習	新入生歓迎ライブの運営・制作。	運営マニュアルの事前読み合わせ
3		演習	エンタメ施設取材①(企画書作成/渋谷施設調べ/アポとりシミュレーション)	渋谷にあるエンターテインメント施設を調べて提出
4		演習	エンタメ施設取材②(アポとり/電話・メール・名刺交換シミュレーション)	希望する取材場所の施設の研究を行い資料として提出
5		演習	エンタメ施設取材③(取材内容、取材方法検討)	インタビュー記事を研究し、インタビュー内容を提出
6		演習	エンタメ施設取材④(プレゼン準備/パワーポイント作成/進行表作成/発表シミュレーション)	発表パワーポイント・発表進行表を作成し提出
7		演習	エンタメ施設取材⑤(プレゼンテーション/報告書作成)	班員にて発表シミュレーションを行う
8		演習	企業プロジェクト①(プロジェクト内容説明、企業紹介、担当者自己紹介)	エンタメ取材報告書を作成し提出する
9		演習	企業プロジェクト②(企業理念理解/ディスカッション/スケジュール作成)	関わる企業を研究(歴史、理念、業務内容)し、資料として提出
10		演習	企業プロジェクト③(プロジェクト企画書：プロモーションプラン作成)	ディスカッションした内容を元に企画書・プロモーションリスト作成
11		演習	企業プロジェクト④(プロモーション実践/運営マニュアル作成)	プロモーションスケジュールを作成、運営マニュアルラフ作成
12		演習	企業プロジェクト⑤(イベント当日の運営を実践)	運営マニュアルの事前読み合わせ
13		演習	企業プロジェクト⑥(全体報告会/報告書作成)	報告会で発表する内容まとめ
14		演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を行う。	運営マニュアル作成・各セッション決め
15		演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を行う。	運営マニュアル読み合わせ
準備学習 時間外学習		各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。		
【使用教科書・教材・参考書】				
DVD: MY GENERATION マイ・ジェネレーション(監督: パーバラ・コップ)				

科目名	チーム制作プロジェクトF (チーム制作プロジェクト11)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	高田 雄貴
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 6		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習 内容	[1] ライブイベントの企画制作についての基礎知識を下級生に説明しながら、理解度をあげる学習をする [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント(コンサート/ライブ他)企画の実施時におけるお客様対応や、様々な事象の対応力を習得する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者としての必要な業務を体験し、将来に備えた学習をする						
到達目標	[1] ライブイベントの企画制作を依頼された際に、自主的に準備・対応できる速度感を習得する [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント(コンサート/ライブ他)企画の実施時におけるお客様対応や、様々な事象の対応力を習得する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者として即時にインターンまたは社員として必要なレベルの実務力を養成する						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験 (評価割合 40%) [2] 受講態度 ※課題提出 (評価割合 60%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	活動方針設定会議	会議資料準備
2		演習	ライブイベント実施に向けて (打合せ)	打合せ準備資料の作成
3		演習	ライブイベントの告知と準備	イベント実施打合せ・プロモーション
4		演習	ライブイベント実施 ※アーティストは年度によって異なる	イベント後の終了報告書記入
5		演習	ライブイベント実施 ※アーティストは年度によって異なる	イベント後の終了報告書記入
6		演習	ライブイベント実施に向けて (打合せ)	ライブ映像の編集処理
7		演習	ライブイベントの告知と準備	運営マニュアルの作成
8		演習	ライブイベント実施 ※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
9		演習	ライブイベントの告知と準備	イベント実施打合せ・プロモーション
10		演習	ライブイベント実施 ※アーティストは年度によって異なる	イベント後の終了報告書記入
11		演習	ライブイベント実施 ※アーティストは年度によって異なる	イベント後の終了報告書記入
12		演習	ライブイベントの内容企画	企画書の作成・イベント企画打合せ
13		演習	ライブイベントの告知と準備	運営マニュアルの作成
14		演習	ライブイベント実施 ※アーティストは年度によって異なる	イベント後の終了報告書記入
15		演習	年間活動内容総括会議	ライブ映像の編集処理
準備学習 時間外学習		授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。		
【使用教科書・教材・参考書】				
昨年度実績の概要書・終了報告書参照				

科目名	チーム制作プロジェクトF (チーム制作プロジェクト12)	必修 選択	選択	年次	2・3	担当教員	岡 秀樹
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 6		
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一						
教員の略歴	ライブハウス店長・ブッキングマネージャー、アーティストマネージャー						
授業の学習 内容	企業とプロジェクトを組み、イベント企画・制作・運営・プロモーションを、アクティブラーニングによる主体的な学びをゼミ方式で実践する。						
到達目標	企画書、実施要項、運営マニュアル、プロモーションプラン何度も練り直し、協賛企業や後援企業獲得を目指す。						
評価方法と基準	授業内での積極的な発言や態度。イベント本番日の行動力。メール等のレスポンスの速さ、丁寧さ。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	特別講義(音楽業界人によるトークセッション)	ゲスト講師への質問事項をを考えて提出する。
2		演習	企業プロジェクト①(プロジェクト内容の説明・企業を紹介・担当者自己紹介)	企業研究(歴史、理念、業務内容)資料を提出する。
3		演習	企業プロジェクト②(企業理念理解/テイスカッション/スケジュール作成)	前年度のプロジェクト内容を把握し資料として提出する。
4		演習	企業プロジェクト③(プロジェクト企画書/プロモーションプランの作成)	企画書作成に必要な情報集め(アーティスト情報、アー写など)、SNS配信予定表を提出する。
5		演習	企業プロジェクト④(プロモーションの実践/運営マニュアルの作成)	運営マニュアルに必要な情報を提出する。 (図面、セット図、セトリリストなど)
6		演習	企業プロジェクト⑤(イベント当日の運営)	運営マニュアル読み込み 各メンバーで打ち合わせ
7		演習	企業プロジェクト⑥(全体報告会/報告書の作成)	報告会で発表する内容まとめ提出。企業への御礼文送信。
8		演習	卒業企画①(班分け/アイデアフラッシュ)	A4 1枚に提案したいイベント内容をまとめて提出。
9		演習	卒業企画②(コンセプト決め/企画書作成)	A4 で出演者向けに企画書を作成し提出。
10		演習	卒業企画③(ブッキング/実施要綱/プロモーションプラン作成)	ブッキング用メール文の作成。プロモーション先リストを作成する。
11		演習	卒業企画④(プロモーションツール/運営マニュアル作成)	印刷業者・グッズ製作会社調べ、運営マニュアルに必要な情報を集める(図面、セット図、セトリ)
12		演習	卒業企画⑤(顔合わせ兼打ち合わせ)	各セクション問題無く進められるように懸念点や疑問点を洗い出しておく。
13		演習	卒業企画⑥(運営シミュレーション)	備品が揃っているか確認し、足りないものは購入する。
14		演習	卒業企画⑦(イベント当日の運営)	運営マニュアル読み込み 各メンバーで打ち合わせ
15		演習	卒業企画⑧(全体報告会/報告書の作成)	報告会で発表する内容まとめ、御礼文送信
各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。				
【使用教科書・教材・参考書】				
都度必要に応じて自作プリント配布				

科目名	新人発掘&プロデュース3	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	石田浩太
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	日本コロムビア株式会社						
授業の学習 内容	実際の今の音楽業界で生きるスキル(コミュニケーション・ブランディング・発想・プレゼン)を、 INPUT/OUTPUTの両方を通して磨いていく。						
到達目標	前期:有望な新人を発掘し社内プレゼンできるようにする。 期:発掘した才能を開発し、商品として育成し、デビューまでの道筋をつける。						後
評価方法と基準	出席率30% 小テスト・プレゼン30% 前期末テスト30% 積極性10%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	自己紹介(イントロ) 個人プレゼン	印象に残る自己紹介を準備してきてください
2	講義	仕事ってなんだろう (Aメロ)	仕事とは何か考えてきてください
3	講義	音楽業界ってなんだろう (Aメロ)	音楽業界の研究をしてきてください
4	講義	マネージャー/A&Rってなんだろう (Aメロ)	音楽の仕事の役割を研究してきてください
5	講義	新人発掘ってなんだろう (Aメロ) 小テスト	新人発掘の必要性を考えてきてください
6	講義	ヒット分析 (Bメロ)	ヒットを研究したいアーティストを選んでおいてください
7	講義	ヒット分析 (Bメロ) グループワークにてプレゼン	伝わりやすいプレゼン方法を考えてきてください
8	講義	実際のスカウトに必要な要素は? (サビ)	スカウトに必要な要素を考えてきてください
9	講義	スカウト実践 (サビ)	自分なりのスカウト方法を考えてきてください
10	講義	スカウト実践 (サビ)	自分なりのスカウト方法を考えてきてください
11	講義	スカウト実践 (サビ) グループワークにてプレゼン	伝わりやすいプレゼンの準備をしてください
12	講義	まとめ (アウトロ)	今までの総復習をしてきてください
13	講義	スカウト実践 (サビ)	今までの総復習をしてきてください
14	講義	テストに向けて	今までの総復習をしてきてください
15	講義	まとめ (アウトロ) 前期末テスト	今までの総復習をしてきてください
準備学習 時間外学習			
【使用教科書・教材・参考書】			
PC or タブレット(ネット検索用)・ノート・筆記用具			

科目名	新人発掘&プロデュース4	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	石田浩太
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	日本コロムビア株式会社						
授業の学習 内容	実際の今の音楽業界で生きるスキル(コミュニケーション・ブランディング・発想・プレゼン)を、 INPUT/OUTPUTの両方を通して磨いていく。						
到達目標	前期:有望な新人を発掘し社内プレゼンできるようにする。 期:発掘した才能を開発し、商品として育成し、デビューまでの道筋をつける。						後
評価方法と基準	出席率30% 小テスト・プレゼン30% 後期末テスト30% 積極性10%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	自己紹介 (イントロ) 個人プレゼン	印象に残る自己紹介を準備してきてください
2	講義	新人開発・育成ってなんだろう (Aメロ)	新人開発・育成とは何か調べてきてください
3	講義	ヒット分析 (育成観点から) (Aメロ)	分析したいアーティストを探してきてください
4	講義	ヒット分析 (育成観点から) (Aメロ)	分析したいアーティストを探してきてください
5	講義	育成プラン作成 (Bメロ)	自分なりの育成パターンを作成してください
6	講義	育成プラン作成 (Bメロ) グループワークにてプレゼン	効果的なプレゼンを考えてきてください
7	講義	契約について(Bメロ)	新人はどういった契約になるのか調べてきてください
8	講義	契約について (Bメロ) 小テスト	後期ここまでの復習をお願いします
9	講義	育成実践 (サビ)	アーティストとの接し方をイメージしてきてください
10	講義	育成実践 (サビ) 演習プロセス評価	今までの演習イメージを復習してきてください
11	講義	まとめ (アウトロ)	今までの総復習をしてきてください
12	講義	育成実践振り返り	今までの総復習をしてきてください
13	講義	新人発掘、そして育成とは?(振り返り)	自分なりの意見をまとめてください
14	講義	総復習	今までの総復習をしてきてください
15	講義	まとめ (アウトロ) 後期末テスト	今までの総復習をしてきてください
準備学習 時間外学習			
【使用教科書・教材・参考書】			
PC or タブレット(ネット検索用)・ノート・筆記用具			

科目名	舞台知識Advance1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	江見 千尋
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	イベンターとして仕事をスタートし、その後 舞台監督、舞台照明などの業務に携わる						
授業の学習 内容	一年次に履修した「舞台知識」の講義をもとに、講義→演習のかたちで実際の現場で使用できる図面や資料の作成方法を学ぶ。 学内イベントミュージカル「明日への扉」を素材に実際にイベントで使用した上でより良いものにする。						
到達目標	舞台を作っていく具体的な流れ、段取りを把握し実際に現場で活用できる図面や資料を作成出来るようになる。						
評価方法と基準	課題の出来による評価を行う。30% 期日までに課題が提出されているか・必要な資料が揃っているか・課題のテーマに則しているか・よく考えられたプランになっているかを評価 70%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	会場図面の作成方法を習得する	「明日への扉」で使用する会場の情報を収集しておく
2	講義	「明日への扉」に使用する会場図面の作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
3	講義	進行プランの作成方法を習得する	「明日への扉」で使用する進行の情報を収集しておく
4	講義	「明日への扉」に使用する進行プランの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
5	講義	演出プランの作成方法を習得する	「明日への扉」で登場する演出の情報を収集しておく
6	講義	「明日への扉」に使用する演出プランの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
7	講義	セット図の作成方法を習得する	「明日への扉」で登場するセットの情報を収集しておく
8	講義	「明日への扉」に使用するセット図の作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
9	講義	タイムテーブルの作成方法を習得する	「明日への扉」小屋入り～本番までの各セクションのスケジュールを収集し
10	講義	「明日への扉」に使用するタイムテーブルの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
11	講義	同セクション担当が打ち合わせを行い、各資料問題が無い確認する	問題や変更があった部分を修正し提出する。
12	講義	授業内課題提出による試験を行う	試験にて出来なかった部分を復習する。
13	講義	「明日への扉」を題材に舞台機構を学ぶ①	本日の授業を基に出された課題を提出する。
14	講義	「明日への扉」を題材に舞台機構を学ぶ①	本日の授業を基に出された課題を提出する。
15	講義	各資料・図面が実際の現場で上手く活用できていたか検証する。	検証の際の改善点を訂正し提出。
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】			
「ステージ・PA・照明用語辞典」 リットーミュージック			

科目名	舞台知識Adance2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	江見 千尋
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	イベントーとして仕事をスタートし、その後 舞台監督、舞台照明などの業務に携わる						
授業の学習 内容	一年次に履修した「舞台知識」の講義をもとに、講義→演習のかたちで実際の現場で使用できる図面や資料の作成方法を学ぶ。学内イベントミュージカル「明日への扉」を素材に実際にイベントで使用した上でより良いものにする。						
到達目標	舞台を作っていく具体的な流れ、段取りを把握し実際に現場で活用できる図面や資料を作成出来るようになる。						
評価方法と基準	課題の出来による評価を行う。 30% 期日までに課題が提出されているか・必要な資料が揃っているか・課題のテーマに則しているか・よく考えられたプランになっているかを評価 70%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	会場図面の作成方法を習得する	卒業制作展で使用する会場の情報を収集しておく
2	講義	卒業制作展に使用する会場図面の作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
3	講義	進行プランの作成方法を習得する	卒業制作展で使用する進行の情報を収集しておく
4	講義	卒業制作展に使用する進行プランの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
5	講義	演出プランの作成方法を習得する	卒業制作展で登場する演出の情報を収集しておく
6	講義	卒業制作展に使用する演出プランの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
7	講義	セット図の作成方法を習得する	卒業制作展で登場するセットの情報を収集しておく
8	講義	卒業制作展に使用するセット図の作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
9	講義	タイムテーブルの作成方法を習得する	卒業制作展小屋入り～本番までの各セクションのスケジュールを収
10	講義	卒業制作展に使用するタイムテーブルの作成を行う	授業に引き続き作成を行い、提出する
11	講義	同セクション担当が打ち合わせを行い、各資料問題が無い	問題や変更があった部分を修正し提出する
12	講義	授業内課題提出による試験を行う	試験にて出来なかった部分を復習する
13	講義	卒業制作展の舞台機構を学ぶ①	本日の授業を基に出された課題を提出する。
14	講義	卒業制作展の舞台機構を学ぶ②	本日の授業を基に出された課題を提出する。
15	講義	各資料・図面が実際の現場で上手く活用できていたか検証	検証の際の改善点を訂正し提出
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】 「ステージ・PA・照明用語辞典」 リットーミュージック			

科目名	文章基礎5	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	天井 潤之介
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	株式会社ロッキング・オン勤務、退社後、編集者／音楽評論家／音楽レーベル監修						
授業の学習 内容	「書く」という技術の習得。そのためのルールと基本構造を学んでもらいます。自分が考えている・思っていることを言葉／文字に変換する。そしてその言葉／文字を使いこなして、自分の考えや意図する思いを相手に正確に「伝える」ためにはどうすればよいのか。文章力の養成を通じて、思考力やコミュニケーション能力も養成することができればベストだと考えています。授業の進め方ですが、一コマめにその日の課題となる授業内容をレクチャーし、二コマめにその授業内容に沿ったライティングを実践してもらいます。						
到達目標	「書く」という技術は、企画立案や会議でのプレゼンテーションなど、自分の考えや意図を相手に正しく伝えるという様々なビジネスの場面で基礎となるものです。授業では主に音楽に関するテーマの文章作成を課すことが多くなるとは思いますが、そうした作業を通じて、説得力と具体性を持った論理の筋道を立てることが出来るようになり、個人的な感想や感動を「情報整理／分析」へと昇華できるような技術と能力を養うことが出来るようになる。						
評価方法と基準	文章能力課題レポート提出 50% 課題の提出が前提、原稿の出来栄を評価。 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	年間の授業方針と文章力の必要性について学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
2		講義	句読点を正しく使い、文意の伝わる文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
3		講義	改行を使いこなし、内容や趣旨を意識した文章作成が出来るようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
4		講義	例文の校正・添削を通じて、「主語・述語」の使い方を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
5		講義	例文の校正・添削を通じて、「修飾語」の使い方を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
6		講義	助詞を正しく使いこなし、誤読や誤解を生まない文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
7		講義	書き言葉と話し言葉の違いを学び効果的な使い方での文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
8		講義	起承転結を意識した文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
9		講義	両論併記を意識した文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
10		講義	文章にリズムをつけて読み手が飽きない文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
11		講義	漢字とひらがなのバランスを考え読みやすい文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
12		講義	同義語を意識し語彙力を上げ表現力豊かな文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
13		講義	段落を活用し各コンテンツに適した文字数でまとめることを学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
14		講義	「明日への扉」告知の際に配布する新聞記事の文章を作成(文章構成～たたきまで)	授業に続き文章を作成し提出
15		講義	「明日への扉」告知の際に配布する新聞記事の文章を作成(文章作成～校正・添削し完成まで)	授業に続き文章を作成し提出
準備学習 時間外学習			授業内で出される課題の作成。文章に慣れた習慣作り。	
【使用教科書・教材・参考書】				
自作プリント配布				

科目名	文章基礎6	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	天井 潤之介
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	株式会社ロッキング・オン勤務、退社後、編集者／音楽評論家／音楽レーベル監修						
授業の学習 内容	前期の授業を踏まえ、より実践的な「書く」という技術の習得。具体的には「WEBコンテンツ制作」の授業と連動する形で、ビジネスメール作成や作品のレビュー、またインタビュー記事の作成などを通じて文章力の向上を目指します。						
到達目標	前期「文章基礎」で学んだ「書く」という技術のルールと基本構造をもとに、ビジネスの場面でも役立つ文章力を身に付けることが目標になります。「WEBコンテンツ制作」の授業とも連動した実践的な文章作成を行いつつ、構成や起承転結を意識した長めの文章も視野に入れた文章力の向上を目指します。						
評価方法と基準	文章能力課題レポート提出 50% 課題の提出が前提、原稿の出来栄を評価。 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	例文や自分で書いた文章の要約・添削を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
2		講義	新聞記事の資料を要約し添削が出来るようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
3		講義	新聞記事の読解を行い、筆者の意図を読み取れるようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
4		講義	レコード会社の資料を要約し添削が出来るようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
5		講義	レコード会社の資料読解を行い、筆者の意図を読み取れるようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
6		講義	映画のあらすじを要約し添削が出来るようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
7		講義	映画のあらすじ読解を行い、筆者の意図を読み取れるようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
8		講義	これまで学んだ技術をもとに音楽作品のレビュー原稿(紙面媒体)を作成する	授業に続きレビュー原稿を完成させて提出
9		講義	これまで学んだ技術をもとに音楽作品のレビュー原稿(WEB媒体)を作成する	授業に続きレビュー原稿を完成させて提出
10		講義	これまで学んだ技術をもとにインタビュー音源を文字おこしし、原稿(紙面媒体)を作成する	授業に続きインタビュー原稿を完成させて提出
11		講義	これまで学んだ技術をもとにインタビュー音源を文字おこしし、原稿(WEB媒体)を作成する	授業に続きインタビュー原稿を完成させて提出
12		講義	進級制作展出演アーティストのインタビュー音源を文字おこしし、原稿(紙面媒体)を作成する	授業に続きインタビュー原稿を完成させて提出
13		講義	進級制作展出演アーティストのインタビュー音源を文字おこしし、原稿(WEB媒体)を作成する	授業に続きインタビュー原稿を完成させて提出
14		講義	進級制作展観覧、レビューを書くための素材を集める	実際に会場に足を運びボイスレコーダーとメモで資料をつく
15		講義	進級制作展レビュー制作	授業に続きレビュー原稿を完成させて提出
準備学習 時間外学習			授業内で出される課題の作成。文章に慣れた習慣作り	
【使用教科書・教材・参考書】				
自作プリント配布				

科目名	コンサートマネージメント&ビジネスワーク3	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	高田 雄貴
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習 内容	[1] 音楽ビジネスにおける必須能力である、企画(プランニング)についての知識を用いて、プランニングの学習を行う [2] 音楽ビジネスの企画(プランニング)学習を通じてマーケットリサーチの学習を行う [3] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画(プランニング)について学ぶ中から企画実務の基本を学習する						
到達目標	[1] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスのコアを知る事で、業界人として必要なビジネスモデルを構築出来るようになる [2] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスの仕組みを知る事で、業界人として必要な提案力を構築出来るようになる [3] 音楽業界への就職後に必要な音楽ビジネスの実務を知る事で、業界人として必要な心構えを自信に変えられるようになる						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験 (評価割合 40%) [2] 受講態度 ※課題提出 (評価割合 60%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	時間の流れを企画する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
2		講義	企画の基本を確認する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
3		講義	企画の準備作業について理解する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
4		講義	地域催事の企画立案を行う	地域で行われている年間催事を調査しレポートにて提出
5		講義	地域催事の企画立案を発表する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
6		講義	野外フェスティバルの企画立案を行う	今年度開催される野外音楽フェスティバルを調査しレポートにて提出
7		講義	野外フェスティバルの企画立案を発表する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
8		講義	ビジネスモデルと企画を理解する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
9		講義	出演者をキャスティングするにはを理解する	音楽事業者協会と音楽制作者連盟について調査しレポートにて提出
10		講義	会場のタイプと仕組みを理解する	公益社団法人 全国公立文化施設協会について調査しレポートにて提出
11		講義	季節型催事の企画立案を行う	レジャー白書を調査しレポートにて提出
12		講義	季節型催事の企画立案を発表する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
13		講義	企画と調査を理解する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
14		講義	イベント実践(明日への扉)を通してプランニングカを学ぶ	イベントスタッフとして実践的に活動する
15		講義	イベント実践(明日への扉)を通してプランニングカを学ぶ	イベントスタッフとして実践的に活動する
準備学習 時間外学習		授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。		
【使用教科書・教材・参考書】				
昨年度実績の概要書・終了報告書参照				

科目名	コンサートマネジメント&ビジネスワーク4	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	高田 雄貴
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習 内容	[1] 音楽ビジネスにおける必須能力である、企画(プランニング)についての知識を用いて、プランニングの学習を行う [2] 音楽ビジネスの企画(プランニング)学習を通じてマーケットリサーチの学習を行う [3] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画(プランニング)について学ぶ中から企画実務の基本を学習する						
到達目標	[1] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスのコアを知る事で、業界人として必要なビジネスモデルを構築出来るようになる [2] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスの仕組みを知る事で、業界人として必要な提案力を構築出来るようになる [3] 音楽業界への就職後に必要な音楽ビジネスの実務を知る事で、業界人として必要な心構えを自信に変えられるようになる						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験 (評価割合 40%) [2] 受講態度 ※課題提出 (評価割合 60%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	ヒットの仕組みを知る	昨年飛び出したヒットを研究しレポートとして提出
2		講義	フェスティバル受けする出演者を知る	本日の授業をもってレポートを800字以内で提出
3		講義	同世代の企画を検証する	大学リストを作成し提出する
4		講義	全国の大学で開催されているイベント(学園祭)を調査する	本日の授業をもってレポートを800字以内で提出
5		講義	企画を通すには、プレゼンテーション技術を学ぶ	本日の授業をもってレポートを800字以内で提出
6		講義	採用された企画を制作する(会議技法)	本日の授業をもってレポートを800字以内で提出
7		講義	採用された企画を制作する(ガントチャートによる作業進行管理技法)	本日の授業をもってレポートを800字以内で提出
8		講義	予算の管理を考える	本日の授業をもってレポートを800字以内で提出
9		講義	プロモーションについて検証する(広告と広報)	本日の授業をもってレポートを800字以内で提出
10		講義	企画における印刷媒体を学ぶ	本日の授業をもってレポートを800字以内で提出
11		講義	企画は流行を読むことから始まる	本日の授業をもってレポートを800字以内で提出
12		講義	スポーツイベントのビジネスモデルを知る	東京オリンピックを調査しレポートとして提出
13		講義	企画立案しプレゼンする	本日の授業をもってレポートを800字以内で提出
14		講義	イベント実践(明日への扉)を通してプランニング力を学ぶ	イベントスタッフとして実践的に活動する
15		講義	イベント実践(明日への扉)を通してプランニング力を学ぶ	イベントスタッフとして実践的に活動する
準備学習 時間外学習		授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。		
【使用教科書・教材・参考書】				
昨年度実績の概要書・終了報告書参照・自作PPT				

科目名	Webデザイン3	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	福永篤太郎
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	フリーのグラフィック、WEBデザイナー。講師歴23年。						
授業の学習 内容	WEBページを作るための講義と、企画・演習、およびWIXによるWEBデザインの制作。 オンラインで作る履歴書やインフォグラフィックの制作方法を学ぶ。						
到達目標	WEBサイトの構造を習得し、WEBデザインやWEB上でのデザインが出来るようになる。						
評価方法と基準	制作課題(Webサイト)の出来により評価する						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	本授業を受講する上での基礎的なWEB用語を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
2	講義	html・CSSの解説を行い、インターネットの基礎知識を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
3	講義	フラッシュとhtml5の解説を行い、インターネットの基礎知識を理解する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
4	講義	adobeソフトの種類と活用方法を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
5	講義	adobeDreamweaverの使用用途と活用方法を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
6	講義	これまでの講義内容を基に筆記試験を行う。	試験結果を復習し、間違った箇所を直して提出
7	講義	インフォグラフィックの利点と制作方法と習得し、実践できる。	自身のHP作成にあたりお手本のサイトを検証
8	講義	ホームページの作り方の行程を習得する。	本日の授業を基に自作HPの資料を集めておく
9	講義	WIXで自作ホームページの制作にあたり、企画書・構成・ページ数を作る。	本日の授業に引き続き作成し提出
10	講義	自作ホームページの作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
11	講義	前回到続き同じ内容・ページで違うデザイン・アプローチの制作を行う。	本日の授業に引き続き作成し提出
12	講義	オンライン履歴書の用途と自己PRシートを実用例をもとに作成方法を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
13	講義	オンライン履歴書の用途と自己PRシートを実用例をもとに作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
14	講義	「明日への扉」プロモーションサイト制作にあたる企画書・構成・ページ数を作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
15	講義	「明日への扉」プロモーションサイトを制作する。	本日の授業に引き続き作成し提出
準備学習 時間外学習		各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】			
自作プリント配布(次回までの宿題用)・WIX(https://ja.wix.com/)			

科目名	Webデザイン4	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	福永篤 太郎
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	フリーのグラフィック、WEBデザイナー。講師歴23年。						
授業の学習 内容	WEBページを作るための講義と、企画・演習、およびWIXによるWEBデザインの制作。 オンラインで作る履歴書やインフォグラフィックの制作方法を学ぶ。						
到達目標	WEBサイトの構造を習得し、WEBデザインやWEB上でのデザインが出来るようになる。						
評価方法と基準	制作課題の出来により評価する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	本授業を受講する上での基礎的なWEB用語を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
2		講義	html・CSSの解説を行い、インターネットの基礎知識を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
3		講義	フラッシュとhtml5の解説を行い、インターネットの基礎知識を理解する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
4		講義	adobeソフトの種類と活用方法を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
5		講義	adobeDreamweaverの使用用途と活用方法を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
6		講義	これまでの講義内容を基に筆記試験を行う。	試験結果を復習し、間違った箇所を直して提出
7		講義	インフォグラフィックの利点と制作方法と習得し、実践できる。	自身のHP作成にあたりお手本のサイトを検証
8		講義	ホームページの作り方の行程を習得する。	本日の授業を基に自作HPの資料を集めておく
9		講義	WIXで自作ホームページの制作にあたり、企画書・構成・ページ数を作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
10		講義	自作ホームページの作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
11		講義	前回に続き同じ内容・ページで違うデザイン・アプローチの制作を行う。	本日の授業に引き続き作成し提出
12		講義	オンライン履歴書の用途と自己PRシートを実用例をもとに作成方法を習得する。	配布した課題プリントを記入し次回提出
13		講義	オンライン履歴書の用途と自己PRシートを実用例をもとに作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
14		講義	「明日への扉」プロモーションサイト制作にあたる企画書・構成・ページ数を作成する。	本日の授業に引き続き作成し提出
15		講義	「明日への扉」プロモーションサイトを制作する。	本日の授業に引き続き作成し提出
準備学習 時間外学習		各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。		
【使用教科書・教材・参考書】 自作プリント配布(次回までの宿題用)・WIX(https://ja.wix.com/)				

科目名	Webコンテンツ制作5	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	天井 潤 之介
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	株式会社ロッキング・オン勤務、退社後、編集者／音楽評論家／音楽レーベル監修						
授業の学習 内容	「M-Bug WEB」に掲載されるコンテンツ制作を行うべく、アーティストのインタビュー記事やブログ記事の制作が出来るようになります。実践の場での作業や経験が出来るよう、WEBコンテンツを理解し文章力の向上が目的になります。						
到達目標	実践的な文章力を身に付けWEBコンテンツを知ることが目標になります。						
評価方法と基準	授業内での記事作成の出来栄の評価になります。ただし、コンテンツ制作はアーティストや企業様も含めた“共同作業”になりますので、報告や連絡といった最低限のコミュニケーションを疎かにしないマナーや姿勢も評価の基準に含まれます。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	年間の授業方針、「M-Bug WEB」の更新までの流れを学ぶ	参考にしたいネットニュースのURLを提
2		講義	記事として成り立つための文章構成を学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
3		講義	アーティスト・企業の意向に沿った記事の書き方を学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
4		講義	検索エンジンの引っかけ方、SEO対策を学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
5		講義	画像の使用権利とコンプライアンスを学ぶ	本日の授業受講の元、記事を作成し提出
6		講義	現代のネットニュース内、コンテンツの種類と特徴を学ぶ	本日の授業受講の元、自分が挑戦したいコンテンツを企画書にして提出
7		講義	ネットニュースの記事の書き方や構成を学ぶ	次回記事にしたいアーティストを選出し情報を調べて提出
8		講義	ネットニュースの記事を書く	授業に引き続き、記事を作成し提出
9		講義	ライブレポートの記事の書き方や構成を学ぶ	次回記事にしたいライブを選出し情報を調べて提出
10		講義	ライブレポートの記事を書く	授業に引き続き、記事を作成し提出
11		講義	インタビュー記事の書き方書き方や構成を学ぶ	次回記事にするアーティストの情報を調べて提出
12		講義	インタビュー記事を書く	授業に引き続き、記事を作成し提出
13		講義	「明日への扉」劇中バンドインタビュー記事を作成、インタビューを行う	アーティストへのアポイントを取る、アーティスト写真があれば提出してもらう
14		講義	「明日への扉」劇中バンドインタビュー記事を作成、記事を作成・画像を編集	授業に引き続き、記事を作成し提出
15		講義	「明日への扉」劇中バンドインタビュー記事を作成、アップロードを行う	アップロード後バグが出ていないか
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	
【使用教科書・教材・参考書】				
「M-Bug WEB」 http://m.shibuya.ac.jp/				

科目名	Webコンテンツ制作6	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	高木 亜美
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴	エディトリアルデザイナー						
授業の学習 内容	Wordpressを使用したWEBコンテンツ制作をするなかで、WEB用画像の作成方法から記事のアップロードまでを学ぶ。						
到達目標	WEB用の画像作成(解像度、カラーモード、保存形式)ができる＝紙媒体と区別して作成できる・Wordpressを使用した記事の制作、アップロードができる・Illustratorから書き出したファイルをPhotoshopで加工できる						
評価方法と基準	課題提出率・目標に到達されているとみなされる課題の出来具合						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	実践を用いてPhotoshopの画像解像度とカラーモードを習得する	本日の授業を基に課題を作成し提出。
2		講義	実践を用いてPhotoshopの文字ツールとレイヤーを習得する	本日の授業を基に課題通りの文字を作成し、提出。
3		講義	実践を用いてPhotoshopの保存形式を習得する	本日の授業を基に課題を作成し提出。
4		講義	実践を用いてWordpressの画像アップロード方法を習得する	本日の授業を基に仮サイトにてアップロードしておく。
5		講義	Wordpress 記事の編集、画像の挿入を習得する	授業に引き続き記事を作成、アップロードが出来る状態にしておく
6		講義	Wordpressによる 記事のアップロード方法を習得する	本日の授業を基に仮サイトにてアップロードしておく。
7		講義	Illustratorを用い保存形式・書き出し・PDFの設定方法を習得する	本日の授業を基に課題を作成し提出。
8		講義	WEB上にアップするヘッダー画像の作成を習得する(画質・トリミング)	WEB上にアップする画像を選出しておく。
9		講義	WEB上にアップするヘッダー画像の作成を習得する(アップ方法や画像)	WEB上にアップする画像を作成する。
10		講義	WEB上にアップする記事を制作する。	授業に引き続き記事を作成、アップロードが出来る状態にしておく
11		講義	WEB上にアップする記事を制作し実際にアップする。	本アップ後、バグが起きていないか、修正点が無いか確認しておく
12		講義	実際にアップした記事の修正方法・画像の再アップの方法を習得する	WEB上で修正が有る場合修正しておくこと。
13		講義	「明日への扉」出演者インタビュー上の画像を作成する。	授業に引き続き画像の作成と、必要があれば撮影しに行く。
14		講義	「明日への扉」出演者インタビュー上の記事を作成する。	授業に引き続き記事を作成、アップロードが出来る状態にしておく
15		講義	「明日への扉」出演者インタビューの記事をWEB上にアップする。	本アップ後、バグが起きていないか、修正点が無いか確認しておく
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。		
【使用教科書・教材・参考書】				
Illustratorマニュアル、Photoshopマニュアル、Wordpressマニュアル				

科目名	Webコンテンツ制作7	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	天井 潤 之介
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4		
教員の略歴 株式会社ロッキング・オン勤務、退社後、編集者／音楽評論家／音楽レーベル監修							
授業の学習 内容	「M-Bug WEB」に掲載されるコンテンツ制作が授業になります。アーティストのインタビュー記事やブログ記事の制作。また、その際のアーティストの所属事務所やレコード会社の担当者様との連絡作業や打ち合わせなども授業の一環に含まれます。それらの実践の場での作業や経験を通じて、文章力の向上はもちろん、思考力やコミュニケーション能力も養成することが目的になります。						
到達目標	実践的な文章力を身に付けることが目標になります。併せて、アーティストや企業様との共同作業を通じてビジネスマナーを身に付けることも授業の狙いになります。そして音楽業界はもちろん、広くエンターテインメント業界で活躍できる人材となる基礎力を養ってもらいたいと考えています。						
評価方法と基準	「M-Bug WEB」のコンテンツ制作を踏まえての評価になります。ただし、コンテンツ制作はアーティストや企業様も含めた“共同作業”になりますので、報告や連絡といった最低限のコミュニケーションを疎かにしないマナーや姿勢も評価の基準に含まれます。なお、筆記試験はありません。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 ニュース記事の考案、使用画像の選出	授業に引き続き構成を作成し提出
2		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 文章の作成、アップロード	授業に引き続き記事作成・アップロード
3		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 音楽評論記事の考案、文章の作成、使用画像の	授業に引き続き構成を作成し提出
4		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 文章の作成、アップロード	授業に引き続き記事作成・アップロード
5		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 アーティストブックイング、概要書の作成、企業へ	授業に引き続き概要書を作成し提出
6		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 インタビューの質問選定、使用画像編集	授業に引き続き質問項目を作成し提出
7		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 アーティストへインタビュー	インタビュー文字おこしし提出
8		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 インタビュー記事の作成、アップロード	授業に引き続き記事を作成しアップロード する
9		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 アップロード終了ご報告、コンテンツ閲覧数から	検討報告書を記入し提出
10		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 進級制作展アーティストへの連絡・概要書作成	授業に引き続き概要書を作成し提出
11		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 インタビューの質問選定、使用画像編集	授業に引き続き質問項目を作成し提出
12		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 アーティストへインタビュー	インタビュー文字おこしし提出
13		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 インタビュー記事の作成、アップロード	授業に引き続き記事を作成しアップロード する
14		講義	「M-Bug WEB」コンテンツ制作 アップロード終了ご報告、コンテンツ閲覧数から	検討報告書を記入し提出
15		講義	進級制作展にて「M-Bug WEB」のプロモーション	プロモーションに配布する資料を作成し提出
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	
【使用教科書・教材・参考書】				
「M-Bug WEB」 http://m.shibuya.ac.jp/				

科目名	Webコンテンツ制作8	必修 選択	年次	2	担当教員: 高木 亜美
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	総時間 (単位)	60 4	
教員の略歴	エディトリアルデザイナー				
授業の学習 内容	Wordpressを使用したWEBコンテンツ制作をするなかで、WEB用画像の作成方法から、記事のアップロードまでを学ぶ。				
到達目標	・IllustratorとPhotoshopの基本操作ができる ・IllustratorとPhotoshopで画像のトリミングができる。 ・Photoshopで画像のリサイズができる ・WEBとTwitterのヘッダー、プロフィールアイコンを作成し同時に運用する方法を学ぶ。				
評価方法と基準	課題提出率・目標に到達されているとみなされる課題の出来具合				

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	Illustratorのトリミング方法・キリヌキ方法を習得する。	本日の授業を基に課題を作成し提出。
2		講義	Photoshopのトリミング方法・キリヌキ方法を習得する。	本日の授業を基に課題を作成し提出。
3		講義	Photoshopのリサイズ方法を習得する。	本日の授業を基に課題を作成し提出。
4		講義	Illustratorの文字ツールの使用方法を覚え、レイヤーを習得する。	本日の授業を基に課題を作成し提出。
5		講義	Illustratorにてロゴを作成する。	本日の授業を基に課題を作成し提出。
6		講義	Photoshopにてロゴを作成する。	本日の授業を基に課題を作成し提出。
7		講義	Twitterのプロフィール・アイコンを作成し、WEBサイトとの同時運用方法を習得する	Twitter内関係各所をフォローし、拡散出来るようにしておく。
8		講義	WEBにアップするアーティストの記事を作成する。	アーティスト事務所へのアポイント・インタビュー・インタビュー資料を貰う。
9		講義	WEBにアップするアーティストの画像を作成する。	インタビュー時に撮影しておく・資料を貰う
10		講義	WEB上にアップし、修正点・バグ等確認する。	アップのご報告を関係各所に伝える
11		講義	Twitterで連動させ、WEBのアップ情報やリツイートし、拡散させる。	関係各所へ連絡する
12		講義	WEBにアップする卒業制作展・進級制作展出演アーティストの記事を作成する	アーティストへのアポイント・インタビュー・インタビュー資料を貰う。
13		講義	WEBにアップする卒業制作展・進級制作展出演アーティストの画像を作成する	インタビュー時に撮影しておく
14		講義	WEB上にアップし、修正点・バグ等確認する。	アップのご報告を関係各所に伝える
15		講義	Twitterで連動させ、WEBのアップ情報やリツイートし、拡散させる。	関係各所へ連絡する
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。		
【使用教科書・教材・参考書】				
Illustratorマニュアル、Photoshopマニュアル、Wordpressマニュアル				

科目名	著作権5	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	峰松 毅
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ピクチャーではカラオケのレコーディングディレクターを、バンダイではアニメ特撮系の音楽プロデューサーを務める。現在はライセンスゲートを設立しゲーム系の音楽配信を中心にライセンス事業を展開。						
授業の学習 内容	想像することの大切さを通し、著作権の意義を教えます。著作権を軽視したことにより生じたトラブルの事例を通し、契約社会の現実を学びます。またグループワークを通し、ネット社会で見落とされがちな会話の重要性を体感させます。						
到達目標	最終的には自分は何を誰にどのようにして伝えたいのかを考えさせます。※マネージャー、企画、作詞、作曲などいずれも自分は誰に何を伝えたいのかを考えさせ、社会の一員であることを考えさせます。						
評価方法及び基準	1) 定期テスト(筆記60% 実技40%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	自己紹介と講義概要の説明	第一回目の授業は講師の自己紹介と講義の概要を伝えます。最後に宿題を提示。⇒A4一枚にまとめた物語を配布。5人のキャラクターが登場。好感の持てる順に並べます。その根拠をグループワークで発表。自分の想像力と会話能力を実感させます。
2		講義	グループワーク。「創造」とは何か！を議論します	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。著作権の第一歩は想像することであり、いかに想像力を発揮していないかを体験させます。また人間関係がいかに重要で不可欠であるかを体験させます。次回の課題として原盤権を講義。第三者からの制作依頼を想定。どのような約束(契約)を講義。宿題として買取を求めた場合を想定。
3		講義	原盤権と著作権の概念を事例を通しシミュレーションする体験教室	前回の課題をグループワークで検討。当たり前を見落としていること、契約の大切さを実感させます。現代の傾向として一般化される買い取り契約を講義。宿題として買取を求めた場合を想定。
4		講義	プロデューサー、ディレクター、A&R、マネージャーの基本を学びます	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。著作権及び権利譲渡について講義。そのうえでプロデューサー、A&R、ディレクター等、言葉の大切さを教えます。著作権使用料と徴収の仕組み、音楽出版社とjasracの関係について講義。ある設定を提示し、jasracとの契約を宿題として
5		講義	作家の印税収入の仕組みを学びます。JASRACと音楽出版社について等	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。jasracの必要性及び問題点を講義。海外版権について講義。ある設定を提示。海外の版権を取り扱う場合の注意点を考えさせます。
6		講義	版権とその仕組みを学ぶ 〜ビートルズとサンダーバードの場合〜	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。キャラクタービジネスが注目された60年代をもとに権利を守ることを講義。次回の宿題として俳優のトラブルの事例を講義。どうすれば問題を回避できたか、マネージャーとは何かを考えさせます。
7		講義	もしもあなたがマネージャーだったら！ 職業権を考えます。<女優土屋安娜の裁判事件>	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。他人に物事を正確に伝えることの大切さを再度講義。太古の雨ごい儀式をどのようにとらえるかを考えさせます。(合理的か否か)
8		講義	雨ごいは合理的？著作権は別？論理性を考えます。	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。スポティファイと崩壊する？著作権ビジネスを考える。宿題として音楽業界の仕組みをイメージさせます。
9		講義	音楽出版社の調べ方とスポティファイを考える。自己PRを問う！	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。大きく変わる世界情勢とエンターテインメント業界を検討。今、アーティストに求められるものは何かを宿題として提示。
10		講義	世界情勢の混乱・今、アーティストのメッセージとは何か〜問われる表現者の意識〜	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。jasracの問題点を宿題として提示。
11		講義	JASRAC信託契約の落とし穴、原盤印税とは何か	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。
12		講義	テストと2階企画ルームで個人別面談	面談では講義へのリクエストや不満などを自由に述べてもらいます。
13		講義	前期のまとめ	前期のまとめ。面談結果及び今後の講義の概要を伝えます。
14		講義	「明日への扉」の台本より著作権を考える	「明日への扉」での運営・制作スタッフとして実践する。
15		講義	「明日への扉」の台本より著作権を考える	「明日への扉」での運営・制作スタッフとして実践する。
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。		
【使用教科書・教材・参考書】				
個人作成によるパワーポイントファイルとプロジェクターを使用。				

科目名	著作権6	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	峰松 毅
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ピクチャーではカラオケのレコーディングディレクターを、バンドではアニメ特撮系の音楽プロデューサーを務める。現在はライセンスゲートを設立しゲーム系の音楽配信を中心にライセンス事業を展開。						
授業の学習 内容	想像することの大切さを通し、著作権の意義を教えます。著作権を軽視したことにより生じたトラブルの実例を通し、契約社会の現実を学びます。またグループワークを通し、ネット社会で見落とされがちな会話の重要性を体感させます。						
到達目標	最終的には自分は何を誰にどのようにして伝えたいのかを考えさせます。※自分の職業を通して誰に何を伝えたいのかを考えさせ、社会の一員であることを考えさせます。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記60% 実技40%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	著作権人格権から買い取り契約の落とし穴を考える	前回の総括及び後期の講義概要を説明。著作権人格権について講義。ミュージシャンに著作権は発生するかを課題とし次のグループワークとする。
2		講義	事例をもとにミュージシャンに演奏の権利は発生するののかを考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。著作権使用料の基本を講義し、定額制配信を考えさせます。
3		講義	音楽配信の現状から定額制のち問題を問う	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。表現とは何かを講義。欧米とアジア(韓国と日本の演歌)の違い。課題としてある物語からどのような歌詞とメロディーが合うのかを考えさせます。
4		講義	欧米と日本の表現方法の違いを考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。俳優(アクター)とは何かを講義。芸能の仕事と著作権について考えさせます。
5		講義	問われる芸能人の問題意識を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。イラスト、写真などの権利を講義。マネージャーと契約業務の例を提示。もしも自分がマネージャーだったらどうするかを宿題とします。
6		講義	マネージャーに問われる著作権意識	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。ライブを行う場合、アーティスト(実演家)とイベンターが確認しなければならない著作権とは何かを宿題とします。
7		講義	コンサートと著作権	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。洋楽をカバーする場合、日本語で歌う場合の注意点を宿題として考えさせます。
8		講義	歌謡曲とJ ポップの違いから著作権を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。ウェブ上で注意すべき著作権を考える。ある動画配信を提示し著作権問題を含んでいるか否かを宿題として提示。
9		講義	YOUTUBEと著作権	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。動画配信の活かし方。表現することの難しさを問う。動画企画を宿題とします。
10		講義	表現者とは何か考えそこに発生する著作権を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。ウェブビジネスを宿題として提示。
11		講義	web上の音楽ビジネスから著作権を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。
12		講義	筆記テストと2階企画ルームで個人別面談	テスト及び後期講義の質疑応答。
13		講義	後期のまとめ	質疑応答の結果及びリクエスト講義
14		講義	卒業制作展での使用楽曲の著作権を確認	卒業制作展での運営・制作スタッフとして実践する。
15		講義	卒業制作展DVD配布に伴う著作権を考える	卒業制作展での運営・制作スタッフとして実践する。
準備学習 時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。		
【使用教科書・教材・参考書】				
個人作成によるパワーポイントファイルとプロジェクターを使用。				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	セッションアレンジゼミ 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 村田 隆 行
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴	鳴瀬喜博・IKUO・村田、3人のベーシストによるユニット「THE CHOPPERS REVOLUTION」を結成し、キングレコード、徳間JAPANより2枚のフル・アルバムとライブDVDを発表。					
授業の学習 内容	①「BANDアンサンブルをテーマに、プロフェッショナルな現場での急なアレンジや自身の演奏スタイルの応用までを習得する。」 ②「各パートの授業、理論の実践の場。」 ③「瞬発的なアンサンブルやアレンジの対応を求められる事で、自身の演奏課題が明確になる事。(アンサンブル力・楽器演奏力)この二つがプロフェッショナルとして通用するための課題が明確になり、それらを勉強・実践する事により、ステージや録音現場で堂々と演奏が出来き、自信に繋がっていく場になって欲しい。」 ①～③をふまえ、課題曲を中心に、みんなで演奏をする事、その結果どうなったかを録音し、みんなでチェックをする。リズム・ハーモニー・メロディー、これらのテーマを各楽器がどう考え、何に気をつけながら演奏しなければいけないのかをみんなで考察する。他パートが何を考えているのか、どう変化すればどの様なアンサンブルが生まれるのかをみんなで考える事により、自然とアンサンブルやバンド・アレンジに対する意識を各ミュージシャンが身につけてほしい。					
到達目標	①急なアレンジの変更・楽曲の提示に対応する事により、自身の楽器演奏レベルの向上、授業の実践をする事から自身の目標をさらに明確にする。 ②アンサンブル・アレンジに対するチームワーク意識と大切さを持ってもらう。 ③インストゥルメンタル・ミュージックとヴォーカルのためのアンサンブルの違いをこの授業から理解し、状況によりコントロール出来るようになる。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	この授業の説明とチームの振り分け	共有された課題曲を事前に全曲聞く
2		演習	課題曲①を使つてのアンサンブル/前半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
3		講義	①のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・バンドアンサンブルに必要な担当楽器のセルフアレンジ力の幅を広げるためのトレーニング
4		演習	課題曲を使つてのアンサンブル/後半	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
5		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
6		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
7		演習	課題曲を使つてのアンサンブル②	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
8		講義	②のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
9		講義	②のアレンジの考察と主にハーモニー・リアレンジ	・リズムキープ練習 ・アレンジの分析 ・リズムパターンの引き出しを増やす
10		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
11		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか?を研究
12		演習	課題曲を使つてのアンサンブル③(課題曲まとめ)	課題曲のアレンジ発表
13		演習	課題曲を使つてのアンサンブル④(課題曲まとめ)	課題曲のアレンジ発表
14		講義	前期項目の総復習	前期未達成項目の復習
15		テスト	期末テスト実施と復習	前期未達成項目の復習
準備学習 時間外学習			スキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	セッションアレンジゼミ 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	村田 隆 行
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2		
教員の略歴	鳴瀬善博・IKUO・村田、3人のベーストによるユニット「THE CHOPPERS REVOLUTION」を結成し、キングレコード、徳間JAPANより2枚のフル・アルバムとライブDVDを発表。						
授業の学習 内容	<p>①「前期よりもリズム、コード感に特化し、プロフェッショナルな現場での急なアレンジや自身の演奏スタイルの応用までを習得する。」</p> <p>②「各パートの授業、理論の実践の場。」</p> <p>③「瞬発的なアンサンブルやアレンジの対応を求められる事で、自身の演奏課題が明確になる事。(アンサンブル力・楽器演奏力)この二つがプロフェッショナルとして通用するための課題が明確になり、それらを勉強・実践する事により、ステージや録音現場で堂々と演奏が出来き、自信に繋がっていく場になって欲しい。」</p> <p>①～③をふまえ、課題曲を中心に、みんなで演奏をする事、その結果どうなったかを録音し、みんなでチェックをする。リズム・ハーモニー・メロディー、これらのテーマを各楽器がどう考え、何に気をつけながら演奏しなければいけないのかをみんなで考察する。他パートが何を考えているのか、どう変化すればどの様なアンサンブルが生まれるのかをみんなで考える事により、自然とアンサンブルやバンド・アレンジに対する意識を各ミュージシャンが身につけてほしい。</p>						
到達目標	<p>①急なアレンジの変更・楽曲の提示を対応する事により、自身の楽器演奏レベルの向上、授業の実践をする事から自身の目標をさらに明確にする。</p> <p>②アンサンブル・アレンジに対するチームワーク意識と大切さを持ってもらう。</p> <p>③インストゥルメンタル・ミュージックとヴォーカルのためのアンサンブルの違いをこの授業から理解し、状況によりコントロール出来るようになる。</p>						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	前期の振り返り	後期の予習
2		演習	課題曲①を使っのアンサンブル/前半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
3		講義	①のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・バンドアンサンブルに必要な担当楽器のセルフアレンジ力の幅を広げるためのトレーニング
4		演習	課題曲を使っのアンサンブル/後半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・リズムパターンの引き出しを増やす
5		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
6		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
7		演習	課題曲を使っのアンサンブル②	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
8		演習	②のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・リズムキープ練習・アレンジの分析・リズムパターンの引き出しを増やす
9		演習	②のアレンジの考察と主にハーモニー・リアレンジ	・リズムキープ練習・アレンジの分析・リズムパターンの引き出しを増やす
10		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
11		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
12		演習	課題曲を使っのアンサンブル③(課題曲まとめ)	課題曲のアレンジ発表
13		演習	課題曲を使っのアンサンブル④(課題曲まとめ)	課題曲のアレンジ発表
14		講義	後期項目の総復習	後期未達成項目の復習
15		テスト	期末テスト実施と復習	後期未達成項目の復習
準備学習 時間外学習			スキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Low-Codeクリエイターゼミ 1	必修 選択	スーパーエンターテイメント科:必修 音楽テクノロジー科:選択	年次	1	担当教員	前田 誠
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部ー	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	Microsoft MVP (Business Applications 2019 - 2021) 元SE(C#メイン)。現在はフリーランスとなり Power Apps のトレーニングや技術支援を提供。週1でコミュニティ活動も。						
授業の学習 内容	Power Apps を利用したアプリ作成の基礎を学んでいきます。 ツールの使い方のみならず、アプリの改良の考え方や、機能作成の優先順位付けなど、アプリの継続的な利用、改善改修に必要な知識の習得も行います。 自身が必要なアプリを自ら作り出す能力を持って、今後のあらゆる自己活動に役立てることができます。						
到達目標	以下の3点が達成できるようになることを目標としている。 (1)Power Apps で基礎的なアプリを作成できる。 (2)簡単なPower Automate フローを作成し、Power Apps と連携させる。 (3)効果的なアプリの作成と利活用のためのプログラマ的思考能力を身につける。						
評価方法及び基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Microsoft スペシャルセッション 【Power Apps】基礎知識を理解し、学習意義を確認する。	Power Apps 学習に対する感想を提出
2		講義・演習	【Power Apps】アプリの取り扱い方法を理解する。 【Power Apps】アプリの作成画面について、基本操作を理解する口	基本UIが挿入されたアプリを提出口
3		講義・演習	【Power Apps】UIを模倣し、UI構築方法を理解する。	知っている、利用しているアプリが模倣できるか考えてみる。作成したアプリを提出。
4		講義・演習	【Power Apps】UI構築方法の確認と、その他の利用方法について理解する。 【Power Apps】Power Apps が扱うデータ型を理解する。	UI構築に関する振り返り問題に取り組む。 データ型に関する振り返り問題に取り組む。
5		講義・演習	【Power Apps】コレクション、テーブルについて理解する。 【Power Apps】PRアプリ作成 アプリ概要とアプリ構築イメージ、習得スキルを確認する。	コレクションに関する振り返り問題に取り組む。アプリ作成方法について、各自可能な限り手順を考えてみる。
6		講義・演習	【Power Apps】PRアプリ作成を通して、動画埋め込みについて理解する。 【Power Apps】PRアプリ作成を通して、コレクションの扱いについて理解する。	PRしたいYoutube動画のURLを各自まとめておくこと。コレクションに関する振り返り問題に取り組む。
7		講義・演習	【Power Apps】PRアプリ作成を通して、ギャラリーについて理解する。 【Power Apps】PRアプリ作成を通して、画面間の値の引き渡しについて理解する。	ギャラリーに関する振り返り問題に取り組む。
8		講義・演習	【Power Apps】PRアプリを使用して、アプリの改良点を探す。改善眼を身につける。 【Power Apps】PRアプリ作成を振り返り、各スキルの詳細や応用を理解する。	改善点リストを提出 PRアプリ作成に関する振り返り問題に取り組む。
9		講義・演習	【Power Apps】アプリのライフサイクルについて理解する。 【Power Apps】楽曲データ管理アプリ作成 アプリ概要とアプリ構築イメージ、習得スキルを確認する。	アプリライフサイクルに関する振り返り問題に取り組む。アプリ作成方法について、各自可能な限り手順を考えてみる。
10		講義・演習	【Power Apps】楽曲データ管理アプリ作成を通して、フォームでのデータ登録とデータの一覧表示を理解する。 レコードの編集、削除を理解する。	データ登録とデータの一覧表示に関する振り返り問題に取り組む。楽曲データ管理アプリに関する振り返り問題に取り組む。
11		講義・演習	【Power Apps】楽曲データ管理アプリ作成を通して、ソートとフィルタリングを理解する。 【Power Apps】楽曲データ管理アプリ作成を使用して、アプリの改良点を探す。改善眼を身につける。	作成したアプリを提出
12		講義・演習	【Power Apps】楽曲データ管理アプリ作成を振り返り、各スキルの詳細や応用を理解する。 【Power Apps】変数について理解する。	楽曲データ管理アプリに関する振り返り問題に取り組む。
13		講義・演習	【Power Apps】アンケートアプリ作成 アプリ概要とアプリ構築イメージ、習得スキルを確認する。 試験を行い、習熟度を確認する。	アプリ作成方法について、各自可能な限り手順を考えてみる。
14		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」に関して活用できるアプリの設計プランについて	
15		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」に関して活用できるアプリの設計プランのプレゼンテーション	
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Low-Codeクリエイターゼミ 1	必修 選択	スーパーeエンターテイメント科:必修 音楽テクノロジー科:選択	年次	1	担当教員	前田 誠
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	Microsoft MVP (Business Applications 2019 - 2021) 元SE(C#メイン)。現在はフリーランスとなり Power Apps のトレーニングや技術支援を提供。週1でコミュニティ活動も。						
授業の学習 内容	Power Apps を利用したアプリ作成の基礎を学んでいきます。 ツールの使い方のみならず、アプリの改良の考え方や、機能作成の優先順位付けなど、アプリの継続的な利用、改善改修に必要な知識の習得も行います。 自身が必要なアプリを自ら作り出す能力を持って、今後のあらゆる自己活動に役立てることができます。						
到達目標	以下の3点が達成できるようになることを目標としている。 (1)Power Apps で基礎的なアプリを作成できる。 (2)簡単なPower Automate フローを作成し、Power Apps と連携させる。 (3)効果的なアプリの作成と利活用のためのプログラマ的思考能力を身につける。						
評価方法及び基準	1)定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	【Power Apps】アンケートアプリ作成を通して、フォームのコントロール変更を理解する。フォームのUI改良方法を理解する。		フォーム改良に関する振り返り問題に取り組む。□	
2		講義・演習	【Power Apps】アンケートアプリ作成を通して、UIの見た目改良方法を理解する。 【Power Apps】アンケートアプリ作成を使用して、アプリの改良点を探す。改善眼を身につける。□		作成したアプリを提出。改善点リストを提出。	
3		講義・演習	【Power Apps】アンケートアプリ作成を振り返り、各スキルの詳細や応用を理解する。 アンケートアプリ活用版作成 アプリ概要とアプリ構築イメージ。習得スキルを確認する。		アンケートアプリに関する振り返り問題に取り組む。 アプリ作成方法について、各自可能な限り手順を考えてみる。	
4		講義・演習	【Power Automate】感情分析フロー作成を通して、フローの作成を理解する。 【Power Automate】感情分析フロー作成を通して、API活用を理解する。		フローに関する振り返り問題に取り組む。 作成したフローを提出	
5		講義・演習	【Power Apps】アンケートアプリAI活用版作成を通して、フローとの連携を理解する。 【Power Apps】アンケートアプリAI活用版作成を通して、条件分岐を理解する。		フロー呼び出しに関する振り返り問題に取り組む。 作成したアプリを提出	
6		講義・演習	【Power Apps】アンケートアプリAI活用版作成を使用して、アプリの改良点を探す。改善眼を身につける。 アンケートアプリAI活用版作成を振り返り、各スキルの詳細や応用を理解する。		改善点リストを提出 アンケートアプリAI活用版に関する振り返り問題に取り組む。	
7		講義・演習	【Power Apps】イベント用アプリ作成 進行手順説明 【Power Apps】イベント用アプリ作成 チーム分けと役割分担、作成アプリの方針を決定する。		アプリの構想を練ってくること 作成方針を提出	
8		講義・演習	【Power Apps】イベント用アプリ作成 アプリ概要の策定し、方法を理解する。 【Power Apps】イベント用アプリ作成 シンプルなデータ設計を行い、方法を理解する。		アプリ概要文を提出 データ設計表を提出	
9		講義・演習	【Power Apps】イベント用アプリ作成 画面設計を行い、方法を理解する。 【Power Apps】イベント用アプリ作成 UIの作成を行う。習得スキルを実践する。		作成進捗状況を提出	
10		講義・演習	【Power Apps】イベント用アプリ作成 基本機能の実装を行う。習得スキルを実践する。 【Power Apps】イベント用アプリ作成 オプション機能の実装を行う。習得スキルを実践する。		作成進捗状況を提出	
11		講義・演習	【Power Apps】イベント用アプリ作成 機能の改良を行う。習得スキルを実践する。		Ver1として作成したアプリを提出	
12		講義・演習	【Power Apps】イベント用アプリ作成 動作確認し、アプリを完成する。 【Power Apps】イベント用アプリ作成 他のチームのアプリを参考に、アプリの改良点を探す。		作成進捗状況を提出	
13		講義・演習	【Power Apps】イベント用アプリ作成を振り返り、各アプリの実装を理解し、改良アイデア、UIアイデアを共有する。試験を行い、習熟度を確認する。		改善点リストを提出	
14		講義・演習	卒業進級制作展にて活用できるアプリの制作プラン考案について			
15		講義・演習	卒業進級制作展にて活用できるアプリの制作プランのプレゼンテーションについて			
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。			
【使用教科書・教材・参考書】						

科目名	映像クリエイターゼミ1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	唐澤 淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 屋間部一	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	60 ()		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション、イベント制作会社勤務。						
授業の学習 内容	映像素材が必須になりつつある現代で、映像の編集スキルを身につけ、クリエイターとしてセルフプロモーションに使えるようになる。また、それらを使うためのプラットフォームやマーケットの知識も身につけ、活用できるようになる。						
到達目標	以下の3点が達成出来るようになることを目標としている。 (1) Adobe Premiere Proの基本的な使い方取得と応用 (2) Adobeソフトウェアの基本スキル取得 (3) セルフプロモーションに必要な情報の取得とスキルアップ						
評価方法と基準	1. 実技試験(%) : 50% 3. 課題(%) : 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業の概要／オリエンテーション	
2		講義・演習	PremierePro 使い方とリリックビデオ	PremiereProの使い方について復習
3		講義・演習	リリックビデオ制作プラン考案	実習に向けての素材収集
4		講義・演習	リリックビデオ制作実習	制作作業及びプレゼン資料作成
5		講義・演習	リリックビデオ制作作品プレゼン	作品フィードバックのアンケート回答
6		講義・演習	動画編集方法	編集方法についての復習
7		講義・演習	クロマキー映像	
8		講義・演習	実験動画作成について	制作実習に向けた素材収集
9		講義・演習	実験動画作成	制作作業及びプレゼン資料作成
10		講義・演習	実験動画作成作品プレゼン	作品フィードバックのアンケート回答
11		講義・演習	自分のPV作成プラン考案	制作実習に向けた素材収集
12		講義・演習	自分のPV作成実習	制作作業及びプレゼン資料作成
13		テスト	自分のPV作成作品プレゼン	作品フィードバックのアンケート回答
14		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」15秒スポットムービー制作①	
15		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」15秒スポットムービー制作②	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	映像クリエイターゼミ2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	唐澤 淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	60 ()		
教員の略歴	アーティストマネジメントにおけるプロモーション、イベント制作会社勤務。						
授業の学習 内容	映像素材が必須になりつつある現代で、映像の編集スキルを身につけ、クリエイターとしてセルフプロモーションに使えるようになる。また、それらを使うためのプラットフォームやマーケットの知識も身につけ、活用できるようになる。						
到達目標	以下の3点が達成出来るようになることを目標としている。 (1) Adobe Premiere Proの基本的な使い方取得と応用 (2) Adobe After Effectsの基本的な使い方取得と応用 (3) セルフプロモーションに必要な情報の取得とスキルアップ						
評価方法と基準	1. 実技試験(%) : 50% 2. 筆記試験(%) : 0% 3. 課題(%) : 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	配信用素材制作プランの構築	配信用動画制作素材収集
2		講義・演習	配信用素材制作実習①	制作作業及びプレゼン資料作成
3		講義・演習	配信用素材制作実習②	制作作業及びプレゼン資料作成
4		講義・演習	配信用素材制作作品プレゼン	作品フィードバックのアンケート回答
5		講義・演習	After Effect関連の基礎	
6		講義・演習	After Effect関連の操作方法について	操作方法についての復習
7		講義・演習	After Effect関連の機能の理解及び操作演習	機能理解及び操作に慣れる
8		講義・演習	After Effect関連のデモ作品実習①	制作作業及びプレゼン資料作成
9		講義・演習	After Effect関連のデモ作品実習②	制作作業及びプレゼン資料作成
10		講義・演習	After Effectのデモ作品フィードバック	作品フィードバックのアンケート回答
11		講義・演習	自分のPV作成プラン構築及び制作作業	PV作成用動画素材収集
12		講義・演習	自分のPV制作	制作作業及びプレゼン資料作成
13		テスト	自分のPV作品プレゼンテーション	作品フィードバックのアンケート回答
14		講義・演習	卒業進級制作展15秒OPスポットムービー制作①	
15		講義・演習	卒業進級制作展15秒OPスポットムービー制作②	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	プリプロダクションゼミ 1	必修 選択	選択	年次	1,2,3	担当教員	勝守 理 深井 誠
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴	30年間にわたり作編曲家、プロデューサー等に従事						
授業の学習 内容	実際にクライアントさんから発注を頂いた案件を授業枠の中で少人数のグループを組み試行錯誤しながら進めていき作品を完成させる。						
到達目標	発注を頂いたクライアントさんからの採用をコンペで勝ち取る作品を作る。その過程の中で今の音楽業界で本当に必要とされる制作能力、プロデュース能力、作曲能力、作詞能力、編曲能力、グループワークの実践力、コミュニケーション能力、などを身につける。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%) ※3回のコンペの成績(優勝、準優勝、佳作、提出、未提出)+夏休み課題提出の合計点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業内容ガイダンス、第1クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
2		講義・演習	第1クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
3		講義・演習	第1クール実習2	第1クールコンペに向けて録音、ミックス
4		講義・演習	第1クールコンペ、第2クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
5		講義・演習	第2クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
6		講義・演習	第2クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
7		講義・演習	第2クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
8		講義・演習	第2クールコンペ、第3クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
9		講義・演習	第3クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
10		講義・演習	第2クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
11		講義・演習	第2クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
12		試験	第3クールコンペ、夏休み課題発注、チーム分け	夏休み課題制作
13		講義・演習	夏休み課題発表	作品の管理とまとめ
14		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEを第2クールのチームにてコライトを活用して作成	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
15		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のBGMを第2クールのチームにてコライトを活用して作成	ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	プリプロダクションゼミ 2	必修 選択	選択	年次	1,2,3	担当教員	勝守 理 深井 誠
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴	30年間にわたり作編曲家、プロデューサー等に従事						
授業の学習 内容	実際にクライアントさんから発注を頂いた案件を授業枠の中で少人数のグループを組み試行錯誤しながら進めていき作品を完成させる。						
到達目標	発注を頂いたクライアントさんからの採用をコンペで勝ち取る作品を作る。その過程の中で今の音楽業界で本当に必要とされる制作能力、プロデュース能力、作曲能力、作詞能力、編曲能力、グループワークの実践力、コミュニケーション能力、などを身につける。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%) <input type="checkbox"/> ※3回のコンペの成績(優勝、準優勝、佳作、提出、未提出)+夏休み課題提出の合計点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	第4クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
2		講義・演習	第4クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
3		講義・演習	第4クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
4		講義・演習	第4クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
5		講義・演習	第4クールコンペ、第5クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
6		講義・演習	第5クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
7		講義・演習	第5クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
8		講義・演習	第5クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
9		講義・演習	第5クールコンペ、第6クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
10		講義・演習	第6クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
11		講義・演習	第6クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
12		講義・演習	第6クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
13		試験	第6クールコンペ、春休み課題発注、チーム分け	作品の管理とまとめ
14		講義・演習	卒業制作展においてSE制作を第5クールのチームにてコライトを活用して行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
15		講義・演習	卒業制作展においてBGM制作を第5クールのチームにてコライトを活用して行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	セルフプロデュース 1	必修 選択	選択	年次	2.3	担当教員	藤井文司
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	90 6単位		
教員の略歴	プロデュース、アレンジ、ソングライティング、ギターなど、80年代中頃よりシンセサイザー・プログラマーとしてキャリアをスタートし、YMO、サザンオールスターズ等の作品に参加する。様々な分野で才能をマルチに発揮する日本を代表するアーティスト。						
授業の学習 内容	「セルフプロデュース」は、自分のための音楽制作全般を学べる講座です。 年間でオリジナル楽曲(作詞/作曲/アレンジ/歌入れ/ミックス)を6曲提出します。 そして提出した楽曲は、エンジニアコース/マネジメントコース/ボーカルコースの学生と合同の総選挙を行い、毎回ランキングを決めます。また「ソフトシンセの使い方」「J-POPの歴史」も授業として行います。歴史の授業の詳細は、最初の授業の時にスケジュールを渡します。						
到達目標	「プリプロ」のようにクライアントからのOKではなく、同じ学校の同世代から支持される楽曲を作る。						
評価方法と基準	定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	ガイダンスと自分の好きな曲発表	
2		講義	アコギソフトの使い方① 歴史①	オリジナル曲制作
3		講義	アコギソフトの使い方② 歴史②	オリジナル曲制作
4		講義	アコギソフトの使い方③ 歴史③	オリジナル曲制作
5		演習	制作日	オリジナル曲制作
6		発表	第1回発表	
7		講義	ドラムの打ち込み方① 歴史④	オリジナル曲制作
8		講義	ドラムの打ち込み方② 歴史⑤	オリジナル曲制作
9		講義	ドラムの打ち込み方③ 歴史⑥	オリジナル曲制作
10		演習	制作日	オリジナル曲制作
11		発表	第2回発表	
12		発表	第3回発表	
13		講義	アナログシンセの使い方① 歴史⑦	オリジナル曲制作
14		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
15		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成	ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	セルフプロデュース 2	必修 選択	選択	年次	2.3	担当教員 藤井文司
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	90 6単位	
教員の略歴	プロデュース、アレンジ、ソングライティング、ギターなど、80年代中頃よりシンセサイザー・プログラマーとしてキャリアをスタートし、YMO、サザンオールスターズ等の作品に参加する。様々な分野で才能をマルチに発揮する日本を代表するアーティスト。					
授業の学習 内容	「セルフプロデュース」は、自分のための音楽制作全般を学べる講座です。 年間でオリジナル楽曲(作詞/作曲/アレンジ/歌入れ/ミックス)を6曲提出します。 そして提出した楽曲は、エンジニアコース/マネジメントコース/ボーカルコースの学生と合同の総選挙を行い、毎回ランキングを決めます。また「ソフトシンセの使い方」「J-POPの歴史」も授業として行います。歴史の授業の詳細は、最初の授業の時にスケジュールを渡します。					
到達目標	「プリプロ」のようにクライアントからのOKではなく、同じ学校の同世代から支持される楽曲を作る。					
評価方法と基準	定期テスト(実技試験:100%)					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	アナログシンセの使い方② 歴史⑧	オリジナル曲制作
2		演習	制作日	オリジナル曲制作
3		発表	第4回発表	
4		講義	アナログシンセの使い方③ 歴史⑨	オリジナル曲制作
5		講義	アナログシンセの使い方④ 歴史⑨	オリジナル曲制作
6		講義	ボイスチョップの使い方① 歴史⑩	オリジナル曲制作
7		講義	ボイスチョップの使い方② 歴史⑪	オリジナル曲制作
8		演習	制作日	オリジナル曲制作
9		発表	第5回発表	
10		講義	EDMの作り方① 歴史⑫	オリジナル曲制作
11		講義	EDMの作り方① 歴史⑬	オリジナル曲制作
12		演習	制作日	オリジナル曲制作
13		発表	第6回発表 歴史⑦	
14		講義・演習	卒業制作展においてSE制作を行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
15		講義・演習	卒業制作展においてBGM制作を行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Music Production Techniques for Engineer/Producer 1	必修 選択	選択	年次	2,3	担当教員	競 紀行
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・実習・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴	一口坂スタジオにて本格的にエンジニアとしてのキャリアをスタート、その後バイエフブイスタジオを拠点に膨大な数の名作を世に送り出して来た。アナログ、デジタル機器を有効に使い分けた素早い作業が得意、柔軟な発想でミキシングでは独自の世界観を放つ。ロックバンドのサウンドメイクには定評があり、様々なアーティストから厚い信頼を寄せているエンジニアプロデューサー。						
授業の学習 内容	①音楽制作に於けるレコーディング及びミキシングプロダクションを、現場を想定したスタジオワークより学ぶ。 ②レコーディングエンジニアとして求められるスピーディーな録音技術や、クリエイティブなサウンドメイクはもちろん、スタジオワークを通じた共同作業によるチームワーク、コミュニケーション能力なども学ぶ。						
到達目標	①現場を想定した様々なスタジオワークを通じて、レコーディングエンジニアとして必要なスピーディーなオペレート能力及びサウンドメイクを身に付ける。 ②レコーディングエンジニアとしてだけでなく、音楽プロデューサーとしての考え方、視点、音楽制作能力なども身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記30% 実技70%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義と実習	レコーディングプロダクションについて	レコーディングプロダクションについて、振り返りレポート作成。
2		講義と実習	ドラムレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解	ドラムレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解、振り返りレポート作成。
3		講義と実習	ドラムレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリング/バランスおよびProToolsオペレートの習得	ドラムレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリング/バランスおよびProToolsオペレートの習得、振り返りレポート作成。
4		講義と実習	ベースレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解	ベースレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解、振り返りレポート作成。
5		講義と実習	ベースレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリング/バランスおよびProToolsオペレートの習得	ベースレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリング/バランスおよびProToolsオペレートの習得、振り返りレポート作成。
6		講義と実習	ギターレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解	ギターレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解、振り返りレポート作成。
7		講義と実習	ギターレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリング/バランスおよびProToolsオペレートの習得	ギターレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリング/バランスおよびProToolsオペレートの習得、振り返りレポート作成。
8		講義と実習	キーボードについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解	キーボードについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解、振り返りレポート作成。
9		講義と実習	キーボードについて ・実践を通じて、モニタリング/バランスおよびProToolsオペレートの習得	キーボードについて ・実践を通じて、モニタリング/バランスおよびProToolsオペレートの習得、振り返りレポート作成。
10		講義と実習	ヴォーカルレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解	ヴォーカルレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解、振り返りレポート作成。
11		講義と実習	ヴォーカルレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリング/バランスおよびProToolsオペレートの習得	ヴォーカルレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリング/バランスおよびProToolsオペレートの習得、振り返りレポート作成。
12		講義と実習	バンドレコーディングについて ・実践を通じてこれまでのエンジニアリング技術を発揮しながらプロダクションワークを遂行する。	バンドレコーディングについて ・実践を通じてこれまでのエンジニアリング技術を発揮しながらプロダクションワークを遂行する。、振り返りレポート作成。
13		試験	メイン及びアシスタントエンジニアをロールプレイングしながら、バンドレコーディングを実践。実技試験を行う。	メイン及びアシスタントエンジニアをロールプレイングしながら、バンドレコーディングを実践。実技試験を行う。、振り返りレポート作成。
14		講義と演習	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について、ビッグバンドのレコーディング技術について	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について、ビッグバンドのレコーディング技術について 振り返りと自習
15		講義と演習	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Music Production Techniques for Engineer/Producer 2	必修 選択	選択	年次	2.3	担当教員	競 紀行
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・実習・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴	一口坂スタジオにて本格的にエンジニアとしてのキャリアをスタート、その後ブイエフイスタジオを拠点に膨大な数の名作を世に送り出して来た。アナログ、デジタル機器を有効に使い分けた素早い作業が得意、柔軟な発想でミキシングでは独自の世界観を放つ。ロックバンドのサウンドメイクには定評があり、様々なアーティストから厚い信頼を寄せているエンジニアプロデューサー。						
授業の学習 内容	①音楽制作に於けるレコーディング及びミキシングプロダクションを、現場を想定したスタジオワークより学ぶ。 ②レコーディングエンジニアとして求められるスピーディーな録音技術や、クリエイティブなサウンドメイクはもちろん、スタジオワークを通じた共同作業によるチームワーク、コミュニケーション能力なども学ぶ。						
到達目標	①現場を想定した様々なスタジオワークを通じて、レコーディングエンジニアとして必要なスピーディーなおべレート能力及びサウンドメイクを身に付ける。 ②レコーディングエンジニアとしてだけでなく、音楽プロデューサーとしての考え方、視点、音楽制作能力なども身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記30% 実技70%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義と実習	ミックスプロダクションについて		
2		講義と実習	アナログ機材とプラグインについて ・エフェクターの機械構造及びプラグインとの差異について		
3		講義と実習	DSPフォーマットとNativeフォーマットの仕組みと性質について		
4		講義と実習	ドラムのミックス処理について ・楽曲ジャンル及び素材に適したダイナミクス、EQ、空間処理の理解と実践		ドラムの課題素材に基づいて復習
5		講義と実習	ベースのミックス処理について ・楽曲ジャンル及び素材に適したダイナミクス、EQ、空間処理の理解と実践		ベースの課題素材に基づいて復習
6		講義と実習	ギターのミックス処理について ・楽曲ジャンル及び素材に適したダイナミクス、EQ、空間処理の理解と実践		ギターの課題素材に基づいて復習
7		講義と実習	キーボードのミックス処理について ・楽曲ジャンル及び素材に適したダイナミクス、EQ、空間処理の理解と実践		キーボードの課題素材に基づいて復習
8		講義と実習	ヴォーカルのミックス処理について ・楽曲ジャンル及び素材に適したダイナミクス、EQ、空間処理の理解と実践		ヴォーカルの課題素材に基づいて復習
9		講義と実習	ミックスバランス及びトータル処理について① ・リファレンスレベルとダイナミクスについて、マスターEQ、COMPの概念と処理について		課題素材を元に時間外にて復習
10		講義と実習	ミックスバランス及びトータル処理について② ・音楽的ミックスとオートメーションについて		課題素材を元に時間外にて復習
11		講義と実習	マスタリングの基本概念とプロダクションについて		
12		講義と実習	マスタリングに於けるダイナミクス処理について		課題素材を元に時間外にて復習
13		テスト	ミックス及びマスタリングプロダクションについて学んだことを活かし、プロデューサー的視点と感性の元、課題曲のミックス及びマスタリング作品を提出		ポートフォリオ作成
14		講義と演習	卒業進級制作のライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について		卒業進級制作のライブレコーディングに向けたシステム構築及びProToolsセッション作成について 振り返りと自習
15		講義と演習	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について		卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Funk Ensemble 1 Funk Ensemble 1-1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 遠藤 敬 三 田原 佑 一朗
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。					
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	最近のFUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	初回アンサンブル曲について譜面と音源を参考に予習しておく。FUNKの名曲を調べてノートにまとめ
2		演習	最近のFUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	70年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	70年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	70年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	70年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	70年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	70年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
9		演習	80年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
10		演習	80年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
11		演習	80年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
12		演習	80年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
13		演習	80年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
14		演習	80年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのFUNKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Funk Ensemble 1 Funk Ensemble 2-1	必修 選択	選択	年次	3	担当教員 遠藤 敬 三 田原 佑 一朗
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。					
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	最近のFUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	初回アンサンブル曲について譜面と音源を参考に予習しておく。FUNKの名曲を調べてノートにまとめ
2		演習	最近のFUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	70年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	70年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	70年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	70年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	70年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	70年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
9		演習	80年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
10		演習	80年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
11		演習	80年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
12		演習	80年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
13		演習	80年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
14		演習	80年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのFUNKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Funk Ensemble 2 Funk Ensemble 1-2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 遠藤 敬 三 田原 佑 一朗
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。					
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)	
1		演習	90年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
2		演習	90年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
3		演習	90年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
4		演習	90年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
5		演習	90年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
6		演習	90年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
7		演習	イベント発表に向けた課題曲についてアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
8		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。		
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。		
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。		
11		演習	数十バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。		
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。		
13		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。		
14		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。		
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成		
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのFUNKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。			
【使用教科書・教材・参考書】						

科目名	Funk Ensemble 2 Funk Ensemble 2-2	必修 選択	選択	年次	3	担当教員 遠藤 敬 三 田原 佑 一朗
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。					
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)	
1		演習	90年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
2		演習	90年代初期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
3		演習	90年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
4		演習	90年代中期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
5		演習	90年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
6		演習	90年代後期FUNKの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
7		演習	イベント発表に向けた課題曲についてアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。		
8		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。		
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。		
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。		
11		演習	数バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。		
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。		
13		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。		
14		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。		
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成		
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのFUNKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。			
【使用教科書・教材・参考書】						

科目名	Rock Ensemble 1 Rock Ensemble 1-1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 潤 豊 大渡 亮
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。					
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。					
方法と基準	実技による採点100%					

授業 計画・ 内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)	
1		演習	50年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		初回アンサンブル曲について譜面と音源を参考に予習しておく。FUNKの名曲を調べてノートにまとめ	
2		演習	50年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
3		演習	60年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
4		演習	60年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
5		演習	70年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
6		演習	70年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
7		演習	70年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
8		演習	70年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
9		演習	70年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
10		演習	70年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
11		演習	80年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
12		演習	80年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
13		演習	80年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
14		演習	80年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習		1~14をまとめてレポート作成	
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのROCKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。			
【使用教科書・教材・参考書】						

科目名	Rock Ensemble 1 Rock Ensemble 2-1	必修 選択	選択	年次	3	担当教員 潤 豊 大渡 亮
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。					
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。					
方法と基準	実技による採点100%					

授業 計画・ 内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)	
1		演習	50年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		初回アンサンブル曲について譜面と音源を参考に予習しておく。FUNKの名曲を調べてノートにまとめ	
2		演習	50年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
3		演習	60年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
4		演習	60年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
5		演習	70年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
6		演習	70年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
7		演習	70年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
8		演習	70年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
9		演習	70年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
10		演習	70年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
11		演習	80年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
12		演習	80年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
13		演習	80年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
14		演習	80年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。		授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習		1~14をまとめてレポート作成	
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのROCKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。			
【使用教科書・教材・参考書】						

科目名	Rock Ensemble 2 Rock Ensemble 1-2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 潤 豊 大渡 亮
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。					
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	80年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
2		演習	80年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	90年代中期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	イベント発表に向けた課題曲についてアンサンブルを行う。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。
11		演習	数十バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。
13		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。
14		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのROCKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Rock Ensemble 2 Rock Ensemble 2-2	必修 選択	選択	年次	3	担当教員 潤 豊 大渡 亮
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。					
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	80年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
2		演習	80年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	90年代中期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	イベント発表に向けた課題曲についてアンサンブルを行う。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。
11		演習	数十バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。
13		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。
14		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのROCKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Soul &Pops Ensemble 1 Soul &Pops Ensemble 1-1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 加藤 エレナ 田原 佑一朗
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。					
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	最近のSoulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	初回アンサンブル曲について譜面と音源を参考に予習しておく。FUNKの名曲を調べてノートにまとめ
2		演習	最近のSoulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	70年代初期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	70年代初期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	70年代中期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	70年代中期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	70年代後期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	70年代後期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
9		演習	80年代初期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
10		演習	80年代初期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
11		演習	80年代中期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
12		演習	80年代中期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
13		演習	80年代後期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
14		演習	80年代後期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのSOUL、POPSスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Soul &Pops Ensemble 1 Soul &Pops Ensemble 2-1	必修 選択	選択	年次	3	担当教員 加藤 エレナ 田原 佑一朗
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。					
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	最近のSoulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	初回アンサンブル曲について譜面と音源を参考に予習しておく。FUNKの名曲を調べてノートにまとめ
2		演習	最近のSoulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	70年代初期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	70年代初期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	70年代中期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	70年代中期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	70年代後期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	70年代後期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
9		演習	80年代初期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
10		演習	80年代初期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
11		演習	80年代中期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
12		演習	80年代中期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
13		演習	80年代後期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
14		演習	80年代後期Soulの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのSOUL、POPSスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Soul & Pops Ensemble 2 Soul & Pops Ensemble 1-2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 加藤 エレナ 田原 佑一朗
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。					
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
2		演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	90年代中期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	90年代中期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	イベント発表に向けた課題曲についてアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。
11		演習	数十バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。
13		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。
14		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのSOUL、POPSスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Soul & Pops Ensemble 2 Soul & Pops Ensemble 2-2	必修 選択	選択	年次	3	担当教員 加藤 エレナ 田原 佑一朗
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。					
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
2		演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	90年代中期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	90年代中期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	イベント発表に向けた課題曲についてアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。
11		演習	数バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。
13		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。
14		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのSOUL、POPSスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	R&B Ensemble 1 R&B Ensemble 1-1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 國末 慶宏 前田 逸平
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。					
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	最近のR&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	初回アンサンブル曲について譜面と音源を参考に予習しておく。FUNKの名曲を調べてノートにまとめ
2		演習	最近のR&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	70年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	70年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	70年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	70年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	70年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	70年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
9		演習	80年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
10		演習	80年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
11		演習	80年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
12		演習	80年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
13		演習	80年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
14		演習	80年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのR&Bスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	R&B Ensemble 1 R&B Ensemble 2-1	必修 選択	選択	年次	3	担当教員 國末 慶宏 前田 逸平
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。					
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	最近のR&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	初回アンサンブル曲について譜面と音源を参考に予習しておく。FUNKの名曲を調べてノートにまとめ
2		演習	最近のR&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	70年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	70年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	70年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	70年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	70年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	70年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
9		演習	80年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
10		演習	80年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
11		演習	80年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
12		演習	80年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
13		演習	80年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
14		演習	80年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのR&Bスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	R&B Ensemble 2 R&B Ensemble 1-2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 國末 慶宏 前田 逸平
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。					
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	90年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
2		演習	90年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	90年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	90年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	90年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	90年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	イベント発表に向けた課題曲についてアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。
11		演習	数バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。
13		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。
14		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのR&Bスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	R&B Ensemble 2 R&B Ensemble 2-2	必修 選択	選択	年次	3	担当教員 國末 慶宏 前田 逸平
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	
教員の略歴						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。					
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。					
評価方法と基準	実技による採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	90年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
2		演習	90年代初期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
3		演習	90年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
4		演習	90年代中期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
5		演習	90年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
6		演習	90年代後期R&Bの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
7		演習	イベント発表に向けた課題曲についてアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。
8		演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。
9		演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。
10		演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。
11		演習	数十バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。
12		演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。
13		演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。
14		演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのR&Bスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				